

京	都	府
<p>1・5 ㊤清沢満之、真宗大学寮(大谷派)において「科学・哲学及び宗教者の関係」と題し講演、今川覚神も「物理学の一斑」につき講演(～11日)。 本山報告 1・15</p> <p>1・16 ㊤里見了念、五条西洞院に平安志学会を設立。</p> <p>1・30 ㊤南条文雄、大雲院(寺町四条)で前年の印度紀行談を披露。 奇日 850</p> <p>2・1 ㊤真宗大谷派僧侶織田得能・善連法彦、シヤムに赴く。 仏家人名辞書</p> <p>2・1 ㊤上京区北門前町に明進学校(浄土宗)を設立。 奇日 854</p> <p>3・13 ㊤三津玄深(青蓮院門跡事務担当)が天台座主の特命で青蓮院門跡に就任。四明 4・24</p> <p>3・31 ㊤東本願寺が、教育の普及を図るため、京都府尋常中学校の維持経費を負担し、同校の委託経営を始める(これまでの真宗大学寮兼学部を同校に併摂する。4・1、開業、三宅直温が校長事務取扱に就任)。 本山報告 4・15、奇日 880</p> <p>4・2 ㊤小山寅之助ら同志社生徒4人、丹波地方で布教。5・12と10・6にはパロス(神戸の宣教師)・黒川幸子(同志社教師)、7・1には中山光五郎・内田政雄(いずれも同志社生徒)、7・3には近藤又三郎(同志社生徒)らが丹波地方で布教。 丹波基督教会史</p> <p>4・10 ㊤東本願寺経営の真宗大学寮専門部別科開業(宗乗・余乗・哲学を教授)。 本山報告 4・15</p> <p>4・25 ㊤福田行誠没、83歳。 知恩院史</p> <p>4・1 ㊤護王神社に和氣講社結成(毎年2回の私祭の費用を4年満期の月掛払込講で集金。明25・5に再組織。同32・4解講)。 護王神社誌</p> <p>5・30 ㊤日野靈端、浄土宗管長に就任(7・22、知恩院に入る)。 官報</p> <p>6・1 ㊤真宗大学林学生、館秀丸・上山潭月が紀伊郡東吉祥院村に、仏教拡張のため英学会を組織。</p> <p>6・1 ㊤西本願寺教学科の天野浩圓、丹波福知山監獄教誨堂開設。 奇日 910</p> <p>6・23 ㊤西本願寺の青年伝道会が『伝道会雑誌』を創刊。 奇日 913</p> <p>6・25 ㊤太秦広隆寺の聖徳太子像を、東京浅草公園大行院で出開帳(80日間)。 奇日 915</p> <p>7・9 ㊤清沢満之が京都府尋常中学校校長に就任。 大谷中高校90年史</p> <p>7・15 ㊤美濃田覚念、京極道場で破邪顕正の仏教演説を行なう。 奇日 918</p>	<p>9・1 ㊤天主教教会⁽¹⁾が河原町三条上ルに2,000平方メートルの土地を購入。 イクテウス 205</p> <p>10・25 ㊤本派本願寺、大学林例を廃し、従来の大教校・普通教校・考究局を廃して二院一寮(考究院・内学院・文学寮)をもって大学林を構成。 竜谷大学300年史</p> <p>10・1 ㊤渋谷真意が真宗仏光寺派管長に就任。 官報</p> <p>12・1 ㊤相楽郡綺田村の阿弥陀寺(浄土宗)の本堂落成。</p> <p>12・1 ㊤渥美契縁が東本願寺執事に就任。 常葉年表</p> <p>12・1 ㊤三村日修が日蓮宗管長に就任。 官報</p> <p>この年 ▷ ㊤東福寺山内善慧院に明暗教会を設立し、同院住持を会長とする(明4・10・21に普化宗が廃止され、宗徒虚無僧は民籍に編入されて洛東大仏明暗寺は廃寺となったが、その本尊を東福寺善慧院に遷座し明18・1再興)。 東福寺誌</p>	

参	考	日	本
(1)	天主教教会：日本カトリック教会。天文18(1549)、ザビエルにより伝来。天正15(1587)、豊臣秀吉が禁止。安政4(1857)、ジラールが来日し、文久2(1862)、横浜に教会を建立。慶応1(1865)には、長崎大浦に26聖人殉教者堂が建てられた。大8(1919)には、駐日教皇使節が派遣され、同13(1924)には、わが国からもバチカン公使を派遣。京都には明6(1873)、イエズス会神父ビゲールが訪ずれたのが最初である。本格的に布教を開始したのは明12(1879)、パリ外国宣教会宣教師のピリオンによる。現在本部は東京都千代田区6番町にある。	<p>1・1 山岡鉄舟・川合清丸ら、大日本国教大道社を結成。神儒仏の3道を合して大道を立て、国体を守るとした。7・25に機関紙『大道叢誌』を創刊。</p> <p>2・3 文部省、高崎正風詞・伊沢修二曲の「紀元節歌」を学校唱歌として府県直轄学校に送付し、以後紀元・天長2節に学校で祝賀式典を挙げるよう内命。</p> <p>2・1 真宗大谷派僧侶織田得能・善連法彦、シヤムに赴く。</p> <p>3・10 植村正久、米英視察に横浜を出帆。</p> <p>4・10 天理教、許可を受けるため、一時本部を形式的に東京へ移し、東京府知事から教会設置を許可される。</p> <p>5・1 日本一致基督教会臨時大会開催。一致教会と組合教会の合同を議す。</p> <p>5・1 佐々木高行・西村茂樹ら、明治会を結成(敬神・尊王・愛国を3大綱領とする。12月『明治会叢誌』創刊、～明30・6、61号)。</p> <p>6・1 井上円了・宮部円成、渡欧。</p> <p>7・19 山岡鉄舟没、53歳。</p> <p>8・29 新井日薩没。</p> <p>11・1 関西学院設立(米南メソジスト系)。</p> <p>この年 ▷ 前橋共愛女学校・岡山山陽女学校・暁星学園、設立。 ▷ シュミデル、新教神学校を設立。 ▷ 島崎藤村、高輪台町教会で受洗。 ▷ 山室軍平、京橋の福音教会で受洗。 ▷ 『東京婦人矯風会雑誌』発刊。 ▷ S.H.ウェンライト(米国メソジスト派宣教師)来日。</p>	

京	都	府
1・4 ㊤北条的門 ⁽¹⁾ 没、82歳(浄土宗大雲院住職、京都真親会設立者)。略伝集		(この日は同会創立4周年で、入会者は4,485人)。奇日 1071
1・19 ㊤明道館員、目賀田栄・脇種熊ら、祇園座で「破邪顕正論」を講演し、同志社大学建立の精神を批判、聴衆約5,000人に及び、祇園座新築以来の群集で賑わう(～20日)。奇日 1004		4・23 ㊤京都市内北辺町の清浄華院御影堂・庫裡など、阿弥陀堂・不動堂・表門を除くほか灰燼に帰す(明27・11に御影堂再建を決定、明39・7に同堂再建を起工、明44・2に御影堂(桁12間2尺3寸・梁13間1尺7寸)落成)。
2・1 ㊤福永立馬(石川県人)が発起人となり、勝峰大徹(南禅寺管長)らの賛同をえて、下立売新町に蔵書館を開設。日出 2・1		4・30 ㊤オルコットが、福知山町の法鷲寺で仏教講演を行なう(真宗大学林(本願寺派)教授佐久間恭信が同行し解説)。奇日 1060
2・9 ㊤キリスト教演説会、四条北劇場で開催(ゴールドン・広田安土・広瀬孝次・山中百・ウィシャルド・松尾音次郎・草部一男・青木要吉・浮田和民が講演)。日出 2・8		4・1 ㊤尊王奉仏大同団(仏教徒)と同志社(キリスト教徒)が、市会議員選挙をめぐって激しく抗争。奇日 1050、1056
2・10 ㊤万国霊智学会創立者ヘンリー=エム=オルコットがダンマパーラ(印度霊智会書記)と来京(2・12、オルコットが知恩院で日本と欧米の仏教について講演、相国寺管長荻野独園・南禅寺管長勝峰大徹・知恩院管長日野霊端ら出席。清沢満之・平井金三ら、通訳を担当)。奇日 1026、1030		4・1 ㊤西本願寺旧境内64町を7組に区分した法座組織を、旧若松町の戸長高橋正意が再興(維新以前に同境内を7組に分け、1組毎に法主から六字名号を受け、例月各組順次法座を開いていたが、明治初年の上地以後中絶していた)。奇日 1047
2・13 ㊤東山正法寺(時宗大本山)の本堂(梁5間・桁5間半)・庫裡を再建落成。寺院明細帳		4・1 ㊤東福寺山内の孤児養育院を平安養育院と改称。明教新誌 4・20
2・16 ㊤山科郷花山元慶寺で、僧正遍照1000年忌法要を執行(～20日)。四明 2・24		4・1 ㊤日本正教会講義所を押し小路高倉西入ルに設立(伝道師は笹葉政吉、大阪から着任)。京都正教会資料
2・26 ㊤清沢満之、大谷尋常中学校で樹心会を結成(仏教による少年教化が目的)。大谷中高校90年史		5・1 ㊤法園社(油小路御前通り)、『法の園』を創刊。
2・1 ㊤匡道慧潭が花園妙心寺管長に就任。官報		5・6 ㊤明道館員小林正雄ら、綴喜郡田辺村西念寺で、仏耶優劣論・精神論などについて講演。奇日 1060
3・21 ㊤新京極東側町の善長寺の堂宇焼失、中之町歡喜光寺も類焼。坊目誌		5・1 ㊤愛宕郡田中村住民が、同村の埋葬許可地である知恩寺・干菜寺(光福寺)での埋葬を、衛生上の理由で止めるよう請願。日出 5・3
3・31 ㊤キリスト教演説会を亀岡で開催(～4・1)。ゴールドン・村上太五平・留岡幸助 ⁽²⁾ ・金子常五郎が講演(6・21、福知山劇場で開催、7・16、綾部劇場で開催)。丹波基督教教会史		5・1 ㊤紀伊郡・久世郡・宇治郡の住職(平等院・三室戸寺・万福寺など)ら、盲人の教育会設立を決定。日出 5・21
3・1 ㊤尊王奉仏団京都事務所(大宮七条上ル御器屋町)が、加藤恵證・弘中唯見と同団弁師を特約。また大雲院の小林大乘・透玄寺の津川諦観ら、同団拡張に協力。奇日 1043、1049		5・1 ㊤花山圓瑞が浄土宗西山派管長に就任。官報
3・1 ㊤各宗僧侶有志が集り、伏見婦人会を設立(4・21に会員約170人)。		5・1 ㊤天理教京都市内分教会の設立を決定。場所は太黒町の集談所、名称「河原町分教会」となる。河原町大教会史
4・1 ㊤関西女学会(油小路魚棚下ル若松町)を真宗大学林文学寮付属女学会と改称。奇日 1047		6・12 ㊤金森通倫 ⁽³⁾ 、同志社校長代理に就任。同志社90年小史
4・6 ㊤市内各宗本山共催で、宝物縦覧会を催す(～5・5)。日出 4・9		6・23 ㊤奇日新報社が興教書院(下京区玉木町)を設立(10・10、同書院最初の仏教書、真宗司教斎藤聞精著『仏法或問』を出版)。奇日 1084
4・6 ㊤反省会が、禁酒義金の募集を始める		6・24 ㊤相楽郡高麗村字神童子の金剛蔵王院を神童寺と改称。寺院明細帳
		6・24 ㊤天台宗護浄院の孝明天皇念持仏千手観音像を開帳。四明 6・24

参	考	日	本
(1) 法条的門：文化5(1808)越中富山に生まる。天保13(1842)市内寺町四条下ル大雲院に晋山。明治初年に府の療病院設立(貧窮病者を救済した聖徳太子の故事に習ったもの)にあたり所有邸宅の提供や資金募集の遊説により積極的に協力し、府知事長谷信篤から特に感謝状をうける。また明13(1880)各宗管長と諸門跡を勧誘して真親会を結成し、久邇宮朝彦親王を総裁にあおいて詩歌・管絃による各宗派僧侶の融和を図ることに貢献。浄土宗宗政にも干与し、総本山宗戒兩派教授講究所講事・京都明道協会講師をつとめた。		1・1 大内青巒ら尊王奉仏大同団を起す。	
(2) 留岡幸助：元治1(1864)岡山に出生。高梁教会で受洗。明21(1888)同志社神学校卒。同24(1891)金森通倫の勧めにより北海道集治監の教諭師となった。同27～29(1894～1896)在米。帰国後、不良少年感化事業に着手し、同32(1899)巢鴨に家庭学校を創立。大3(1914)北海道北見に、同12神奈川県茅ヶ崎にも分校を設立。著書に『不良少年感化事業』がある。昭9(1934)没。		2・11 憲法発布。第28条で信教の自由を保証。この日、衆議院議員選挙法発布。神職・僧侶その他諸宗教教師の被選挙権を許さず。	
(3) 金森通倫：安政6(1856)熊本に出生。熊本洋学校に学び、のち同洋学校と共に同志社に転入。明24(1891)『日本現今のキリスト教』を刊行し、新神学を提唱。その後種々の職業を遍歴し、海外にも巡回伝道を行なったが、老後の消息は不明。		2・25 曜日蒼竜、ハワイ布教のため横浜を出帆。	
		4・27 日本聖公会第2回総会を東京で開催。『日曜叢誌』第1巻を発刊。	
		4・1 滝谷琢宗、曹洞宗管長に就任。	
		4・1 法隆寺保存会設立。	
		9・15 米国メソジスト教会日本宣教師総理ランバス、兵庫県に関西学院を設立。	
		10・18 ウィリアムス主教(聖公会)辞任。	
		10・1 『真理』(普及福音教会機関紙)創刊(明33・12廃刊)。	
		11・1 マッコラム、ブランソン両宣教師(米国南部バプテスト)来日、九州伝道開始。	
		12・21 田井正一、聖公会最初の日本人司祭となる。	
		この年	
		▷ テスト=ウイド(フランス人神父)、静岡県御殿場に癩病院神山復生園を開く。	
		▷ 『皇典講究所講演』発刊。	
		▷ 名古屋金城女学校(キリスト教新教)設立。	
		▷ ユニバサリスト(同仁教会)最初の宣教師ペリン来日。	
		▷ この頃、キリスト教界で廃娼論抬頭。	

京	都	府
<p>6・27 ㊦下賀茂神社の御手洗会と夏越はらいを復活(明5以来中止していた)。 日出 6・29</p> <p>6・29 ㊦最初のキリスト教青年夏期学校を同志社で開催。7・3小崎弘道「聖書のインスピレーション」の題で講演、新神学を提唱。 日本基督教団史</p> <p>7・25 ㊦堀貞一、四条教会牧師に就任。 京都基督教50年史</p> <p>7・一 ㊦上京区浄土寺町の後一条天皇の火葬場を同天皇の御陵と定め、菩提樹院御陵と改称する旨、宮内省が府知事へ通達。 日出 7・28</p> <p>7・一 ㊦平安基督教会、二条柳馬場講義所を廃止。 平安基督教会略史</p> <p>8・10 ㊦天理教河原町分教会が河原町二条下の土地と家屋を購入(9・27同地で教会新築工事に着工)。 河原町大教会史</p> <p>8・18 ㊦京都仏教青年会第1回仏教演説会開催(古谷日新「現時仏教の運動」、巽義知「哲学的仏教」について講演)。 奇日 1112</p> <p>9・11 ㊦福知山の音無瀬川が氾濫(この頃、各地で水害が起り、宗教家・宗教団体が罹災者救恤に尽力)。 奇日 1131</p> <p>9・13 ㊦猪熊六角の専応寺に京都教会設立(赤松連城、同会趣旨を述べ、発会式執行)。 奇日 1122</p> <p>9・16 ㊦奇日新報社、水害者義捐金を募集するため山崎昭天宅で幻灯講演会を開催。 奇日 1131</p> <p>9・19 ㊦府内神官会議を京都皇典講究分所で開催(～21日)。府内神官取締規定を制定、取締規則は近藤芳介作成、取締所は講究分所内、宮津にも分局を置き、丹後一円と天田郡とを管理。 日出 9・25</p> <p>9・19 ㊦伏見慈善会(この年2月創立)の事務取扱を婦人に委託、会長に荒井重子就任。 日出 10・2</p> <p>9・28 ㊦真宗大学林(本願寺派)内学院長名和東瀛が同院学生の真宗青年伝道会機関誌『伝道会雑誌』第17号で、西本願寺の学風を批判したことで、同雑誌編集者が処分される(10・9その処分を不当として反対した内学院全学生も退学処分をうける)。(4) 竜谷大学300年史</p> <p>9・一 ㊦坂本日桓、日蓮宗妙満寺派管長に就任。 官報</p> <p>9・一 ㊦桜井義肇編集の反省会機関誌『反省会雑誌』を『反省会』と改題。 明治仏教新聞雑誌目録</p> <p>10・7 ㊦東本願寺第21代法主大谷光瑩(現如)が就任の伝燈式執行。 真派六派年契</p>	<p>10・8 ㊦上下賀茂神社に建造物特別保存費を下付(文久3以来修理を加えず破損がひどかった)。下賀茂神社には1,400円、上賀茂神社には1,500円、工事は府が行なうことに決定。明23・3・20修復工事完了)。 日出 10・9、明 23・3・20</p> <p>10・27 ㊦英国人ジョーエルズ、知恩院で仏教講演を行なう。 日出 10・26</p> <p>10・28 ㊦悟真協会高橋真太郎編集の『新仏教運動』を大前専称編集の『第二仏教新運動』と改題。 明治仏教新聞雑誌目録</p> <p>10・一 ㊦荻野独園(相国寺)・福田日耀(妙顕寺)、各宗僧侶に普通科を教授速成する目的で教員養成学校設置(上京区相国寺門前町4番地内10号)を府に願い出る。 日出 10・26</p> <p>10・一 ㊦乙訓郡の粟生光明寺と同郡内末寺の僧侶信徒が組織する和敬会会員、1,000人に達する(同会は仏教の真理拡張と邪教排斥を目的とする組織)。 日出 10・26</p> <p>11・1 ㊦『奇日新報』を『開明新報』と改題(4・1に東京本所区外手町にあった奇日新報社を京都の海外宣教会本部構内(玉本町)に移し同報1046号を発行)。 明治仏教新聞雑誌目録</p> <p>11・3 ㊦京都正教会会堂が、上京区柳馬場二条上ルに竣工。 京都正教会資料</p> <p>11・4 ㊦西本願寺御影堂で、この年の水害死亡者追弔会を執行。 奇日 1140</p> <p>11・16 ㊦聖公会が五条橋東2丁目に五条講義所を開設(京都最初の聖公会講義所)。T. S. チング・高橋敬が布教を開始、11月岡本かめ、婦人伝道部として着任。 日本聖公会100年史</p> <p>12・8 ㊦天台宗の府下における中学校を真正極楽寺真如堂に設立。 四明 12・24</p> <p>12・14 ㊦洛西太秦広隆寺堂宇修築落成。 日出 7・3、12・10、13</p>	
<p>この年</p> <p>▷ ㊦紀伊郡御香宮神社に和合社結成。 御香宮神社</p>		

参	考	参	考		
<p>(4) 『伝道会雑誌』発行停止：真宗大学林(本願寺派)教育の方針および本山派の教員その他本山執行などの品行を論じたため、本山役員らの怒りに触れて一大紛擾を起す。明23・10・21(1890)に再び発行することに決定したが、同誌原稿が本山執行所から検閲をうけ同執行を批判する部分が削除されて発行。 日出 10・23</p> <p>○府内寺院数の推移</p>					
	明19	20	21	22	
天	110	110	110	110	
真	373	357	355	350	
浄	958	952	951	947	
臨	607	596	587	564	
曹	416	415	415	412	
黄	38	38	38	38	
真	483	487	486	480	
日	334	328	328	323	
時	26	24	24	24	
融通念仏	5	5	5	5	
法	15	15	15	12	
宗派未定	1	1	1	1	
計	3,366	3,328	3,315	3,266	
府治概表					
○府内神社数の推移					
	明19	20	21	22	
官	17	17	17	17	
国	2	2	2	2	
府	10	10	10	10	
郷	66	67	67	67	
村	1,040	1,034	1,034	1,032	
無	5,677	5,682	5,672	5,667	
格					
社					
計	6,812	6,812	6,802	6,795	
府統計書					
○神職祠官祠掌および住職数の推移					
	明19	20	21	22	23
官	104	32	33	33	33
幣					
社	10	4	4	4	4
国					
幣					
社	15	15	15	14	14
府					
社	53	50	51	54	54
郷					
社	168	169	172	171	172
村					
社					
天	71	71	75	78	78
台					
真	229	229	229	223	226
言					
浄	691	695	693	691	683
土					
臨	399	393	395	396	392
濟					
曹	342	342	477	339	340
洞					
黄	25	27	23	22	23
真	379	379	375	285	282
日	221	224	229	232	231
蓮					
時	18	15	15	15	14
融	4	4	4	4	4
通					
念					
仏					
法	2	1	1	1	2
相					
府治概表					

京	都	府
<p>1・23 ㊦新島襄、大磯で没、48歳。 新島襄</p> <p>1・一 ㊤西本願寺、真宗本願寺派宗報『本山月報』を創刊(～明36・1)。 明治仏教新聞雑誌目録</p> <p>1・一 ㊤真言宗伝灯会本部(下京区八条町)、山古龍潭の編集で『伝燈』を創刊(明36・6『遍照』と合併し『六大新報』と改題)。 同上</p> <p>2・5 ㊤京都婦人協会が真宗長光寺(五条通西洞院西入ル)で発会式を挙行(僧侶と信徒が婦人に仏教主義を教化する目的、赤松連城・渥美契縁が講演)。 日出 2・1</p> <p>2・一 ㊦四条教会が寺町姉小路下ルに、講義所を設立。 京都基督教会50年史</p> <p>3・12 ㊦府、社寺境内にある石造物にいたるまで勝手に処分することを禁ずる。 日出 3・13</p> <p>3・15 ㊤下京区東塩小路町の白蓮寺が、真宗大谷派から時宗に所属。 坊目誌</p> <p>3・30 ㊤東福寺(臨済宗大本山)大方丈が竣工し、落成式を挙行。 日出 3・21</p> <p>3・一 ㊤新京極大火のため、錦天神神社・了蓮寺が延焼。 日出 3・22</p> <p>3・一 ㊦小崎弘道⁽¹⁾、同志社校長に就任。 同志社90年小史</p> <p>4・1 ㊤嵯峨天竜寺と西本願寺で、それぞれ宝物展覧会を開催、この月に東福寺・大徳寺など諸寺院でも同会を開催(4・9 疏水工事が竣工し、通水式を挙行、その祝典を兼ねて各寺で宝物の展覧を催す)。4・11には京都美術博覧会を開催、高雄高山寺の華嚴縁起・鳥獣戯画、東寺の弘法大師消息・風信帖・請来目録、北野神社縁起など府下の社寺宝物の多数を出品、4・16に各宗合同の京都洪濟会、相国寺で宝物展覧会を開催。 日出 5・18</p> <p>4・5 ㊦キリスト教演説会を京都キリスト教青年会が四条南劇場で開催。 日出 4・5</p> <p>4・18 ㊤下京区今熊野町の洞雲庵、時宗金蓮寺末寺を離れ、浄土宗鎮西派法然院に所属。 坊目誌</p> <p>4・一 ㊤臨済宗妙心寺は平井龍華編集で同寺派雑誌『活論』を創刊。 明治仏教新聞雑誌目録</p> <p>4・一 ㊦松山高吉⁽²⁾(平安教会牧師)が伝道会社社長に就任。 平安基督教会略史</p> <p>5・1 ㊦天主教教会会堂、河原町三条上ルに竣工、献堂式挙行。 イクテウス 205</p> <p>5・6 ㊤美濃田覚念、四条南劇場で仏教演説会を開催、聴衆約1,000人。 日出 5・6</p> <p>5・10 ㊤東本願寺本堂立柱式執行。府寺誌稿</p>	<p>5・15 ㊦聖公会在繩手三条下ルに三条講義所を設立(明25・3 同講所を廃止)、5・16には四条烏丸東入ルに四条講義所を設立(明27・10・8 廃止)。 聖公会京都地方部資料</p> <p>5・18 ㊦荷田東丸をまつる東丸神社の社殿竣工、伏見稲荷神社社務所から神靈遷座祭を行なう。 稲荷年表</p> <p>5・19 ㊦天理教宇治田原支教会の設置許可。</p> <p>5・30 ㊤中郡峰山富貴屋町の真宗大谷派別院の愛知県額田郡岡崎町への移転、認可。 寺院明細帳</p> <p>6・4 ㊤在家仏教者鳥尾得庵、園部の南陽寺で仏教講演会を開催、ついで篠山・福知山へ赴く。 日出 6・6</p> <p>6・7 ㊤虚無僧ら、尺八演奏会と仏教講演会を四条南劇場で開催。 日出 6・10</p> <p>6・16 ㊤仏教信徒、京都市内透玄寺に貧民救助取扱事務所を設置。この日、洛東建仁寺で貧民救助のため仏教演説会を催し、赤松連城・江村秀山・吉岡可成・真岡道広・段証依秀ら講演。 日出 6・14</p> <p>6・17 ㊤永井徹・西座新右衛門ら仏教信徒、南禅寺慈氏院で信教クラブを結成。この日、忠君・愛国・敬神・信仏を主義とし、帝国議会および地方議会に参与するため、候補者政談演説会を催す。 日出 6・17</p> <p>6・25 ㊦豊国神社に豊国会結成(会長黒田長成、豊国廟宮繕事業ならびに豊大閣300年祭事業を目的に組織され、本部を東京に置く)。 豊国神社誌</p> <p>6・25 ㊤尊王奉仏大同団員の日野湊・浅地貞吉・真門道蔵ら、政談演説会を開催。日出 6・25</p> <p>6・一 ㊦西洞院信愛、護王神社宮司に就任。 護王神社誌</p> <p>7・15 ㊤休禅寺の吉水隆民ら、貧民救恤の托鉢に回り、その募財により白米1石余を法雲寺で貧民に施米。 日出 7・13</p> <p>7・29 ㊤上京区の革堂行願寺の片岡玄覚・葉樹院の即真覚信らが仏教法話会を開催(同志社設立以来上京区のキリスト教信者増加を憂慮して結成したもの)。 四明</p> <p>7・29 ㊦キリスト教説教会、船井郡須知会堂で開催。7・30には船井郡高原村豊田で開催、講師は宇野光三郎・留岡幸助・村上太五平。また、夏期伝道士として松山で宇野光三郎、園部で山田篤士が布教。 丹波基督教会史</p> <p>7・31 ㊤清沢満之、東本願寺経営の府尋常中学校校長を辞任(同校の授業は継続して担当)。 大谷中高校90年史</p>	

参	考	日	本
(1)	小崎弘道：安政3(1856)熊本に出生、熊本洋学校に学び、明9(1876)同校廃校と同時に同志社に転入、この年受洗。明23同志社社長に就任(同30辞任)。のち京橋教会・日曜学校協会を設立。著書に『宗教要論』・『基督教の本質』・『政教新論』などがある。昭13(1938)没。	1・一	村上專精『仏教一貫論』刊行。
(2)	松山高吉：弘化3(1846)新潟に出生、明6(1873)グリーンに接し入信、グリーンとともに新旧約聖書の和訳に加わる。同23(1890)京都平安教会牧師、同29(1896)同志社教授に就任、のち聖公会に転じた。『新撰讃美歌』・『古今聖歌集』・『こども聖歌集』の編さん事業に力をつくした。昭10(1935)没。	3・14	植村正久、『福音週報』創刊(明24・3・20に『福音新報』と改題)。
		3・28	キリスト者安藤太郎ら、東京禁酒会を結成。
		3・一	植村正久、『日本評論』創刊。
		4・2	協議中の日本基督教会と日本基督一致教会との合同不成立。
		5・一	米価騰貴(前年の約2倍)のため、東京・大阪・京都などで窮民増加、東京では餓死者発生。
		5・一	惟神学会設立。機関誌『随在天神』発刊、6月に佐々木高行が惟神学会意見書を発表。
		7・一	基督教信者9人が第1回総選挙に当選、衆議院議員となる。
		10・31	文部省、教育勅語の謄本を全国の学校に頒布し、その趣旨の貫徹に努めるよう訓令。
		11・22	国学院大学設立(母体は皇典講究所)。
		12・15	日本基督一致教会第6回大会開催、派名を日本基督教会と改称。
		この年	
		▷ 夏、第2回基督教青年会夏期学校を明治学院で開催。	
		▷ カトリック第1回総会開催。全国を四教区に分け、オーズフが大司教に就任。	
		▷ 磯部武者五郎『国体述義』刊行。	
		▷ 『ゆにてりあん』創刊(ユニテリアン機関誌、明24・11『宗教』に継承、昭31・2『六合雑誌』と合併)。	
		▷ 一致・組合両教会編『新撰讃美歌』刊行。	
		▷ 北村透谷、普連士女学校教師となる。	
		▷ 井上円了『日本政教論』刊行(仏教公認運動の開始)。	
		▷ 『曹洞教会修証義』完成。	
		▷ 加藤弘之「国家と宗教との関係」を『国家学会雑誌』に掲載。	

京 都 府	参 考
<p>7・一 ㊤太秦広隆寺に京都保勝会が補助費2,000円を下付。 日出 7・3</p> <p>7・一 ㊤加佐郡の青年仏教徒(岡田上村の岸和田一雄ら)、大日本仏教青年会加佐郡支部を設立。 日出 7・31</p> <p>8・12 ㊤京都洪済会⁽⁹⁾本部浄教寺で府下貧民に1人当り白米5合を施米。ついで10・25同洪済会が、上京区の相国寺・浄福寺と下京区の建仁寺・本国寺で2,000人の貧民に施米を実施(～10・28)。 日出 8・12、10・14</p> <p>8・13 ㊤稲葉昌丸が清沢満之のあとをうけて、府尋常中学校校長に就任(明25・10辞任)。 大谷中高校90年史</p> <p>8・25 ㊤オリエンタルホール館主平井金三、大雲院で各宗管長・諸本山住職を招き、北垣知事臨席のもとに、同館拡張につき協議。 四明 33</p> <p>9・20 ㊤京都洪済会の教員養成所を法因寺から建仁寺内に移すこと、同所卒業者を尋常師範学校卒業程度とし、生徒数100人とすることを、同会臨時委員会で決議。 日出 9・20</p> <p>9・一 ㊤大谷光瑩と恒子夫人、京都に真宗大谷派婦人法話会を設立。</p> <p>9・一 ㊤同志社 波理須理科学学校 設立(明24・4・7開校)。 同志社90年小史</p> <p>10・12 ㊤太秦広隆寺の牛祭が、例年深夜に及ぶため時間を繰り上げる(この年は豊作のため、京都の相撲力士をあつめ法楽相撲を興行)。 日出 10・11</p> <p>10・20 ㊤天台宗中学林(2府7県の天台宗が連合して真如堂極楽寺内に設置)、開校式。青蓮院門跡三津玄深・毘沙門堂門跡代理前田実心ら、開校式に臨席。 四明 35、日出10・21</p> <p>10・21 ㊤京都仏教会、新京極誓願寺で発会式を挙行(粟生光明寺法主・禪林寺誓願寺両法主・浄土宗西山派各本山貫首ら説教を行なう。このとき全国コレラ病死者と紀州沖瀨死者(トルコ軍艦乗組人)の追弔会を行なう)。 日出 10・21</p> <p>10・26 ㊤村田勤が四条教会牧師に就任。 京都基督教会50年史</p> <p>10・一 ㊤府尋常中学校有志生徒をあつめて仏教青年会を結成(清沢満之ら、これに加わって講演)。 大谷中高校90年史</p> <p>11・1 ㊤窮民救済のため、粟田口定孝(貴船神社宮司)ら、救合社を設立し、上京区鍋町千本西入ル5番町11番戸に事務所を置く。 日出 11・1</p> <p>11・26 ㊤<天理教上桂村事件>発生、仏教各派との論争も激化(11・27下京区唐橋門脇町の説</p>	<p>教場で吉祥院の住職と論争、12・24河原町分教会説教日に知恩院僧侶数人と論争)。河原町大教会史</p> <p>11・一 ㊤キリスト教説教会、円山公園で開催。チング(聖公会)が「學術によりて基督を論ず」と題して講演、聴衆約60人(夏ごろから、三条・五条の両講義所に、しばしば説教防害行なわれる)。 聖公会京都地方部資料</p> <p>12・7 ㊤『四条教会月報』創刊。 京都基督教会50年史</p> <p>この年</p> <p>▷ ㊤山科勸修寺境内にあった山科社(村社)を勸修寺家が修復し、同家が祭祀を執行する(この山科社は神仏分離令で勸修寺境内から分離されていた)。 府寺誌稿</p> <p>▷ ㊤真言宗因幡堂平等寺保存講社を結成。 同上</p> <p>▷ ㊤長松清風、本門法華宗有清寺派説教所を、上京区御前通一条下ル下壘町に設立。 府庁文書</p>
	<p>(3) 京都洪済会：「明治十八年社会ノ情勢萎靡不振ニ際シ、苦境ニ沈淪スル蒼生ヲ救済セン爲、京都各宗有志者相集リ義捐金ヲ以財施ヲナシ、十九年二十年合メ三十餘ヶ月其事ヲ継続シ、転シテ廿一年春府下四ヶ處ニ小学校ヲ創立シ、無告ノ子弟ヲ教育シ今ニ該事業ヲ維持シタリ、本年ノ如キ米価非常ニ騰貴シ、蒼生又非常ノ菜色アリ、是ヲ傍觀座視スル豈吾本分ナランヤ、依テ本会ハ一人白米五合ヲ施券一葉トシ、是レヲ区内各戸ニ就キ最モ慘状ヲ究タル蒼生ニ与ヘ、本部ニ於テ実物ト引換ルコトトナセリ……」 日出 8・12</p>

京	都	府
<p>1・24 ㊦第三高等中学基督青年会主催のキリスト教演説会を四条南劇場で開催。演説は中島末治「基督教の主義」・パークレー「基督教と近世思弁の宗教」・小野英次郎「工業の進歩と道徳の変遷」・海老名弾正「基督教と他教との関係」と題す。 平安基督教会略史</p> <p>1・24 ㊧大谷派本願寺が寺務所職制の改正を決定。2・5には式務局を設置。9・1には審議局職制章程の改定を実施。 本山報告</p> <p>1・一 ㊨佐伯旭雅⁽¹⁾（浄土宗僧侶）没(78歳)。 浄土教報</p> <p>2・上 ㊩円山の長楽寺が本堂の再建を計画、信徒24人で720円を寄付。 日出 2・4</p> <p>2・20 ㊪乗如（東本願寺第19世）100年忌法要修行（～22日）。4・21～24にも本願寺第11世顯如300年忌を東本願寺で修行。 本山報告</p> <p>2・一 ㊫聖公会、五条講義所に英学校開設。 聖公会京都地方部資料</p> <p>2・一 ㊬今熊野の正法寺(時宗・金蓮寺末寺)、浄土宗西山派に転派し、浄念寺の末寺となる。 坊目誌</p> <p>2・一 ㊭大雲院の田原津海（寺町四条下ル）編『台之友』創刊。 明治仏教新聞雑誌目録</p> <p>2・一 ㊮仏教花園婦人会は川合清丸編の『花の園生』（月刊）を創刊。 同上</p> <p>3・15 ㊯鵜飼徹定⁽²⁾没。78歳。</p> <p>3・22 ㊰東山妙法院の南叡会広福講の第1回集会開催（妙法院の堂宇修理・維持を目的として結成。年に1円ずつ5年間寄付する者を講員とする。講員には妙法院・三十三間堂・方広寺大仏の随意拝観を許可。世話係に竹村藤太郎ほか数人）。 日出 3・21</p> <p>3・一 ㊱アンブラー（聖公会）が京都市内円山に居住して伝道（～明25・6）。 聖公会京都地方部資料</p> <p>4・7 ㊲同志社波理須理化学学校開校式（上京区相国寺門前町、校長は小崎弘道、生徒24人、松山高吉・スタンフェルド夫人・グリーン⁽³⁾・ラーネッド・デビス・ワイコフ・ゴルドンほか来賓多数出席。4・8、校舎内を市民に公開）。 日出 4・3、9</p> <p>4・18 ㊳天理教西陣支教会設置を許可。 河原町大教会史</p> <p>4・21 ㊴組合教会が北丹基督教会を設立（竹野郡岡野村135番戸、毎週1回、説教会と聖書研究会を開く）。 京都基督教会50年史</p> <p>4・一 ㊵清沢満之・細川千巖・稲葉昌丸・楠潜龍が東本願寺岡崎御学館の組織改革を提議し、清沢が同館主任となる。 清沢満之の研究</p>	<p>4・一 ㊶日本聖公会全国青年連盟第1回全国大会を京都で開催。 日本聖公会100年史</p> <p>4・一 ㊷南禅寺の大学林が大阪今宮の南禅寺出張所に移転。 府寺誌稿 33</p> <p>4・一 ㊸聖公会五条講義所で説教会開催（講師は田井正一・ヘアーで会衆約120人、6月には講師に鎌田正七郎・岡久之亟が出て、会衆約100人）。 聖公会京都地方部資料</p> <p>5・10 ㊹ロシア皇太子・ギリシャ皇子が東西両本願寺を訪問、両寺に200円ずつ下賜。 日出 5・12</p> <p>5・12 ㊺後白河院 700年忌を長講堂（下京区下寺町五条下ル）で修行（～14日）。 日出 5・13</p> <p>5・18 ㊻パロス、福知山・山家・綾部方面で伝道布教（～26日）。 丹波基督教会史</p> <p>5・18 ㊼襲撃されたロシア皇太子の負傷平癒祈願祭を上御霊神社で執行（氏子総代岡本茂秀・信徒総代堂本五兵衛・氏子冷泉為紀ほか約200人が参拝）。 日出 5・20</p> <p>5・24 ㊽真如堂大師堂の落成式および見真大師木像の遷座式挙行（導師青蓮院三津大僧正・大谷派大谷勝尊）。 日出 5・26</p> <p>6・2 ㊾河野伽山、臨済宗大徳寺派管長に就任。 官報、日出 6・14</p> <p>6・9 ㊿永尾泰徳、天理教西陣支教会長に就任。 河原町大教会史</p> <p>6・11 ㊿建仁寺境内摩利支天堂表門の上棟式執行（祇園新地・宮川町・七条新地・先斗町の芸妓らが摩利支天堂へ竹馬の屋台などをひき、踊りながら練り込む）。 日出 6・11、13</p> <p>7・15 ㊿妙心寺正法会が『正法輪』を創刊。 明治仏教新聞雑誌目録</p> <p>7・25 ㊿㊿府、社寺の神官・住職の欠員の補充は、3カ月以内に行なうよう達す。 府令154号、日出 7・29</p> <p>8・上 ㊿疏水工事で出土した六勝寺の古瓦を京都博物館に寄付。 日出 8・2</p> <p>9・6 ㊿丹波教会の亀岡会堂竣工。 丹波基督教会史</p> <p>9・15 ㊿得明会（大谷派本願寺の改革党）が大会を花見小路有楽館で開催（愛知の竜華空音・伊藤春太郎、三重の今井祐清、石川の今井円照、越前の平野直粹、京都の佐野正道、滋賀の竹内諦念、大阪の佐々木吳中が参加。一部に非改革派も発生するが、本山は傍観する）。 日出 9・16</p> <p>9・20 ㊿府内神官協議会を下鴨神社で開催し、各神社の祭祀統一を協議。 稲荷年表</p> <p>10・17 ㊿四条南劇場で開催中のキリスト教演説会に仏教社士が混入し、妨害を加えて流血を見る、演説会は途中で散会。 平安基督教会略史</p>	

参	考	日	本
(1) 佐伯旭雅：阿波三好郡勢力村、文政3(1828)生まる。明治維新の廃仏毀釈に師良基、増応、増隆、雲照、戒玉らと共に遊説し、教部省の説置に甚力、明9、教部省の命により澄剛のあとを嗣ぎ、泉涌寺住持となる、明13以後、宮内省が泉涌寺へ特別保護年金600円を増額し、別に2,500円を下付され、泉涌寺復興につとめたが、明13・10・14、泉涌寺伽藍を全焼す。	(2) 鵜飼徹定(養鷗徹定)：文化11(1814)筑後国久留米の有馬藩士養鷗政喜の2男に生まる。明5・10・19浄土宗最初の管長に就任、同7・4、知恩院第75代住職となり、晋山。同年に浄土宗宗規を改定し、国会開設にさきだち、代議制を採用、明12、東西両部管長制の西部管長、明18、5本山交番管長制の初代管長となる。明15には懸案の宗学西部本校（のち浄土宗大学林）を知恩院山内華頂宮旧邸に開校、明20・4、知恩院在住満13年で辞し、塔頭福寿院に退隠。彼は古写経・古版経の造詣深く、知恩院に所蔵する『菩薩處胎経』、『大樓炭経』、『上宮聖徳法王帝説』、天正年間写経日記など幾多の貴重典籍を収集、のち知恩院華頂文庫に所蔵され、斯界の権威を高める。著名な著書に『釈教正謬初破再破』3巻、『古経搜索録』2巻、『關邪管見録』2巻、『笑耶論』、『仏法不可斥論』、『勅修圓光大師図伝目録』、『大蔵摺本考』（写本）など。	1・9 内村鑑三不敬事件（第一高等中学校始業式で教育勅語に拝礼せず、国家主義者・仏教徒ら、これを契機としてキリスト教を排撃）。	
(3) グリーン (Daniel Crosby Green)：1843～1913。明2(1869)、アメリカン=ボード派遣の宣教師として来日し、神戸で開教。同7(1874)、摂津第一公会を設立。同13(1880)、協同委員訳新訳聖書、同20(1887)の旧約聖書の翻訳に関係。大6年版の新約聖書では改訳委員長をつとめる。アジア協会会頭・平和協会会長などに就任、日米親善に尽力し、大2(1913)日本で没。		3・8 ニコライ堂（東京神田駿河台）開堂式挙行。	
		3・一 留岡幸助（組合教会牧師）、北海道空知集治監教誨師となる。	
		4・4 日本聖公会第3回総会、大阪で開催（～10日）。同会の聖職者名を監督・長老・執事と改める）。	
		4・25 本郷教会（組合教会）献堂式。	
		6・12 金森通倫「日本現今の基督教並に将来の基督教」を発表。自由神学を提唱して明25・3・30組合教会離脱を宣言。	
		6・14 史学会会員小倉秀貫、日蓮は元寇の予言者に非ずと講演。これを機に田中智学は宗門革命祖道復古を唱える。	
		6・17 小学校祝日大祭日儀式規程を定める（国家祝祭日における学校儀式の内容・方法を一定）。	
		7・7 メソジスト3派合同機関誌『護教』創刊。主筆山路愛山（大9・1、『教界時報』と改題）。	
		8・一 東京市15区および八王子町の墓地に死体の土葬を禁止。	
		9・一 印度仏蹟復興会設立。	
		10・一 仙台東華学校外人教師総辞職（文部省令に基づき中学校に改めるとき德育教科書から聖書を除いたため）。	
		11・5 靖国神社に維新前後の国事殉難者1277人を合祀。	
		11・一 井上哲次郎『大日本教育会雑誌』でキリスト教を攻撃（明26まで、教育と宗教との衝突論争おこなわれる）。	
		12・1 石川亮一（聖公会）、濃尾大地震の孤児のために孤女学園を設立。明29秋、滝乃川学園と改称(わが国最初の精薄児・遅進児の教育施設)。	
		この年	
		▷ 国木田独歩、一番町教会で植村正久より受洗。	
		▷ 井上円了、迷信打破のため、妖怪研究会を起す。	
		▷ 久米邦武「神道は祭天の古俗」を『史学雑誌』に掲載。	
11・28 ㊿鞍馬寺の仁王門・四脚門・歓喜院が焼失。 府寺誌稿、日出 12・6	12・一 ㊿慈眼寺（臨済宗・北桑田郡大野村）焼失（明40・7、同地東林寺に併合）。寺院明細帳		
	この年		
	▷ ㊿大連寺（浄土宗、下京区毘沙門町）・西寺（浄土宗、南区唐橋平垣町）が本堂典建。 同上		

京	都	府
1・12 ㊟不破唯次郎、平安教会牧師に就任。 平安基督教略史	教会の橋南浩、出石の久保庄三郎、丹波教会の村上太五平・松本文弥。 丹波基督教史	
1・15 ㊟松井文弥・村上太五平が何鹿郡上林谷で布教伝道、これは同地方への伝道の最初である。 丹波基督教史	5・24 ㊟天理教丹波山国支教会の設置許可。 河原町大教会史	
1・一 ㊟南禅寺に瑞竜講社を設立。 府寺誌稿 33	5・一 ㊟清水範空が浄土宗西山派管長に就任。 官報	
1・一 ㊟天台宗関西連合中学生が青年弘道会を設立、明26・2にいたり『弘道』を創刊。 四明	6・16 ㊟山県茂雄(東京聖書之友委員)が、丹波地方で布教伝道。 丹波基督教史	
1・一 ㊟大本教開教。 大本70年史	6・19 ㊟組合教会の四条教会所属の伏見の信徒が南山基督教会を設立。 京都基督教50年史	
2・5 ㊟清沢満之・稲葉昌丸が学事振興のため、教学資金募集を大谷派本願寺に建議するが不許可。2・6、稲葉昌丸は京都府尋常中学校長を辞職。 清沢満之の研究、大谷中高校90年史	6・下 ㊟北野神社、楼門建築の資金を集めるため新講社を結成、加入者約800人。すでに梅風講と信徒一般講があったがこれに合併された。 日出 6・29	
2・9 ㊟天理教の大原支教会の設置を許可。 河原町教会史	7・1 ㊟同志社の小島今朝二郎、夏期伝道師として何鹿郡上林に着任。 丹波基督教史	
2・一 ㊟大谷派真宗大学寮光闡会が『光闡会誌』を創刊(年4回)。 明治仏教新聞雑誌目録	7・25 ㊟米国聖公会伝道会社が聖三一教会と平安女学校の建設用地として、下立売南側烏丸通から室町通間を購入(明26春同地に宣教牧師館竣工、明31聖三一教会聖堂竣工)。 聖公会京都地方部資料	
3・4 ㊟平安教会がキリスト教伝道演説会を開催(〜3・6)。講師は海老名弾正・村田勤 ⁽¹⁾ ・湯浅吉郎・小崎弘道で会衆約400人、官吏・教員が多かった。 熊本バンド研究、平安基督教略史	7・一 ㊟この頃、上京岡崎町で天理教に対する僧侶の妨害が激発。 河原町大教会史	
3・10 ㊟妙泉寺(仁王門通り)の常日浄が、日蓮宗妙満寺派の祖師日什500年忌(3・23)にちなみ、貧者に施米を行なう。上京・下京両区役所に5合の米券250枚を寄託。 日出 3・11	7・一 ㊟聖公会のグリングが京都に着任し、烏丸今出川上ルに居住して布教(〜明26春)。須基浩が聖公会四条講義所に着任し、布教活動を開始(〜明26・10)。 聖公会京都地方部資料	
3・25 ㊟浄土宗の白旗弁智編『華頂月報』を創刊。 明治仏教新聞雑誌目録	8・12 ㊟ハリストス正教会の会堂建設に住民が反対(上京区下立売通烏丸から室町にいたる南側の土地40間×33間を佐藤某名義で購入したが、付近の住民に正教会用地と知られ反対運動がおこる)。 日出 8・12、19	
3・29 ㊟同志社で総長職を廃止し、社長を置く、初代社長は小崎弘道。 同志社90年小史	8・中 ㊟改良火葬場の設立を不認可(出願者は三条大宮西入ル関祐嶽で、設置予定場所は葛野郡朱雀野字西ノ京小字西合田。不認可の理由は人民保安と風致保存のため)。 日出 8・21	
3・一 ㊟鈴木孝道が乗願寺(寺町仏光寺)に尺八指南場を設立し、虚無僧・梵論字(ぼんろんじ)など明暗教会員に尺八を指南。3・23、尺八音曲会を開催し、収益金を京都盲啞院へ寄付。 日出 3・25	9・1 ㊟美濃田覚念がキリスト教攻撃の演説を、四条南劇場で、駁邪仏教演説会と銘打って開催(〜2日)。 日出 8・31	
3・一 ㊟聖公会は三条講義所を閉鎖。 聖公会京都地方部資料	9・20 ㊟小林与平の国教講義を円山左阿弥楼で開講(〜21日)。天照大神・産土神・氏神・門松などについて講義。 日出 9・16	
4・15 ㊟西陣機業者・生糸商が呉織女・漢織女の祠(太秦広隆寺境内)の祭典を復興(もとは3・11の木嶋神社祭礼に行なわれていたが、明治初年に中絶していた)。 日出 4・14	9・一 ㊟大谷派真宗大学寮に研究科を設置。 日出 10・4、真宗全史	
4・26 ㊟本派本願寺文学寮の落成式。文学寮は松原通り大宮西入ル旧熊本藩邸に設立され、文学寮長は藤島了隠。 日出 3・15、4・27	9・一 ㊟蘭田宗恵が本派本願寺文学寮教授に就任。	
5・2 ㊟加佐郡余内村余部の雲門寺(臨済宗天竜寺派)の本堂竣工。 寺院明細帳		
5・16 ㊟三丹基督教役者会が宮津教会堂で開催された。出席は北丹仮教会の内田尚長、舞鶴仮		

参	考	日	本
(1) 村田勤：慶応2(1886)伊勢に生まる。明15(1882)同志社に入学、同17(1884)ラーネッドより受洗、同20(1887)同志社を卒業、同23〜28布教活動に従事、同34(1901)から3年間米国エール大学に留学、帰国後日本女子大学の教壇に立つ。のちに明治中学の校長に就任、没年不明。著書に『宗教改革史』・『ルーテル伝』がある。		1・6 大日本仏教青年会結成。	
		1・15 奥村禎次郎(熊本英語学校教師)、演説中に用いた「博愛云々」の語が国家と相容れぬと批難され熊本県知事により解雇。	
		1・一 久米邦武「神道は祭典の古俗」を『史学雑誌』から『史海』に転載。2月神道家、その論文を批難(3・9、久米は帝国大学教授を退職)。	
		2・25 ジェーラー(福音ルーテル教会宣教師)、来日。のち九州地方に伝道開始。	
		2・一 内村鑑三“Japan; Its Mission”発表(4月、邦文「日本国の天職」として『六合雑誌』へ掲載)。	
		3・31 日本組合基督教会第7回総会・伝道会社年会、浪花教会で開催(〜4・2。「信仰告白」を決定)。	
		3・一 フレンド派機関誌『平和』創刊(北村透谷編集にたずさわる、明26・5、廃刊)。	
		6・一 上毛孤児院設立。	
		7・21 プライデル著・金森通倫訳『自由神学』(原名『宗教哲学』)刊行。	
		7・27 原担山没(74歳)。	
		7・一 第1回仏教青年会夏期講習会、須磨で開催。	
		8・27 清沢満之『宗教哲学骸骨』刊行。	
		9・27 吉野神宮創建(祭神後醍醐天皇)。	
		10・28 横井時雄・原田助『日本の道徳と基督教』刊行。	
		12・28 山本覚馬没。	
		12・一 J.パチェラー(聖公会)、アイヌ病院設立。	
		この年	
		▷ 田村直臣『日本の花嫁』刊行。	
		▷ 神戸松蔭女学院・尚絅女学院設立。	
		▷ 島崎藤村、明治女学校教師に就任(〜明26)。	
10・2 ㊟天主教説教会(下京区五条橋東2丁目)の耶蘇教会所に職人風の男20〜30人乱入。看板を割り、「耶蘇を葬れ」などの野次をとばし、説教を妨害。 日出 10・4			
		11・7 ㊟下御霊神社の本殿・拝殿の修復が完了し、正遷宮式を挙行。 日出 8・18	
		11・8 ㊟福知山で三丹教会者会を開催(〜11・10)。宮津・北丹・舞鶴・出石・柏原・豊岡・福知山・園部からの信者出席。 丹波基督教史	
		11・29 ㊟東本願寺本堂上棟式挙行(明28・4・15遷仏)。 本願寺誌要	
		11・一 ㊟篠木きん、聖公会五条講義所婦人伝道師として着任(〜明30・9)。 聖公会京都地方部資料	
		12・15 ㊟宮川経輝、丹波基督教大演説会で演説(〜16日)。 熊本バンド研究	

京	都	府
<p>1・7 ㊦ケレーが園部で布教伝道。2・24にはデビスが園部で青年を対象に講演し、4・18には不破唯次郎が亀岡会堂で説教。5・9にはパロス女史が丹波地方で、佐藤わさ子が綾部地方で、塘とり子が須知地方で布教伝道。9・4にはバックストン⁽¹⁾が亀岡・須知・福知山で布教。 丹波基督教会史</p> <p>1・18 ㊦鞍馬村称名院(浄土宗西山派)が焚火より失火し、堂宇全焼。 日出 1・20</p> <p>2・2 ㊦下京区清水の法成寺(法相宗)が本寺の成就院に合併。 坊目誌</p> <p>2・4 ㊦府下曹洞宗寺院170カ寺の住職の懇親会を園部南陽寺で開催(〜5日)。この会合で興学布教の方針などを決議。 日出 2・9</p> <p>2・5 ㊦宇治・久世・綴喜・相楽の僧侶が城南仏教会を設立。久世郡寺田村の念仏寺で発会式を挙げる。これは天理教や本門仏立講の浸透を防止するため。 日出 1・25</p> <p>2・10 ㊦フォンデスを招き、知恩院で仏教講演会を開催。主催は真宗伝道会・海外宣教会・反省会・華頂文社・第三高等学校青年会の共催。 日出 2・10</p> <p>2・14 ㊦聖公会小川講義所設立(上京区今出川下川針屋町)。多川幾造が布教の任にあたる。 聖公会京都地方部資料</p> <p>2・24 ㊦本国寺(日蓮宗)に振教遠沾会本部を設立、発会式を挙行し、同寺の釈迦如来を開帳(フォンデスの仏教講演会も開催、聴衆2万人)。 日出 2・24、3・19</p> <p>3・10 ㊦安倍清明をまつる清明神社(上京区葎屋町)、荒廃していた社内を整備し正遷宮式を挙行。 日出 3・12</p> <p>3・14 ㊦村上太五平が船井郡上和知村篠原の製糸工場で布教(〜16日)、3・30〜31と5・2〜3にも布教。 丹波基督教会史</p> <p>3・22 ㊦京都府尋常中学校地方税支弁となり、大谷派本願寺の経営から分離、旧校は大谷尋常中学校と改称。(9・11、別に大谷尋常中学校、室町魚棚で授業を開始)。大谷中高校90年史、告示30号</p> <p>3・一 ㊦本派本願寺が『本山録事』を創刊。 明治仏教雑誌新聞目録</p> <p>3・一 ㊦マキム、聖公会京都地方部監督に就任。 聖公会京都地方部資料</p> <p>4・3 ㊦同志社神学館上棟式(11・3、竣工)。 日出 3・24、同志社90年小史</p> <p>4・22 ㊦藤木喜兵衛(福知山町)ら、天田郡曾我井村大字和久市河原に火葬場を設立。 日出 4・25</p>	<p>4・22 ㊦花見小路有楽館で和洋音楽会を開催し、収益金は平安教会に寄付。 日出 4・18</p> <p>4・27 ㊦丹波教会水所会堂竣工。 丹波基督教会史</p> <p>4・一 ㊦出口なお(大本教開祖)、お筆先の執筆開始。 大本70年史</p> <p>4・一 ㊦関西府県神官会議を京都で開催。会則を定め、京都に事務所を設置、幹事は中川武俊、副幹事は大賀正充。 日出 4・28</p> <p>5・7 ㊦第三高等学校・中学校・医学校の連合仏教青年会が講演会を開催。講師は清沢満之・斎藤聞精・岩井智海・平松理英・江村秀山で、聴衆は1,000人を越す。このときバイオリンとオルガンの伴奏で、仏教讃歌を合唱した。 日出 5・9</p> <p>5・21 ㊦福知山に丹波第二教会設立。 丹波基督教会史</p> <p>5・29 ㊦同志社社員会で、宗教博物館の設立を討議する。湯浅吉郎・松山高吉・ゴルドンが具体的計画をねる。目的は内外宗教家・学者に神学研究材料を提供しようとするもので、収集予定品目は神道・仏教・天主教・雑宗の4部門。開設予定は明28。 日出 6・7、21</p> <p>5・一 ㊦太田廟空が浄土宗西山派管長に就任。 官報</p> <p>6・6 ㊦京都婦人協会・慈恵女学院共催の仏教大演説会を開催。講師は赤松連城・江村秀山・岡無外・英立雪。会場は新京極金蓮寺。 日出 6・6</p> <p>6・一 ㊦知恩院山内法徳院に安藤精軒の治療所を移し、京都施薬院と改称。日本社会事業大年表</p> <p>6・一 ㊦橘川恵順(真宗大谷派専徳寺住職)が看病婦学校を上京区姉小路通堺町西入ルに設立。これは大日本法話会の付属事業である。 日出 5・23、婦人雑誌 96</p> <p>8・2 ㊦松尾神社に神苑の造営が決定。 日出 8・4</p> <p>9・5 ㊦元治甲子殉難志士30年祭を東山霊山招魂場で執行。 日出 9・6</p> <p>9・12 ㊦天理教唐橋支教会の設置を許可。 河原町教会史</p> <p>9・29 ㊦青蓮院の熾盛光堂・白書院・集会所など焼失。 四明 70</p> <p>10・7 ㊦清浄華院(浄土宗)の方丈・庫裡・廟堂が竣工。 日出 10・7</p> <p>10・上 ㊦八坂神社で鎮火講を結成(これは9・29の青蓮院の失火の反省から生まれた)。 日出 10・12</p> <p>11・5 ㊦洛陽教会堂が竣工し、献堂式挙行。 丹波基督教会史</p>	

参	考	日	本
(1)	バックストン(Berkley Fowell Buxton): 1860~1946。英国に生まる。明23(1890)、聖公会宣教師として来日、松江に自費で開教、松江在住8年。明35(1902)帰英。その後も3度来日。協力者ウィルクスに日本伝道隊を組織させ、総理となったこともある。	2・24	独立公認を運動中の天理教、政府に軍艦建造費1万円を献金。
		2・一	内村鑑三『基督教徒の慰め』刊行。
		3・4	植村正久『日本評論』に「今日の宗信論及び徳育論」を発表。
		4・3	東京婦人矯風会が中心となり、日本基督教婦人矯風会を結成(会頭矢野禰子)。
		4・10	井上哲次郎『教育と宗教の衝突』刊行。
		5・9	関卓作編『井上博士と基督教徒、一名教育と宗教の衝突顛末及評論』(3冊)刊行。
		6・14	マキム(聖公会)、江戸監督として按手札を受ける。
		8・8	内村鑑三『永安録』刊行。
		9・7	築地本願寺で失火、諸堂を焼く。
		9・11	シカゴで万国宗教大会開催(〜17日。釈宗演・柴田礼一・土宜法竜ら神仏基各教代表参加し、各宗の英訳書数万を配布。初めて日本仏教が世界に紹介される)。
		9・15	桜井ちか子(日本基督教婦人矯風会副会頭)、シカゴの万国禁酒会総会に参加のため出帆。
		10・一	日本基督教婦人矯風会、東京に職業婦人宿舎を設立(明37・5・14、同宿舎を慈愛館と名づけ、婦女子の救済にあてる)。
		この年	
		▷	米国南メソジスト教会、日曜学校局を開設。
		▷	内村鑑三、「文学博士井上哲次郎君に呈する公開状」を発表。
		▷	村上专精『仏教忠孝論』刊行。
		▷	北村透谷、明治女学校教師に就任。
		▷	日の本女学校設立。
		▷	井上円了『教育宗教関係論』刊行。
		▷	藤島了穂『耶蘇教末路』刊行。
11・17	㊦平安遷都千百年記念祭事務所臨時委員会で平安神宮の建設を決議。 日出 11・18	11・一	㊦建仁寺塔頭大昌院に合併した六道珍皇寺の寺号を復活し、大昌院の寺号を廃止。 府寺誌稿
		11・一	㊦西本願寺前の道路拡張のため、予定用地と家屋の買収を開始。 日出 11・29
		12・12	㊦仏教各宗共済会、インド人ダンマパーラを招き講演会を開催。 日出 10・30
		12・25	㊦霊山正法寺(時宗・下京区清閑寺町)が本堂・庫裡を焼失。 坊目誌
		この年	
		▷	㊦平安教会に青年共励会を結成(老人会と婦人会にすでに結成済み)。 平安基督教略史
		▷	㊦聖公会が伏見に布教開始。 聖公会京都地方部資料

京	都	府
<p>1・15 ㊤大谷光勝⁽¹⁾ (大谷派本願寺第21世嚴如)、没。78歳。 日出 1・16、常業年表</p> <p>1・23 ㊤伏見稻荷神社宮司の近藤芳介が、豊国神社宮司を兼任 (～明28・5・14)。 稻荷年表</p> <p>1・29 ㊤京都市内各所で、キリスト教演説会開催 (～2・2。会場は新富小路仁王門下ル愛憐舎・油小路松原の講義所・今出川室町の講義所・同志社教会・洛陽教会・平安教会・四条教会)。 平安基督教会略史</p> <p>2・一 ㊤西方寺 (浄土宗、南区唐橋) の寺号を西寺と改称。 府寺誌稿</p> <p>2・一 ㊤真宗大谷派『本山報告』を『本山事務報告』と改題。 明治仏教雑誌新聞目録</p> <p>3・12 ㊤八坂神社清々講社が八坂神社の私祭に関する一切の事務を管理することに決定。 日出 3・15</p> <p>4・9 ㊤天理教洛西出張所の設置を許可。 河原町大教会史</p> <p>4・一 ㊤清沢満之が病氣悪化のため大谷尋常中学校の教職を辞任。 大谷中高校90年史</p> <p>4・一 ㊤平安女学院開校。院主は多川幾造、校長はグリーン、教頭は田村邦太郎で、同校教師・生徒は聖公会小川講義所の礼拝に出席。 聖公会京都地方部資料</p> <p>4・一 ㊤妙心寺派、学制改革により大教校・中教校を廃し、普通学林を美濃霊松院内および竜安寺内におく。 妙心寺600年史</p> <p>5・20 ㊤清水寺住職雲井良海が同寺執事稲田正則の建物・什宝売却事件の責任感で自殺。5・27、後任住職に興福寺の佐伯定胤が就任。 日出 5・22、27</p> <p>5・20 ㊤組合教会の安岡房子が船井郡須知で布教。 丹波基督教会史</p> <p>6・2 ㊤聖公会五条講義所で福井永瀬・伊藤梶子が結婚式挙行 (京都市内最初の聖公会キリスト教の結婚式)。 聖公会京都地方部資料</p> <p>6・6 ㊤天理教伏見出張所の設置許可。 河原町大教会史</p> <p>6・中 ㊤平野神社の神苑拡張を府に出願。西陣の矢野長兵衛・山中平兵衛ら、西洞院宮司と協議し、400坪拡張を申請。 日出 6・17</p> <p>6・25 ㊤上賀茂神社の神楽再興。維新後中絶していたのを今回同社旧神官有志により復興。 日出 6・24</p> <p>6・29 ㊤平安神宮創建され、官幣大社となる。</p> <p>6・一 ㊤渥美契縁・島地黙雷・赤松連城らが京都婦人慈善教会を設立。 明教新誌 6・10</p>	<p>6・一 ㊤聖公会のウィリアムが来日し、京都に着任。布教分担をグリーンが上京区、ウィリアムが下京区とする。 聖公会京都地方部資料</p> <p>7・2 ㊤大谷派本願寺が学制改革を行なう (大学・中学寮条例制定・同職制改定)。大谷派の学制を大学寮・中学寮の2種とし、大学寮を本科・研究科・安居に分け、職制は学監・主幹・監事・舎監・書記および講師・擬講・教授に分ける。39・1からこれを実施。 日出 7・7、本山報告</p> <p>7・下 ㊤地福寺 (七本松下立売南入ル) が、境内地・建造物を抵当に借金したが返債できず、競売を主張する債権者との間で紛糾。日出 7・28</p> <p>7・一 ㊤泉涌寺の安楽行院 (もと深草村) を今出川千本東入ルの般舟院に合併。 日出 7・3</p> <p>8・6 ㊤延喜式内昨岡神社⁽²⁾の社名をめぐる綴喜郡草内村の氏神2社の紛争が解決。これは大字飯岡と大字草内の氏子が、いずれも氏神社に「延喜式内昨岡神社」の社名を名乗ることを主張してゆずらず、5月から紛糾し、延喜式内の4字を抹消することで落着 (9・28、解決)。 日出 5・24、9・30</p> <p>8・25 ㊤松尾神社氏子は神苑設置に藤井宮司が非協力的だとして、更任を要求。9・3までに更任なければ、私祭費の積立を拒否すると氏子総代が決定。 日出 8・26、9・5</p> <p>9・1 ㊤南条文雄、真宗第一中学寮長に就任。真宗大学寮主幹には吉谷覚寿 (第一部)・今川覚神 (第二部) が就任。9・11に真宗第一中学寮を開寮。明29・8に真宗京都中学と改称。 日出 7・7、大谷中高校90年史</p> <p>9・15 ㊤知恩院内の八幡宮は神仏分離後は毘沙門天としてまつられていたが、放生会⁽³⁾を再興したので再興したもの。 日出 9・18</p> <p>9・一 ㊤田島教恵が富小路通二条上ルに明道学館を設立。 中外</p> <p>9・一 ㊤銀閣寺住職荻野独園が銀閣寺保存のため、銀閣会を設立。 日出 9・26</p> <p>10・20 ㊤組合教会三丹教役者会を船井郡水所会堂で開催。福知山・宮津・出石・亀岡・園部・須知・明石・同志社から信者が出席。 丹波基督教会史</p> <p>10・27 ㊤大貫真浦が男山八幡宮宮司に就任。 男山記録</p> <p>10・29 ㊤真宗第一中学寮生約200人は制服を僧衣とするなどの新学制に反対し、同盟休校に突入。この学生の処分問題をめぐり、大谷派本願寺と学校側の対立が激化した。 大谷中高校90年史</p> <p>10・下 ㊤本派本願寺は朝鮮布教開始を決定し、大州鉄然を臨時部長とする。 日出 10・27</p>	

参	考	日	本
(1)	大谷光勝：文化14(1817)京都に生まる。真宗大谷派本山本願寺第21世。明8・7、清国北京に布教師を派遣し、わが国はじめての海外布教を開始、ついで明11、朝鮮釜山に別院を設立。また同11月、東本願寺の阿弥陀堂と大師堂の再建を発示、明22、両堂の上棟式を執行、光勝没後の明28・4に両堂が落成。	1・一	古河勇 (老川)、『仏教』誌に『懐疑時代に入れり』を発表、新仏教運動を始める。
(2)	昨岡神社：綴喜郡田辺町飯岡、祭神は菅原道真・宇賀御魂神、もと天満宮と呼ばれ、飯岡の産土神であったが、明治になって昨岡 (くいおか) 神社と改称。	2・28	府県社以下の神社職制を定め、社司・社掌を国家の待遇官吏とする。
(3)	知恩院放生会：延享3 (1746)ごろ、祇園町の榎屋久左衛門が、同放生会講を組織。明治維新の神仏分離のとき、八幡宮に毘沙門天像を安置し、仏殿の形式に改めたが、放生会は廃止した。	3・25	惟一館 (三田四国町、ユニテリアン派)、開館式挙行。
		4・8	村上専精・鷲尾順敬ら、『仏教史林』を創刊 (～明30)。
		4・上	組合教会第9回総会、神戸教会で開催 (米国伝道会社から独立する件について論議され、会社組織の変更調査委員が選任される)。
		4・一	神職の祭服を統一。
		5・10	内村鑑三『地理学考』刊行。
		5・19	神道、大祭・公祭の区分をする。
		5・一	キリスト教慰勞団 (救癩事業)、和田秀豊らにより設立。
		5・一	東京基督教青年会館献堂式挙行。
		5・一	木村鷹太郎『排仏教』刊行。
		7・4	田村直臣『Japanese Bride』(米国刊行)、国辱的内容であるとして問題化し、日本基督教会では田村の教職を剝奪 (日本の花嫁事件)。
		7・一	東京英和学校、青山学院と改称 (初代院長本多庸一)。
		8・1	清韓事件基督教同志会 (東京)・基督教徒報国義団 (大阪)・基督教徒同盟戦時軍人慰勞会 (広島) が結成。
		8・一	東西両本願寺、軍隊慰問使派遣。
		10・19	禊教、神道本局から独立。
		10・20	神理教、御岳教から独立。
		11・一	『国学院雑誌』創刊。
		この年	▷ 世界YMCA創立。
			▷ 日曜学校連合生徒大会、大阪で開催。
			▷ 横井時雄『我国の基督教諸問題』刊行 (新神学を提唱)。
			▷ 岐阜訓盲院 (聖公会) 設立。
			▷ 伊藤六郎兵衛 (丸山教教祖) 没、66歳。
			▷ 太政官翻訳係訳、クラッセ『日本西教史』刊行。
			▷ 明28にかけて、宗教各派、日清戦争に際し従軍布教使・慰問使を派遣。
		この年	▷ ㊤紀伊郡御香宮神社日参組結成。同社には、別に薫風社・光耀社・猿田社・武者組・神能組・和合組が既存した。 御香宮神社
			▷ ㊤三井道郎が京都ハリストス正教会司祭として着任し、御池通東洞院東入ルの講義所で布教。 正教時報 851

京	都	府
<p>1・10 ㊤三十三間堂西大門を東寺南大門として移建。 坊目誌</p> <p>1・12 ㊤南禅寺がランプの不始末から火災、本堂など焼失。 官報、日出 1・15</p> <p>1・13 ㊤智積院有性(智有)没。</p> <p>1・16 ㊤関西の神社社司社掌連合会を開催、会場は歎屋町御池上ルの旅館若彦で、京都・大阪・滋賀・兵庫・岡山・奈良・和歌山・三重・岐阜・愛知の社司社掌代表各2人出席。郷村社維持法設定を政府に建議すること、全国社司社掌大会を京都で開催すること、などを決議。 日出 1・20</p> <p>1・20 ㊤興隆仏法会を寺町三条上ル天性寺で開催。斎藤聞精・江村秀山・藤井宣正・鼎竜暎が演説。 日出 1・19、20</p> <p>1・27 ㊤仏教大懇話会を河原町共楽館で開催。僧俗を問わず、有志者が参加。4・8に京都で釈尊降誕の祝典を挙ること、仏教有志者全国大会を開催することなどを討議。 日出 1・23</p> <p>2・21 ㊤紀伊郡下鳥羽村小枝河原で、外征戦死者追弔大法会修行。導師は知恩院門主。 日出 2・19</p> <p>2・22 ㊤真宗仏光寺の本堂(阿弥陀堂)再建事務所を設置し、工事棟梁を市田重郎兵衛と決定。 日出 2・24</p> <p>2・一 ㊤華族会館分局長壬生基修、平安神宮宮司に就任。 日出 2・19、20</p> <p>2・一 ㊤柳谷の楊谷寺(乙訓郡長岡町)が大阪に別院を設立。 楊谷寺誌</p> <p>3・上 ㊤平安神宮の応天門・大極殿・蒼竜楼・白虎楼が竣工。設計は木子清敬・伊東忠太。 京都の明治文化財</p> <p>3・11 ㊤平安神宮御霊代が東京から到着し、主殿寮出張所奥間に安置される。 日出 3・12</p> <p>3・15 ㊤平安遷都1,100年を記念して平安神宮創建、祭神は桓武天皇。この日鎮座式挙行(10・22に遷都記念祭挙行)。 日出 3・15</p> <p>4・1 ㊤豊国神社宝物展(～5・30)。同社境内の小教院に豊公の肉筆・肉付歯・羽織ほか多数展示。 日出 3・15</p> <p>4・5 ㊤知恩院が平安遷都1,100年を記念して、全国末寺僧侶を集め大法要を修行(～11日)。この頃、平安遷都1,100年の記念法要を修行する寺院が多く、真如堂では、4・5から50日間本尊を開帳し、5・5に桓武天皇遷都記念祭大曼陀羅供法会を修行。智積院では、4・8から仁王護国法会と宝物展示。西寺では、4・15に桓武天皇遷都記念大法要と大般若経真読。 日出 2・23、27、3・15</p>	<p>4・15 ㊤大谷派本願寺の阿弥陀堂・大師堂竣工、この日遷仏する。また4・24～26桓武天皇遷都記念法要を修行。 本山事務報告、日出 4・14</p> <p>4・24 ㊤洛陽基督教会がキリスト教演説会を開催。講師は同志社の坂田貞之助。 日出 4・24</p> <p>4・一 ㊤田村邦太郎・松山高吉が組合教会から聖公会へ転派、平安女学院で接手礼を受ける。 聖公会京都地方部資料</p> <p>5・1 ㊤㊤「京都府著名社寺概覧」(京都府内務部第6課半井真澄の調査)脱稿。明29・3府庁に備えつける。 日出 5・1、明29・3・26</p> <p>5・24 ㊤大谷派本願寺が『本山寺誌』を刊行。 本山事務報告</p> <p>5・28 ㊤組合教会のパロスが丹波地方で布教伝道。 丹波基督教会史</p> <p>6・3 ㊤府下の府・郷・村社神職40人が上京区の熊野神社で平和凱旋祭を行なう。6・1には平野神社でも平和祝賀会開催。 日出 6・1、5</p> <p>6・5 ㊤宇治県<small>まがた</small>の神社の県祭を古式に復す。6・6午前6時から神輿渡御となっていたのを、この年から闇夜の渡御の古例にしたがい、6日午前2時から3時の間に変更。 日出 6・5</p> <p>6・15 ㊤平安神宮最初の官祭を奉修、夜間の神宮参拝がはじめて許可される。 日出 6・14、15</p> <p>6・15 ㊤今宮神社で平和奉告祭を挙行。祝賀会を開き、軽気球をあげ、園遊会を開く。 日出 6・16</p> <p>6・一 ㊤良田秀山が浄土宗学京都支校第5代校長に就任。 東山学園100年史</p> <p>6・一 ㊤秋山光条が八坂神社宮司に就任。 日出 6・4</p> <p>7・9 ㊤清沢満之・南条文雄・村上专精・今川覚神ら13人、大谷派本願寺本山寺務の根本方針を学事と教務に置くよう建言。 清沢満之先生</p> <p>8・10 ㊤荻野独園(相国寺前管長)没、77歳。</p> <p>9・12 ㊤鼎竜暎(泉涌寺長老)が真言宗東寺長者に就任。 日出 9・14</p> <p>10・13 ㊤丹波教会松山会堂竣工、献堂式を行なう。 丹波基督教会史</p> <p>10・15 ㊤建勲神社記念祭で織田信長の遺品・宝物を一般公開(～11・15)。 日出 10・10</p> <p>10・一 ㊤同志社の外人教師全員が辞任と決定。これは日本伝道会社が6・28、アメリカンボードの指定寄付金を拒絶し、独立の方針をきめたため。 京都基督教会50年史</p>	

参	考	日	本
(1)	県神社：宇治市宇治蓮華町、祭神は木花咲耶姫命。もと平等院の鎮守で、三井寺門満院によって管理されていたが、神仏分離のときに独立。社名の県(あがた)は、祭神の木花咲耶姫命の別名吾田津姫のなまりといわれる。6・5の県祭は暗夜の奇祭として知られている。	3・一	ルーマス(米国聖書会社社長)、聖書20万部を出征兵士に寄贈。
		5・1	日本伝道会社第18回年会・組合教会第10回総会、大阪教会で開催(～3日)。日本伝道会社、米国伝道会社の指定寄付金を拒絶して独立することを決議(6・23、寄付金拒絶。10月、米国伝道会社から調査委員来日)。
		6・7	真言律宗、真言宗から独立(総本山、西大寺)。
		7・9	南条文雄・村上专精・清沢満之ら、東本願寺に寺務改革の建白を提出(明30・2・14、東本願寺、村上・清沢らを処分。同3・15、門主から改革案が提示。11・10、革新同盟会解散)。
		9・22	日本救世軍創立(英国からライト大佐ら士官14人来日。神田の青年会館で宣戦式挙行)。11月、機関紙『ときのこゑ』創刊。11月末、山室軍平入軍、士官候補生兼下足番となる)。
		10・24	日本組合教役者大会、奈良で開催(奈良大会宣言として、伝道の自由化をうち出す)。
		11・3	『日本聖公会祈禱書』刊行。
		11・一	基督同胞教会、伝道開始。
		11・一	リデル女史、熊本に救済の回春療院設立。
		この年	▷ 日本アライアンス教団・日本自由メソジスト教団、伝道開始。
			▷ バプテスト教会機関誌『基督教報』創刊。
			▷ デビソン増補纂『基督教聖歌集』刊行。
			▷ 内村鑑三『余は如何にして基督信徒となりし乎』(英文)刊行。
↗	11・15 ㊤天理教大原支教会の会堂の上棟式挙行。 河原町大教会史		
		11・18	㊤㊤京都・奈良の有志が古社寺保存有志会を結成。その目的は保存金下付の請願を京奈共同で行なうため。京都の委員は雨森菊太郎・内貴甚三郎・竹村藤兵衛(明29・2・13、内貴ら255人の提出した古社寺保存組織に関する請願書が貴族院で採択される)。 日出 11・19、明29・2・19
		この年	▷ ㊤秋、弘道館(同志社テットン女史の伝道機関)を聖公会がゆずり受け、英語夜学校を開設。 聖公会京都地方部資料

京	都	府
<p>1・10 ㊤舞鶴の桂林寺・瑞光寺で、前年夏戦病死した池田豊吉・高橋庄吉のために施餓鬼を行なう。有志者の参拝が多くみられた。日出 1・14</p> <p>2・15 ㊤㊤山城国軍人戦病死者招魂祭を東山靈山招魂社で開催。斎主は篠田時化雄、発起者総代は河越重幸大尉。高台寺山内では仏教各宗共同追悼大法要も修行。積内勸修寺門跡・村田妙法院門跡は各宗本山総代出席。日出 2・16</p> <p>3・25 ㊤内務省、府内寺院に修繕費を下付。大報恩寺3,800円・清水寺1,000円・七観音院300円・清閑寺300円。また3・30には南禅寺内南禅院1,500円・金地院200円・円山安養寺400円・花背村峰定寺500円。日出 3・26、4・5</p> <p>4・1 ㊤本派本願寺派遣の京都監獄教誡所教誡僧はこれまで無給であったが、今後月額5円支給。監獄教誡史</p> <p>4・3 ㊤㊤園部で、船井郡出身軍人凱旋祝賀会・戦没軍人招魂祭・追悼大法要を挙げる。園部記念碑前で招魂祭・南陽寺で法要・園部小学校で祝賀会の順に行なわれる。4・4には、何鹿郡東八田村安国寺境内でも戦没者追悼会を挙げる。日出 4・7</p> <p>4・5 ㊤今宮神社が木製懸灯籠のろうそくから失火、本殿・疫神社など焼失。同上</p> <p>4・5 ㊤天理教河原町分教会で、教祖10年祭を挙げる。河原町大教会史</p> <p>4・8 ㊤知恩院で、各宗寺院住職連合の釈尊降誕会を執行。方広寺の銅像釈尊を安置し、会長は積内勸修寺門跡。真宗以外の各宗貫主・住職らが出席。京華看病婦学校の悲田会員が貧民4,000人に米5合ずつを施す。⁽¹⁾ 講演・施本・甘茶の接待や音楽の催しなどあり、参詣人多く、山内にぎわう。日出 4・9</p> <p>4・13 ㊤丹波第二教会の綾部教会堂竣工、献堂式挙げる。丹波基督教会史</p> <p>4・一 ㊤本派本願寺門前の常楽寺・遍照寺を本願寺境内拡張のため下京区学林町へ移転。坊目誌</p> <p>5・13 ㊤日野靈瑞⁽²⁾(知恩院管長)没(79歳)。日出 5・17</p> <p>5・一 ㊤日蓮宗が京都檀林会を設立。本部は村雲瑞竜寺門跡、事務所は仁王門の頂妙寺、総裁は村雲尼、会長は立本寺管長池上日普。まず中学林の設立事業に着手する。日出 5・31</p> <p>5・一 ㊤宮津天主公会の天主堂竣工。設計者はルイ=ルラブ神父。京都の明治文化財</p> <p>6・7 ㊤本派本願寺対面所前の能舞台を再興。これは明治初年に植村知事の命により撤去していた。日出 6・4、9</p>	<p>6・8 ㊤東西両本願寺門主に伯爵を授けられ、仏光寺門主には男爵が授けられる。官報</p> <p>6・下 ㊤平安神宮に平安協会を結成。発起人は内貴甚三郎・浜岡光哲ら。平安神宮大祭・建造物・神苑の維持を目的とする。事務所は同社社務所に置く。日出 6・23</p> <p>6・一 ㊤村田寂順(妙法院門跡)が天台座主に就任。日出 7・1</p> <p>7・1 ㊤真宗仏光寺派、勸学院を開院。坊目誌</p> <p>7・下 ㊤留岡幸助が丹波地方で布教伝道。丹波基督教会史</p> <p>7・一 ㊤三井道郎、京都ハリストス正教会聖堂建立の意見書をニコライ主教⁽³⁾に提出、認可されて明30・3片山九郎三郎所有の京都能楽堂跡を購入。正教時報 851</p> <p>8・15 ㊤嵯峨村愛宕山の愛宕神社が旧境内山林の復旧を請願。日出 8・16</p> <p>8・20 ㊤野上運海(増上寺住職)が浄土宗管長に就任。日出 8・27</p> <p>8・21 ㊤米国伝道会社宣教師、同志社との関係を断絶(明30・4小崎弘道社長辞職、その後任社長横井時雄明31・12辞職、提携回復)。同志社50年史</p> <p>8・25 ㊤大谷派真宗第一中学寮を真宗京都中学と改称。大谷中高校90年史</p> <p>9・1 ㊤宇治万福寺の行乗(黄檗宗管長)没。</p> <p>9・1 ㊤真宗大学寮(大谷派)を真宗大学と改称。安居研究の制規によるものを高倉大学寮と称し別置する。これは6・5発布の真宗高倉大学条例・真宗大学条例に基づくもの。本山事務報告、高倉学寮沿革誌</p> <p>9・15 ㊤嵯峨天竜寺が元治1兵火で焼失した本殿再建起工式を挙げる。日出 9・13、17</p> <p>10・30 ㊤清沢満之ら『教界時言』を創刊。これにより大谷派本願寺の体制改革を全国末寺に訴える。清沢満之</p> <p>10・一 ㊤大原野神社保存会を設立。本部は東京赤坂の九条家、支部を京都大原野神社内におき、支部長は大槻京都府参事官。その目的は社殿・神苑の修理、私祭の運営など。日出 10・28</p> <p>11・14 ㊤南禅寺の釈迦三尊仏が仏師田中文弥により造立される。日出 11・15</p> <p>12・6 ㊤L. R.モット(米国青年会幹事)が祇園館で演説会を開催。平安基督教会略史</p> <p>12・10 ㊤妙法院の宸殿再建に着手。この宸殿は明5府立病院創立に際し、宸殿1棟のほか里坊と6,880円を寄付したため、宸殿跡のみ残存していた。日出 12・11</p>	

参	考	日	本
(1) 追善施米：「総本山にては七月一日故門主鳳誉大僧正(福田行誠)の御追善を執行し、僧俗四百餘名へ浄齋を供養せられ……、其上にも一層の慈悲行を修し赤貧者を修し、赤貧者三千人へ施米せられたり。其景況を聞くに施米券は三千枚を上下京区役所へ配達方を依頼し、当日は大殿の前なる泰平亭(茶所)に於て施米券引換に一人に付白米五合づゝ配与せられ……」華頂 明29・7・7	(2) 日野靈瑞：文政1(1818)信濃国更級郡布施高田村生まれ。明19・3・3、増上寺第41世に就任、同年4月浄土宗5本山の一年交番管長制による管長に就任、5本山の物議止まず、明20・3・28辞職。福田行誠没後、同21・5管長の職に就き、6・5、71歳で知恩院第77世住職を継ぐ。	(3) ニコライ(Nikolai Kasatkin)：1836~1911。1860年ペテルブルグの神学大学卒業。在学中、ゴロウニンの『日本幽囚記』を読み、日本伝道を志す。文久1(1861)、函館に着き布教を開始。明1(1868)以来函館の教勢盛んとなる。同4(1871)東京築地で開教。同5、神田駿河台に正教会本部を移し、語学校(神学校の前身)を設立。同24(1891)、大聖堂を竣工させた。日本正教会の大主教。	<p>1・一 山室軍平、救世軍中尉となる(日本人最初の救世軍士官)。</p> <p>1・一 真宗本派、台湾開教。</p> <p>4・6 天理教に対する警察の干渉強化(内務省の秘密訓令に基づく)。</p> <p>4・11 日本聖公会第5回総会、大阪で開催(祈禱書を公認し、地方部制を確立)。</p> <p>8・12 仏教各宗協会編『仏教各宗綱要』12巻完結。</p> <p>9・1 真宗大谷派、真言大学寮を真宗大学と改称(明34・10、巢鴨に移転)。</p> <p>9・26 第1回宗教家懇談会を開催(釈宗演・巖本善治らの呼びかけにより、大内青巒・村上専精・柴田礼一・海老名弾正ら参加)。</p> <p>9・一 セブンスデイ=アドベンチスト教会、伝道開始。</p> <p>11・8 神宮司庁蔵版『古事類苑』刊行(大3・8・29、355冊完結)。</p> <p>11・8 モット(世界学生基督教連盟初代総幹事)、来日。多くの学生YMCAの結成を指導。</p> <p>12・14 岸本能武太・姉崎正治ら、第1回比較宗教研究会を、東京基督教青年会館で開催。</p> <p>この年</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ キリスト者池原遠、日曜学校社設立。 ▷ 島崎藤村、東北学院教師に就任。 ▷ 中島博光ら、『神道叢書』を刊行。 ▷ 『バプテスト新報』創刊。 ▷ 成田山新勝寺貫主三池照鳳没、49歳。 ▷ 浄土宗管長日野靈瑞没、79歳。
↗	12・上 ㊤下川原町の七観音院の庫裡・客殿の再建に着手(明30・5・18竣工)。日出 12・11、明30・5・19	12・29 ㊤大谷派本願寺が寺務方職制を改正し財務部・上司組織など改正。執事渥美契縁が辞任。本山事務報告、日出 12・20	12・一 ㊤宮崎海芳(銀閣寺住職)が内貴甚三郎らと銀閣寺会を設立。日出 12・13
	12・一 ㊤内貴甚三郎(清水寺信徒総代)ら、清水寺の風致保存のため、上地ずみの土地10,000坪の無料払い下げを申請(明38・1、旧境内地16,443坪を下付される)。本派本願寺も旧境内地払い下げを知事に申請。日出 12・4、13		

京	都	府
<p>1・19 ㊤大谷勝縁、大谷派本願寺執事に就任(2・22には石川舜台が参務となる)。常葉年表</p> <p>1・一 ㊤知恩院山内法徳院に、安藤精軒の治療所を再興。本派本願寺護持会の基金と慈善救済基金とによる。</p> <p>1・一 ㊤天田郡雀部村に、真宗大谷派の説教所を設立。</p> <p>2・14 ㊤大谷派本願寺、本山改革を唱える白川党员(村上专精・清沢満之・佐々木月樵・多田鼎・曉鳥敏ら)全員を除名。常葉年表、日出 2・16</p> <p>2・27 ㊤松月東光・土川善徹(浄土宗)『宗粹』(月刊)を創刊。日出 4・11</p> <p>3・1 ㊤大谷派本願寺は寺務所職制改正。教務部と学務部を合して教務部とするなど、寺務部門の統廃合を行なう。日出 3・3、本山事務報告</p> <p>3・14 ㊤中村祝空(愛知県宝飯郡安楽寺住職)が中京区新京極誓願寺貫主に就任。日出 3・16</p> <p>3・17 ㊤平安教会会堂竣工。献堂式と創立20周年記念式を挙行。平安基督教会略史</p> <p>3・一 ㊤京都ハリストス正教会、会堂建設用地として、柳馬場二条上ル京都能楽堂跡(観世家元片山九郎三郎所有)を購入。正教時報 851</p> <p>4・13 ㊤豊国廟修築工事に着工(明31・3・30竣工、33,637坪、石段563段、海拔480尺、五輪塔の高さ31.8尺・基石方11尺)。日出 4・1、府誌</p> <p>4・13 ㊤ゴルドンが伝道会社社長の長田時行に招かれ、丹波地方で布教、各地で演説会開催。4・13亀岡会堂で、4・14氷所会堂で、4・15松山会堂で、4・16須知会堂で演説。丹波基督教会史</p> <p>4・26 ㊤日蓮宗の如法講真実結社教の会所を天田郡雀部村に設立。</p> <p>4・一 ㊤伝道会社事務所を京都から大阪へ移す。平安基督教会略史</p> <p>4・一 ㊤上京区聖護院町の聖林院が京都帝国大学医学部付属病院にその境内地をゆずり、0.5町西方に移転。坊目誌</p> <p>4・一 ㊤中村栄助が組合教会常議員に就任(京都からの最初の本部役員)。京都基督教会50年史</p> <p>4・一 ㊤横井時雄⁽¹⁾、同志社社長兼校長に就任。同志社90年小史</p> <p>5・1 ㊤出町基督教講義所を上京区出町枳形下ル青竜町に設立。府庁文書 明32-75</p> <p>5・中 ㊤中西牛郎『嚴護法城』を刊行。日出 5・18</p> <p>5・21 ㊤基督教浸礼教会の講義所を上京区河原町通丸太町下ル伊勢町に設立。府庁文書 明32-75</p>	<p>5・一 ㊤方広寺耳塚を修築し、耳塚前面に村田寂順撰文の石碑を建立。坊目誌</p> <p>5・一 ㊤篤志看護婦人会の京都支部を設立。会長は村雲尼日栄。浄土教報 297</p> <p>5・一 ㊤三条基督教講義所を三条寺町西入ル弁慶石町に設立。</p> <p>6・3 ㊤仏教の各宗協会の定期大会を建仁寺で開催(〜9日)。新たに日蓮・臨済の2宗が加入し、協会長は森田悟由、議長は村田寂順、寺院法の議会提出を決議。日出 6・6、10</p> <p>6・7 ㊤真言宗が宗制を改正。寺院を総本山・大本山・特等地・等地・准等地に区別。教王護国寺を総本山、仁和寺・大覚寺・勸修寺・醍醐寺・随心院・泉涌寺・金剛峰寺・智積院・長谷寺を大本山とする。日出 6・10</p> <p>6・13 ㊤東中筋魚之棚下ル遍照寺で、念珠品評会開催。主催は京都念珠商組合、出品300余点、審査員は寺島作右衛門・片山仙助・亀井半七。日出 6・13</p> <p>7・1 ㊤田部等、護王神社宮司に就任。護王神社誌</p> <p>7・7 ㊤日蓮宗八品派妙蓮寺、末寺宥清寺信徒が本門仏立講に傾倒しているため、住職御牧現喜の教職剥奪を決定。そのため各地から仏立講信者数百人が上洛、妙蓮寺に対し処分撤回を要求。日出 7・15</p> <p>7・下 ㊤大谷派本願寺の在京都有志僧侶が雑居準備護法大同団を結成。本部を下京区下枳殺馬場間之町東入ル6番戸におく。発起人は真宗中学校長小栗憲一・江村秀山・蓮弘鑑・広瀬守一。日出 8・1</p> <p>7・一 ㊤教会雑誌社が『教海一瀾』(週刊)を創刊。明治仏教新聞雑誌目録</p> <p>8・24 ㊤新日吉神社、社地を豊国廟にゆずり、東山区妙法院前側町に移転。日出 8・26</p> <p>8・一 ㊤相国寺の維摩会再興。教学報知 11・1</p> <p>9・一 ㊤石室孝暢(曼珠院門跡)、天台座主に就任(明32・1辞任)。府寺誌稿 57</p> <p>9・一 ㊤同志社が今出川講義所に幼稚園を設立。経営者はM. F. デントン・佐伯理一郎。同志社90年小史</p> <p>10・1 ㊤天理教京都明誠組に日蓮宗信者の転入増加、明誠講社員120人となる。天理教統計年鑑</p> <p>10・1 ㊤三原曉照編『教学報知』創刊。発行所は葛野郡大内村教学報知新聞社(明34・1、『中外日報』と改題)。明治仏教新聞雑誌目録</p> <p>11・15 ㊤天理教唐橋支教会の教祖殿竣工。河原町大教会史</p>	

参	考	日	本
(1)	横井時雄：安政4〜昭2(1857〜1927)、熊本に生まる。明9(1876)、熊本バンドに入る。のち開成学校(東大の前身)に移ったが、同志社に再転し、同12(1879)同志社を卒業。四国今治・東京本郷で布教ののち、米国へ留学。帰国後、同志社社長に就任。のち政界に入り、日糖事件に連座して失脚。著書に『我国のキリスト教諸問題』がある。	1・16	日本学生基督教青年同盟(日本学生YMCA同盟)成立大会開催。
		1・一	キリスト者原胤昭、東京出獄人保護所設立。
		4・3	樽井藤吉・中村太八郎・西村玄道ら、社会問題研究会を結成(政治家・学者・新聞記者・牧師ら多数参加、社会問題の学理と実際の研究を目的とし、毎月例会。明31・10消滅)。
		4・15	仏教社会事業家瓜生岩子没、69歳。
		4・一	河瀬秀治・大内青巒ら上官教会を設立。
		4・一	田中頼庸(神道学者)没、62歳。
		6・5	古社寺保存法制定。
		6・26	河口慧海、チベットに出発。
		8・5	ピカステス(聖公会)、英国で没。
		この年	▷ 正宗白鳥、植村正久より受洗。
			▷ 村上・鷲尾・境野共著『大日本仏教史』刊行。
			▷ 姉崎正治『印度宗教史』刊行。
			▷ キリスト教界で日本禁酒同盟会設立。
↗		11・一	㊤丹波教会の須知青年団結成。団員約10人。毎日曜夜、丹波教会で聖書研究会を行なう。丹波基督教会史
		12・13	㊤宮川経輝(有志伝道隊長)、丹波各地で演説会を開催。13日松山・14日須知・15〜17日氷所・16日亀岡・17日南大谷。熊本バンド研究
		12・25	㊤四条教会の新会堂竣工。京都基督教会50年史
		この年	▷ ㊤聖公会京都地方部の婦人伝道補助会を結成。日本聖公会100年史
			▷ ㊤聖公会が桃山・宮津・舞鶴に布教を開始。そのため大獄菊治郎を宮津に派遣。聖公会京都地方部資料、日本聖公会100年史

京	都	府
<p>1・1 ㊤大谷派本願寺の負債総額、73万8,694円41銭2厘となる。 常葉年表</p> <p>1・3 ㊤京都市内キリスト教会の連合祈禱会が四条教会で開かれる。 京都基督教会50年史</p> <p>1・11 ㊤大原三千院の宮中懺法(お懺法講)を再興。⁽¹⁾ 府誌</p> <p>1・28 ㊤国重正文、伏見稲荷神社宮司に就任(明34・10・27没まで在職)。 稲荷詞官補任表</p> <p>2・6 ㊤関西仏教青年会⁽²⁾第1回大会を日蓮宗本圀寺で開催。 教学報知</p> <p>3・25 ㊤豊国300年祭に、仏教各宗が共同で仏祭を営むことを計画。4・22臨済宗7派連合、4・23真言宗新古連合、4・27、日蓮宗本圀寺、4・28浄土宗各派連合、5・1日蓮宗本能寺、5・14仏光寺の予定。 同上</p> <p>3・30 ㊤東山阿弥陀ヶ峰に豊国廟竣工(敷地33,637坪)。 豊国神社誌</p> <p>3・一 ㊤真宗大谷派の学僧が真宗の教義研究と教化のため貫練会を設立。 教学報知</p> <p>3・一 ㊤京都保勝会の山本復一ら、愛宕山復興のため、愛宕会を設立。 同上</p> <p>3・一 ㊤東山妙法院の寝殿竣工(明19・2再建に着手)。 坊目誌</p> <p>4・15 ㊤護王神社で、和気清麻呂1100年祭を挙行。 護王神社誌</p> <p>4・18 ㊤豊国神社で、豊太閤300年祭を挙行。 豊国神社誌</p> <p>4・18 ㊤東西両本願寺、蓮如400年忌法要を修行(～24日)。河崎顯成・竜川賢随ら、これを記念して、大日本仏教青年興徳会を創立。 常葉年表、宗報</p> <p>5・一 ㊤京都聖三一教会(聖公会)聖堂が上京区下立売烏丸西入りに竣工。したがってこれまでの小川講義所を聖三一教会と改称し、新築の聖三一教会聖堂は、聖公会京都教区大聖堂をかねる。同聖堂では、英語による礼拝説教も実施。 聖公会京都地方部資料</p> <p>6・9 ㊤フランスの著名仏教学者シルバン＝レビーが来日し、京都に来訪。6・30に本派本願寺の文学寮で、インドにおける探検談を講演。 教学報知 5・5、7・11</p> <p>6・一 ㊤児内賢象編『興徳』(月刊)を創刊。 明治仏教新聞雑誌目録</p> <p>6・一 ㊤寺本婉雅、真宗大学を退学してチベットに留学。 府庁文書 大5-50</p> <p>7・2 ㊤仏教各宗協会大会を大谷派本願寺旧事務所で開催(～8日)。会長に大谷光瑩、議長に前田誠節、副議長に藤島了穂が就任。 日出 7・3、教学報知</p> <p>7・7 ㊤㊤府、古社寺建造物修理規程を發布。 府令57号</p> <p>7・25 ㊤臨済宗の10派本山代表25人が建仁寺両足院で会合し、10派同盟の実をあげるよう定期的会合(年1回)の開催を決める(～28日)[5月蘆津実全ら、禪宗同盟会を結成]。 教学報知</p>	<p>7・28 ㊤㊤府、神社仏閣殿堂観覧料等取締法(内務省令)による出願を指示。 府令59号</p> <p>7・31 ㊤藤堂融纂訳『文明各国宗教法論』第1編を刊行。石川舜台の序文。</p> <p>7・一 ㊤聖公会の村田松之助、舞鶴町北田辺に居住し、日曜学校・英語夜学校を開設(明33東京へ転任)。 聖公会京都地方部資料</p> <p>8・7 ㊤紀伊郡深草村の藤原兼実の本墓を保存するため内正保存会財団(真宗)を設立。 仏教年鑑 昭6</p> <p>9・1 ㊤真言宗京都高等中学林(種智院大学の前身)を東寺内に設立しこの日開校。 坊目誌、府誌</p> <p>9・1 ㊤5月の学制改革に基づき浄土宗学京都支校を浄土宗第五教区宗学教校としてこの日開校。校長は土川善教。 東山学園100年史</p> <p>9・11 ㊤濃飛育児院設立のための幻灯会を開催。11日船井郡松山会堂、12日須知会堂。 丹波基督教会史</p> <p>9・20 ㊤浄土宗宗学本校(知恩院内)専門科を専門学院に改組、この日開校式を挙行(明34・8・13鹿ヶ谷に新築移転)。 仏教専門学校30年史</p> <p>9・28 ㊤日本仏教真美協会を設立し、第1回会員総会開催(会長は伊藤貫宗、専務理事は田島志一で『日本仏教真美偉観』の刊行を計画)。 日出 10・1</p> <p>9・一 ㊤聖公会が聖アンデレ同胞会を結成。会長は工科大学生加藤栄、青年を対象とした伝道機関として同時に婦人補助会も結成し、会長に松山経子が就任。 聖公会京都地方部資料</p> <p>10・8 ㊤上田喜三郎(のちの出口王仁三郎)、綾部の大本教開祖出口なおと初めて会合。 巨人出口王仁三郎</p> <p>10・25 ㊤大谷派本願寺の寺務所職制改正を行なう。部局を上局・法務局・議制局・司正局・開教事務局・内事局・教務課・学務課・庶務課・資金課・会計課・理財課とする。 宗報</p> <p>10・27 ㊤市内真宗大谷派寺院の京都温知会⁽³⁾、<巢鴨教諭師問題>に対する方針を決議し同問題解決のため運動を始める。 教学報知 11・3、7</p> <p>10・一 ㊤聖公会のグリーン、病気休養のため帰米。 聖公会京都地方部資料</p> <p>11・1 ㊤タムソンが下京区三条通白川橋邊之町に、浸礼教会講義所⁽⁴⁾を設立。</p> <p>11・13 ㊤聖公会が20世紀大挙伝道を開始し多川幾造・田村初太郎・白石村治らが講演。 聖公会京都地方部資料</p> <p>11・一 ㊤真宗仏光寺派の勸学院を真宗学院と改称。 府庁文書 明44-59</p> <p>12・28 ㊤近藤芳介(伏見稲荷宮司)没。 稲荷年表</p> <p>この年 ▷ ㊤聖公会の西舞鶴講義所を設立。また同五条講義所を京都聖約翰教会と改称。 日本聖公会100年史、聖公会京都地方部資料</p>	

参	考	日	本
(1)	三千院宮中懺法：洛北大原の梶井宮門跡による三千院の懺法は、法華経を誦誦し罪障を懺悔する法華懺法で、天皇や皇后崩御のときに勅宣で3日間、宮中・門跡寺院で行なわれた皇室の大法要。明30・1・10、英照皇太后崩御のときに明治維新以来中絶していた同懺法が再興され、この年三千院仮寝殿で同院の懺法が再興された。	1・一	「メリーの友会」を改め、日本聖公会北部婦人補助会結成。
(2)	関西仏教青年会：東京の大日本仏教青年会と並び称せられる京都を中心とする仏教青年会。第1回大会は日蓮宗中檀林本圀寺で、第2回大会は臨済宗妙心寺で5・16に、第3回大会は真宗大学(大谷派)講堂で10・2に開催。 教学報知 10・7	2・22	内務省、教派神道と仏教に属する教師の神社における布教禁止。
(3)	京都温知会動向：10・27に協議した 巢鴨監獄教諭師問題の方針で、10・31に東本願寺参務石川舜台に同会委員3人、阿部恵水・福井了雄・桶口大悟らが面会し11・3の委員報告会で石川舜台の主張を支持し、内務省への意見書提出、市内大谷派寺院へ交渉し与論喚起のため市内で演説会の開催や印刷物の配布の実施などを決議(<巢鴨監獄教諭師問題>は9・6に巢鴨監獄教諭の典獄有馬四郎助が真宗大谷派教諭師藤郷了証ら4人を解職し、キリスト教教諭師留岡幸助を採用したことに始まり、大谷派参務石川舜台が9・25と9・30に大隈重信首相に檄文を送り、その処置が不当であることを指摘し、キリスト教排撃を強調(明教10・10)、大日本仏教青年会が内務省への反抗運動へ発展させることを決議(明教10・12)、10・17に関西仏教青年会も内務省の不当を決議するなど全国的規模へ発展。10・28には青木京都府書記官が内務省の招喚で出頭し、同問題を熟議した(教学報知11・1)。11・28に京都法話会は元巢鴨監獄教諭師間野蘭門と三山元樹を招聘し、教諭師問題に関する演説会を開催(教学報知12・3)するなど、大谷派本山東本願寺と石川舜台を支持する京都の仏教諸団体の動向が注目された)。	3・10	フルベッキ、東京で没、68歳。
(4)	浸礼教会：バプテスト教会。プロテスタント教会の一つ。洗礼ではなく浸礼を主張。わが国へは、万延1(1860)、自由伝道会のゴープルが来日したのが、バプテスト開教の最初。明5(1872)米国北部バプテスト教会のN.ブラウンが来日し、同12(1879)に日本最初の和訳新約聖書を出版。昭16(1941)、日本キリスト教団に加入したが、第二次大戦後離脱。バプテスト教会内部もバプテスト連盟・バプテスト同盟などに分裂。	3・25	『六合雑誌』、『宗教』を合併し、ユニテリアン弘道会から発行。
		4・30	函館にトラピスチン天使園大修道院設立。
		6・10	内村鑑三『東京独立雑誌』を創刊(明33・7廃刊)。
		7・7	社寺の参拝料金徴集を禁止し、殿堂などの観覧料は地方長官の許可制となる(8・1実施)。
		9・5	巢鴨監獄で、仏教教諭師を免職し、キリスト教牧師を教諭師として採用<巢鴨教諭師事件>(明32・3 仏教教諭師復帰)。
		9・一	高楠順次郎『梵文学教科書』刊行。
		11・15	全国神職同盟臨時会、東京で開催(神祇官再興をはかるため全国神職会設立)。
		11・一	ハワード(同胞教会最初の宣教師)来日。
		11・一	柏木義円・大久保貞次郎『上毛教界月報』創刊(昭11・12廃刊)。
		この年	▷ 吉野作造受洗。 ▷ 内務省社寺局『官国幣社一覽』刊行。 ▷ 姉崎正治『比較宗教学』刊行。 ▷ 4月現在の基督教組合教会
		教会数	72
		会員数	10,081人
		通常費	14,135,426円
		集金額	23,261,436円
		財産総額	84,073,341円
		明30中の受洗者	379人

京	都	府
1・10 ㊤獅子吼観定(金戒光明寺貫主)没、京都名家墳墓録		
1・11 ㊤真宗興正派の学寮焼失(1・26、再建を決定)。 教学報知 2・1		
1・14 ㊤四条教会創立15周年記念祈禱会举行。 京都基督教会50年史		
1・15 ㊤真宗少年徳義会女子部を西六条顕道学館内に設立。 教学報知		
1・19 ㊤西本願寺の大谷光瑞、清国に渡る。明36・3・13までセイロン・印度・西欧・エジプトの諸国を巡遊。		
1・20 ㊤由理滴水 ⁽¹⁾ (臨済宗天竜寺派管長)没、78歳。 教学報知 1・23、27		
1・26 ㊤国重正文が伏見稲荷神社官司に就任。 稲荷年表		
1・一 ㊤反省会の『反省雑誌』を『中央公論』と改題し、東京で発行(2月、京都の反省会本部が『反省』を発行)。 明治仏教新聞雑誌目録		
2・7 ㊤内貴甚三郎ら清水寺信徒18講社が、清水寺本堂と舞台の修築費の募財を開始。 教学報知		
2・19 ㊤嵯峨天竜寺の元治1兵火で焼失した本殿 ⁽²⁾ 竣工(明30・9再建に着手)。 同上		
2・一 ㊤橋本峨山(天竜寺副住職)が臨済宗天竜寺派管長に就任。 同上		
2・一 ㊤西山禾山が臨済宗妙心寺派管長に就任。		
2・一 ㊤真宗大谷派の信徒丹羽憲顕、京華養育院を設立。仏教主義に立脚し孤貧児を教育するもので、独立自営する。 仏教社会史		
3・18 ㊤伏見稲荷神社内の東丸神社、遷座10年祭を举行。 稲荷年表		
3・22 ㊤愛隣基督教会を上京区富小路仁王門下ル讃州寺町に設立。 府庁文書 明32-75		
3・一 ㊤北野神社に、北野会を結成。 日出 3・20		
4・10 ㊤愛宕郡田中村の干菜山光福寺(六齋念仏本寺)住職松岡了善が、孤貧児救済のため一連教会を設立。 ⁽³⁾ 浄土教報 5・14		
4・11 ㊤護王神社の和気祭を4・15に恒例祭として実施することに決定。 日出 4・12、16		
4・中 ㊤丹波亀岡町で、キリスト教教師が貧民子女に裁縫・マッチ製造法などを無料で伝習、そのため入信者多し。仏教僧侶ら、これに対抗して生花・点茶などを無料教授することを計画。 日出 4・14		
5・1 ㊤コザト女史と鶴岡伝道師が丹波地方で布教伝道(〜9日)。 丹波基督教会史		
5・5 ㊤園部天満宮の鎮座997年祭を举行(〜9日)。 日出 5・9		
5・6 ㊤丹波教会の杉田潮・露無文治が亀岡で布教。 丹波基督教会史		
5・11 ㊤湯浅吉郎が平安教会牧師に就任。 平安基督教会略史		
5・25 ㊤小林宗補(虎関)、臨済宗妙心寺派管長に就任。 官報		
	5・一 ㊤日本仏教真美協会(建仁寺禪居庵内)が『真美大観』第1冊を刊行。醍醐三寶院の五秘密画像・法隆寺薬師如来金銅像・宇治平等院・曼珠院の雪舟筆夏冬山水など木版摺絵・写真50種を掲載、解説は藤井宣正。 日出 5・21	
	5・一 ㊤聖ヨハネ教会の説教会を開催したが、途中妨害される。 聖公会京都地方部資料	
	5・一 ㊤出雲大社教 ⁽⁴⁾ が山城・丹波・丹後・近江地方を管轄するため、京都本部設立を決定。 日出 5・8	
	6・1 ㊤真幡寸神社の社殿修理を終え、正遷宮式を举行。 日出 5・27、6・6	
	6・10 ㊤西本願寺法主大谷光尊、大日本仏教慈善会(財) ⁽⁵⁾ を設立。明34・9・23内務省、同会設立を認可。 教学報知 6・12、7・23、明34・9・29	
	6・10 ㊤南禅寺本堂再建のため、同寺執事、長山虎堅が瑞竜会を設立。 教学報知	
	6・11 ㊤西陣組合基督教の講義所を上京区五辻通千本東入ル五辻東町に設立。	
	6・17 ㊤東福寺山内の明暗教会員(虚無僧)が激増し、北陸地方に支部の設置を決定。 教学報知 6・21	
	6・17 ㊤神泉苑護法寺を整備するため、清水寺法性院本堂を、書院として移築。 教学報知 6・19	
	7・2 東京湯島靈雲寺の釈雲照が大本山御室仁和寺住職に就任。 教学報知 10・3	
	7・一 ㊤真宗大谷派が軍隊布教を開始。 宗報	
	8・1 ㊤キリスト教ユニテリアン協会の演説会を祇園会館で開催。演説は野口善四郎「宗教の革命時期」・村井知至「基督教の社会的方面」・平井金三「仏教と社会的精神」など。 中外 8・1	
	8・8 ㊤上田喜三郎(出口王仁三郎)が大本教に入信し、金明会を結成。 巨人出口王仁三郎	
	8・21 ㊤仏教青年会の十五日会が慈善夜学校を五条大橋東善立寺に設立。 教学報知 7・3、8・21	
	9・一 ㊤真宗大学生竹島将法が洛東慈善学院を設立。 仏教 165	
	9・一 ㊤御池八幡社の2月初卯の大祭を3月に、8・14〜15の中秋祭を9月に変更。 日出 9・8	
	9・一 ㊤パットンが聖三一教会主任長老として着任。パットン夫人は聖三一教会に母の会を結成。 聖公会京都地方部資料	
	10・23 ㊤布目潮深、日蓮宗教会所を加佐郡余内村余部(中舞鶴)に設立。 府指令 明32-3949、府庁文書 大12	
	10・26 ㊤日本聖公会、京都区監督を設置。 日本聖公会100年史	
	11・上 ㊤新日吉神社の社域拡張と社殿新築のため募金開始(目標額5,000円)。 日出 11・12	
	12・上 ㊤今宮神社の再建をめぐる信徒と社司との意見の対立が激化(明33・6解決)。 日出 12・12	
	この年 ▷ ㊤秋、与謝郡加悦町で聖書研究会が発足し講師は宮津組合教会牧師の小北寅之助。のちに聖公会の袋井久之亟となる。会員は明33聖公会で受洗。 聖公会京都地方部資料	

参	考	日	本
(1) 由理滴水：文政5(1822)・4・8丹波国何鹿郡白道路村に生まる。父彦兵衛の遺命により9歳で丹後国加佐郡行永村の竜勝寺に入り得度、明4天竜寺管長に就任し、元治1・7に兵火で焼失した天竜寺の再興に尽す。明24法嗣竜淵に管長職を譲り、一時林丘寺に閉栖。明29再び天竜寺管長に就き、明30・3に念願の天竜寺本堂の再建に着手したが、明32・2・19の竣工を目前に没す。 中外 1・25		1・一	大日本仏教 国民同盟会、『政教時報』創刊。5月同会を大日本仏教徒同盟会と改称。
(2) 天竜寺本堂：元治1(1864)・7に長州藩士を宿泊させたことから、同藩士を「朝敵」とする会津・薩摩両藩が、天竜寺の法堂・本堂・聖廟・祖師堂の諸伽藍並びに塔中6カ寺を砲火で焼き払った。明12山岡鉄舟らは、内務省が禁止していた僧侶托鉢による勸進募財を許可するよう陳情したため特別に許可。由理滴水らが諸堂再建の募財に奔走。その後一時中断したが、明30・9・15に再建起工式を挙げ、明32(1899)に焼失後35年ぶりで落成。		3・一	境野黄洋・高島米峰・杉村縦横・渡辺海旭・加藤玄智ら、仏教清徒同志会を結成(明36、新仏教同志会と改称)。
(3) 一連教会：「例月十八日教会長松岡了善担任にて宗祖(法然)大師法話集を講話し、会員一人付金壹銭宛を蓄積す、此金を以て天災地変の慈善費に支出」 浄土教報 明39・5・14		7・27	神道・仏教以外の宗教の宣布および堂宇・会堂設立に関する規定を公布(キリスト教がはじめて宗教行政の対象となる)。
(4) 出雲大社教：出雲大社官司、千家尊福(たかとみ)が、明6に出雲大社敬神講を組織。明15神道大社教、昭21出雲大社教と改称。本部は島根県出雲市の出雲大社にある。		8・3	文部省、公認の学校において宗教上の儀式・教育を行なうことを禁止(青山学院・明治学院、中学の資格返上。同志社、普通学校設立。立教中学、寄宿舎でキリスト教教育実施)。
(5) 大日本仏教慈善会(財)：西本願寺法主大谷光尊が、真宗本願寺派の全国門信徒の協力で貧民施療、育児・免囚の保護、災害者救済、学校運営費援助などを目的として企画した慈善事業。7・21財団基金を30万円として7カ年間に470万円を募財し、予算総額500万円をもって運営することなどの同会規則草案を決議。		8・一	『全国神職会会報』創刊。
		9・5	神宮教解散し、神宮奉斎会(財)を結成。
		11・23	留岡幸助(組合教会牧師)、栗鴨に少年感化院「家庭学校」設立。
		12・9	宗教法案はじめて議会上程。
		12・18	キリスト教界で基督青年会館に集会、宗教法案の成立を希望する。
		この年	▷ 山室軍平『平民の福音』刊行。 ▷ 明35にかけ、各地に地方日曜学校同盟成立。 ▷ 明33にかけて、宗教法案の議会上程を機に、仏教界で宗教法案否決運動および仏教公認運動活発化。

京	都	府
1・31 ㊟上田喜三郎（出口王仁三郎）、大本教2代目教主出口すみと結婚。 大本70年史、巨人出口王仁三郎	6・13 ㊟北野神社の社殿改築のため仮遷宮式を挙行。 日出 6・9	
2・2 ㊟パートリッジ、聖公会京都地方部監督に就任。 聖公会京都地方部資料	6・中 ㊟紫野の今宮神社、火災により社殿焼失以来、氏子と社司との間で再建をめぐる紛争したが佐々木社司が辞任して5年ぶりに解決。後任社司に息子の佐々木八重太郎が就任。 日出 6・17、9・1	
2・5 ㊟パートレットが船井郡須知会堂で説教伝道。3・5、湯浅吉郎が同郡松山会堂で講演。 丹波基督教会史	6・24 ㊟寺島真応（真言宗醍醐三宝院門跡）没。 新仏教 明33-1	
2・下 ㊟南桑田郡出雲神社に保存会設立。土地後荒廃しているため、26,000円を募金し、同社の復旧をはかる。 日出 2・25、3・13	7・中 ㊟若王子神社 ⁽¹⁾ の修理費の募金開始。発起人は山科言繩・西洞院信愛・三室戸和光・若王子文建・伊藤快彦ら。 日出 7・19	
3・25 ㊟四条教会の教会報『恵の露』を創刊。 京都基督教会50年史	7・20 ㊟宗粋社発行の『宗粋』を『宗粋雑誌』（月刊）と改題。 明治仏教新聞雑誌目録	
3・27 ㊟真宗仏光寺（下京区）、僧侶の養成と末寺の護持のため、興教会を設立。 仏教年鑑 昭6	7・30 ㊟大谷光演らがシヤムから7・11奉迎の仏骨を妙法院寢殿に仮奉安する。 新仏教 明33-1	
4・13 ㊟真宗大谷派の近角常観・池上栄吉がヨーロッパの宗教制度視察のため出発。常葉年表	8・10 ㊟真言宗が7派に分立し、各派ごとに管長を別置することとなる。古義真言宗は、御室仁和寺を本山とする御室派、醍醐寺を本山とする醍醐派、嵯峨大覚寺を本山とする大覚寺派、高野山金剛峰寺を本山とする高野派、東寺・勸修寺・随心院・泉涌寺の4寺を本山とする真言宗の5派となる。新義真言宗は、智積院を本山とする智山派、大和長谷寺を本山とする豊山派の2派となる。 ⁽¹⁾ 内務省告示74号	
4・15 ㊟与謝郡市場村の八幡神社、社務所の新築に着工。 日出 4・11	8・一 ㊟柳谷の楊谷寺（乙訓郡長岡町）が福井県敦賀町川崎区に出張所を設立。 楊谷寺誌	
4・一 ㊟北桑田郡の山国神社、郷社から府社に昇格。 日出 10・7	8・一 ㊟聖公会の和田正興、与謝郡加悦地方に滞在し布教伝道（和田は陸奥宗光の甥で明44・1没）。 聖公会京都地方部資料	
5・2 ㊟四条教会の会堂が竣工し、献堂式を挙行。 京都基督教会50年史	9・3 ㊟平安神宮の時代祭の経費打合わせのため、平安講社組長会を京都倶楽部で開催。 日出 9・5、11	
5・6 ㊟祇園館で基督教演説会を開催。講師は松村介石「大理想心」・宮川経輝「良心教育」・海老名弾正「平等差別論」。 日出 5・6	9・22 ㊟奥田貫昭 ⁽³⁾ （天台宗護浄院住職）没。 仏家人名辞書	
5・上 ㊟京都府皇典講究所（下京区寺町綾小路下ル）を東山に移転することに決定。 日出 5・8	9・25 ㊟紫野の今宮神社再建委員会を桃園小学校で開催。10・9の例祭までに着工し、明35の北野1000年祭までに竣工させることに決定。 日出 9・27	
5・17 ㊟船岡山の建勲神社の境内地拡張と社祠の山頂移転を決定。拡張面積は現境内地に接続する山林7町1反3畝21歩。 日出 5・20	9・一 ㊟聖公会の村田松之助が西舞鶴から東京へ転任。聖公会は西舞鶴の布教を中止する。 聖公会京都地方部資料	
5・23 ㊟大谷派本願寺法主大谷光演は日置黙仙・南条文雄・藤島了穂・前田誠節と、仏骨奉迎のためシヤムへ向け出航（7・11帰国）。 宗報	9・一 ㊟同志社のラーネッド夫人が自邸内に幼稚園を設立。 同志社90年小史	
5・30 ㊟真言宗京都高等中学林講堂竣工。 新仏教	10・1 ㊟橋本峨山 ⁽⁴⁾ （天竜寺管長）没(49歳)。 仏家人名辞書	
5・一 ㊟聖公会のウィリアム、与謝郡加悦で布教伝道。このとき細見継太郎・有吉嘉兵衛・小林園三郎・砂原富蔵が受洗。聖公会京都地方部資料	10・14 ㊟組合教会が木下尚江を招いて廃娼演説会を開催。 京都基督教会50年史	
5・一 ㊟聖三一教会で、京都聖公会の婦人補助大会第1回を開催。 同上		
6・8 ㊟新京極誓願寺住職久田倣道が浄土宗西山派管長に就任。 新仏教 明33-1		
6・11 ㊟各宗派共同で、大仏妙法院において日本菩提会を設立。その目的として、①シヤムから迎える仏骨安置所覚王殿の建設、②教育・慈善事業、③宗教法案に関して仏教の公認教運動の実行、などを決議。 新仏教 明33-1		

参	考	目	本
(1) 若王子神社：左京区鹿ヶ谷若王子町、祭神は国常立尊・伊弉諾尊・伊弉册尊・天照大神、足利尊氏に崇敬された。応仁の乱で焼失したが、豊臣秀吉が再建。		1・12 小崎弘道、『基督教新聞』を母体とし『東京毎週新誌』創刊（明36・1、『基督教世界』と改題）。	
(2) 真言宗各派管長（京都諸本山）：御室派管長に泉智等、大覚寺派に高幢靈鑿、醍醐派に和氣有雄、新義智山派に瑜伽教如、真言宗長者に長有匡、なお古義派各本山は仁和寺内に連合法務所を設置し、原心猛が同所総裁に就任。 新仏教 1-3		1・21 東京で全国仏教徒大会開催、宗教法案反対を表明。 1・一 『教会評論』（聖公会）を『基督教週報』と改題。 1・一 真宗本願寺派七里恒順没（68歳）。 1・一 真宗本願寺派、学林制度を廃し、仏教大学・仏教高等中学・仏教中学設立。 2・18 宗教法案、貴族院で否決される。 2・一 トイスラー（聖公会）来日（この時築地病院を聖ルカ病院と改称）。 3・10 治安警察法制定（神官・僧侶その他諸宗教師の政治結社加入を禁止）。 3・31 姉崎正治『宗教学概論』刊行。 4・25 第10回福音同盟大会、大阪で開催（～28日。20世紀大谷伝道を決議）。 4・27 内務省、社寺局を廃し、神社局と宗務局とを設置。神社行政を一般宗教行政から分離。 6・16 金光教、神道本局から独立。 7・1 仏教清徒同志会、『新仏教』創刊。 7・2 日曜学校教師講師会、東京靈南坂教会で開催。 7・11 シヤム国王寄贈の仏骨、長崎に到着、仏教各宗連合して奉迎（明37・11、名古屋に日蓮寺を建立し納骨）。 7・20 海老名弾正、『新人』創刊（大14廃刊）。 8・9 真言宗の御室派・大覚寺派・高野派・醍醐派、新義真言宗の智山派・豊山派が分離独立。 9・14 津田梅子、女子英学塾設立（のちの津田塾大学）。 9・19 大石寺（静岡県）、本門宗から分離し、日蓮宗大石寺派（富士派）として独立。 9・30 内村鑑三、『聖書之研究』創刊。 9・一 清沢満之、暁鳥敏・佐々木月樵・多田鼎らと、精神主義運動を開始（11・22、塾を浩々洞と命名）。 9・一 救世軍、新吉原で廃娼運動。しばしば流血（この年、救世軍婦人ホーム設立）。 11・10 元良勇次郎『現今将来倫理及宗教』刊行。 11・27 南条文雄・村上専精・常盤井堯猷ら、帝国東洋学会を創設。 11・一 高楠順次郎『巴利仏教読本』刊行。 この年 ▷ 世界基督督教学生同盟大会、ベルサイユで開催（わが国から本多庸一が出席）。 ▷ 島田三郎ら、廃娼同盟結成。 ▷ 野口幽香子、東京麹町で下層階級のために二葉保育園設立。 ▷ 共立女子神学校設立。 ▷ 足立栗園『神社通覧』刊行。 ▷ 真宗大谷派奥村五百子ら、愛国婦人会結成。	
(3) 奥田貫昭：弘化3（1846）に京都室町通花町に生まる。明7・9荒神口護浄院湛海のあとを継ぐ、明8・4少講義となり、北海道巡錫の途につく、明10京都府教導正取締に就任、明12・8信濃善光寺大勧進の副住職となり、長野監獄の教誨にも従事、明15・12長野に貧民養育院を新設、明18・10東京浅草寺伝法院に転住し、荒廃する堂宇を再興、明28再び京都護浄院に帰り日清戦争後、東亜問題の攷究に従う。		10・19 ㊟石川舜台が大谷派本願寺寺務総長に就任。 常葉年表	
(4) 橋本峨山：嘉永6（1853）、京都烏丸四条に生まる。5歳のとき鹿王院に入り義堂に師事。元治1薩長両藩の兵火で天竜寺堂宇焼失のとき義堂ら嫌疑で拘引され、門人は四散したが、峨山は同寺に留り、堂宇を護る。一時美濃の正眼寺に入ったが、再び鹿王院に帰り、義堂のあとを継ぎ、天竜寺滴水に参禅。滴水没後明32・2に天竜寺の法灯を継ぎ、滴水念願の天竜寺本堂を再建。また臨済宗宗派の刷新に貢献した。		10・一 ㊟壬生大念仏講員が壬生寺の大念仏講規定に反対し、講社を解散。 壬生寺略縁起	
		11・16 ㊟聖ヨハネ教会は富小路高辻角に聖堂の建設用地100坪5合を購入。 聖公会京都地方部資料	
		11・25 ㊟真言宗連合同志会を結成。発起会を八坂神社内清光館で開催。各派の布教興学の合一をはかるため、高野派の佐伯隆純・藤村密堯、御室派の村田密禅、大覚寺派の泉秀明らが出席。 日出 11・27	
		12・7 ㊟真宗西本願寺、布教と興学の発達を企図するため、真宗本願寺派護持会財団を設立。 仏教年鑑 昭6	
		12・19 ㊟天理教の京都分教会本部の建設用地として、旧山階宮別邸を購入。 河原町大教会史	

京	都	府
1・4 ㊤岩佐普潤(天台宗安楽律院の学僧)没。		4・1 ㊤大谷派本願寺が加佐郡中舞鶴町字余部上に説教所を設立。府庁文書 大12
1・27 ㊤キリスト教20世紀大挙伝道演説会を四条教会で開催。講師は1・27にはアルブレクトと湯浅吉郎、2・3には宮川経輝、2・10にはウェンライトと和田琳能。京都基督教会50年史		4・1 ㊤京都ハリストス正教会の設立が認可される。京都正教会資料
1・1 ㊤真宗大谷派系の月刊雑誌『家庭』創刊。明治仏教新聞雑誌目録		5・3 ㊤四条教会で、20世紀大挙伝道演説会を開催。講師は海老名弾正(～4日)。熊本バンド研究
2・6 ㊤大谷派本願寺の有志、京都淑女学校を設立(下京区不明門中珠数屋町下ル、4・8開校式)。日出 4・8		6・6 ㊤大谷派本願寺、副管長の制を設置、大谷光演が副管長に就任。教学報知、官報
2・17 ㊤聖公会の聖ヨハネ教会で説教会を開催。講師は2・17にはバットンと寺沢、2・24にはパートリッジ、聴衆は両日とも約60人。聖公会京都地方部資料		6・11 ㊤パロスが丹波地方で布教。丹波基督教会史
2・20 ㊤天理教京都分教会本部(東丸太町旧山階宮別邸内)の地鎮祭を挙行。教祖殿は26坪、教会堂は96坪、地鎮祭の参詣者は約1万人。日出 2・21		6・1 ㊤日下俊洲、浄土宗西山派管長に就任。官報
2・1 ㊤大谷瑩誠(のちの大谷大学学長)、英国に留学。常葉年表		7・6 ㊤佐藤薦吉が祇園仏教会を設立して仏教唱歌を指導し、仏教談話を行なう。教学報知 7・9
3・1 ㊤今井弥造、天理教亀岡支教会長に就任。河原町大教会史		7・6 ㊤山科勸修寺住職長有匡が真言宗(4本山連合)管長に就任。この時から真言宗宗制寺法を改正し、勸修寺派・東寺派・泉涌寺派・小野派の4派を真言宗と公称する。教学報知 7・11
3・中㊤宇治の ^{あかた} 眞神社、社地拡張のため募金運動を開始。これまで宇治のみで募金していたが、今回は京阪・神戸・堺・河内・大和からも募金。日出 3・18		7・28 ㊤天理教京都分教会本部(河原町大教会の前身)の神殿上棟式(10・7、教祖殿上棟式)。河原町大教会史
3・21 ㊤京都ハリストス正教会聖堂の基礎成礎式をニコライ主教の司祭で行なう(明36・5・10、聖堂竣工)。正教時報 851、正教会記念画帳		7・1 ㊤聖三一教会の神学生池沢駿太郎が夏期伝道師として、京都聖公会に着任、聖三一教会の五条講義所で布教を助ける。聖公会京都地方部資料
3・25 ㊤丹波で、20世紀大挙伝道演説会を開催。25日は八木劇場で、26日は園部劇場で、講師は宮川経輝・人見牧太郎。熊本バンド研究、丹波基督教会史		7・1 ㊤聖公会の小林園三郎、与謝郡加悦地方で布教(5月にも同地方で布教。12月には三河内村の野村房蔵宅に講義所を設置)。同上
3・27 ㊤山本源七、天理教山国支教会長に就任。河原町大教会史		8・13 ㊤浄土宗専門学院を百万遍知恩寺から鹿ヶ谷に新築移転。仏教専門学校30年史
3・1 ㊤下京区仏光寺通新町西入ルの菅大臣神社、郷社から府社に昇格。明治神社誌		8・中 ㊤宇治郡山科村の若宮八幡神社の旧境内地3反2畝28歩、同醍醐村の萱尾神社旧境内地5反2畝4歩を出願どおり境内地に復旧。日出 8・18
4・3 ㊤同志社神学生が、20世紀大挙伝道のため丹波地方各地で布教、演説会を開催。4・3は亀岡・園部、4・4は亀岡・須知・松山、4・8は氷所、4・19は松山会堂で古木寅三郎・松井文弥が大挙伝道演説会を開催。丹波基督教会史		8・1 ㊤中心南岳(今熊野延仁寺住職)が異安心の疑いで、本山教学部から説教法話の停止を命じられる。教学報知 8・1
4・10 ㊤大谷派本願寺の御真影遷坐300年記念法要修行(～24日)。宗報		8・1 ㊤亀岡町の山本雄信・中島貫明が仏教講義会を設立。教学報知 8・9、11・14
4・16 ㊤大日本仏教婦人会を因幡堂平等寺で開会。南条文雄ら講演。精神界 1-4		9・15 ㊤紫野の今宮神社、社殿新築の柱曳式を挙行。日出 9・16
4・1 ㊤黒谷金戒光明寺にある浄土宗西山派の専門寮を専門学寮と改称。府庁文書 大9-43		9・18 ㊤京都淑女学校に淑女協会を設立。
		9・1 ㊤真宗大谷派の真宗大学が京都から東京府巢鴨村に移転。学監は清沢満之、梵語学教授に南条文雄が赴任(10・13、開校)。教学報知 10・16、浄土教報 10・20

参	考	日	本
○ 常葉幼稚園:明34・3・17幼稚園設立につき初の協議会。出席者は東本願寺教学部録事の出雲路善祐・橋川恵順・皆山尋常小学校長今村貞幹・若松尋常小学校長桂明・学務員7人であった。5・18付で幼稚園設立が認可、6・11仮開園式を挙行、翌12日に出席した幼児数は、在籍者106人中、104人(男・57人、女47人)であった。常葉幼稚園日誌		1・15 清沢満之ら、『精神界』創刊(大7・7、廃刊)。	
○ 内務省認可寄付金:知恩院(35万円)、西本願寺慈善財団(30万円)、北野会(25万円)、檀林会(15万円)、清浄華院(10万680円)、愛宕会(10万円)、青蓮院(7万5千円)、清水寺(5万円)、大徳会(5万円)、5万円以下省略。中外 4・29		1・1 基督教、20世紀大挙伝道実施(全国で求道者2万人)。	
○ 府知事認可寄付金:南禅寺(3万円)、妙圓寺(1万2,700円)、酬恩院(1万800円)、聚光院(1万円)、毘沙門堂(1万円)、岩屋寺(1万円)、1万円以下省略。同上		3・1 内村鑑三、『無教会』創刊(明35・8、廃刊)。	
		4・20 成瀬仁蔵、日本女子大学校設立。	
		4・21 海老名弾正、信条問題の紛糾により、福音同盟協議会から脱会。	
		5・1 真言宗各派連合大学林設立(のちの高野山大学)。	
		7・27 村上專精『仏教統一論』第1編刊行(明38・1・12、第3編「仏陀論」の中で大乘非仏説論を唱え問題化。明34・10・13、真宗大谷派の僧籍を離脱)。	
		7・31 無神論者幸徳秋水、『万朝社』で「仏教徒に望む」を論ず。	
		9・10 田中智学『宗門の維新』刊行。	
		9・15 在米の鈴木大拙、「社会民社党の結党禁止につきて(社会主義の宗教的基礎)」で政府を批判。	
		9・1 翌年7月にかけ、海老名弾正(『新人』誌上、自由神学の立場)と植村正久(『福音新報』誌上、正統主義の立場)が論争。	
		10・27 台北に宮幣大社台湾神社創建。	
		10・30 植村正久『靈性之危機』刊行。	
		10・31 『教学報知』、「社会主義に対する仏教徒の覚悟如何」を連載。	
		12・27 田村直臣(数寄屋橋教会牧師)ら、学生の足尾鉍毒地視察を計画し、学生700人と現地へ出発。	
9・1 ㊤聖公会の新舞鶴講義所を新舞鶴町八島二条東に設立。伝道師は池沢駿太郎。聖公会京都地方部資料		この年	
10・27 ㊤国重正文(伏見稲荷神社宮司)没。稲荷年表		▷ 文部省、宗教学校に徴兵猶予と進学許可を認める。	
10・31 ㊤大貫真浦が伏見稲荷神社宮司に、貴島磯磨は男山八幡宮宮司にそれぞれ就任。稲荷年表、男山記録		▷ 日本正教会訳『我主イイススハリストスノ新約』刊行(日本正教会最初の全訳新約聖書)。	
10・1 ㊤京都聖三一教会で、キリスト教大説教会を開催。平安女学院生徒中から多数の求道者が出る。聖公会京都地方部資料		▷ 日本聖公会『古今聖歌集』刊行。	
11・1 ㊤桃井日威、本門法華宗管長に就任。官報		▷ 中田重治、中央福音伝道館設立。	
11・1 ㊤府内務部第一課の編纂事業であった『京都府寺誌稿』脱稿。教学報知 11・19		▷ 真宗秘事法門の念仏結社、名古屋市養老町に養老院を設立。	
12・1 ㊤梅谷孝成(大原三千院門跡)が天台座主に就任(12・12延暦寺に入山)。教学報知 12・3、12			
		この年	
		▷ ㊤塩見覚循(加佐郡松原寺の僧侶)が新舞鶴町字浜に、曹洞宗布教所を設立。府庁文書	

京	都	府
1・18 ㊟稲荷山国有林31町9反9畝18歩、伏見稲荷神社へ返還される。 稲荷年表	3・一 ㊟片岡建吉が同志社社長兼校長に就任。 同志社90年小史	
1・19 ㊟基督教船枝会堂(船井郡)を園部に移築、新たに基督教園部会堂として開設、献堂式を挙行。 丹波基督教会史	4・8 ㊟西尾幸太郎、平安教会牧師に就任。 平安基督教会略史	
1・19 ㊟丹波基督教青年会を結成、発会式を挙行。 同上	4・10 ㊟日本聖公会第7回総会を京都で開催。 日本聖公会100年史	
2・4 ㊟平安神宮の北に、桓武天皇遷都1100年記念相輪塔を建立、地鎮祭執行。導師は村田寂順で延暦寺大衆20人出仕、発起人は西村捨三(6・15落成、梅谷天台座主除幕)。中外 1・18、6・14	4・15 ㊟今宮神社の社殿竣工し、正遷宮式を行なう。 日 出 4・17	
2・21 鞍馬寺、上地山林のうち11町3反を現境内に復旧を認可される(旧境内119町歩のうち7町6反を除き上地官林となっていたので19町歩に復元)。 府寺誌稿	4・一 ㊟平安教会は少年少女のための伝道機関として王女会を組織。 平安基督教会略史	
2・一 ㊟東亜仏教会女子部が慈恵女学校 [㊟] を設立。校主は橋川恵順、校長は安達安子、学監は田島教恵。 中外 明34・12・16、浄土教報 457	5・6 ㊟福知山城跡で招魂祭が行なわれる。 日 出 5・10	
2・一 ㊟府内各宗僧侶は、八甲田山雪中行軍凍死兵210人のため凍死軍人追弔会を修行し、同時に弔慰義捐金を募集。 中外 2・5、18	5・6 ㊟聖公会の新舞鶴講義所で、2幼児が受洗。同地方では最初の聖公会受洗者である。 聖公会京都地方部資料	
2・一 ㊟京都正教女学校を柳馬場二条上ル京都ハリストス正教会境内に設立。校長は三井道郎、主任教師は高橋五子、助教師は八木理子。明39・3第1回卒業生11人。 正教時報 851、京都正教女学校名簿	6・5 ㊟清水範空(禅林寺住職)が浄土宗西山派管長に就任。 中外 6・9	
3・4 ㊟本派本願寺の仏教大学を仏教専門大学(下京区猪熊七条上ル)と高輪仏教大学(東京)とに分ける。3・24に両大学の職制・規則を制定し、4・1に仏教専門大学学監事に岩橋興隆が就任。 竜谷大学300年史、中外 1・27、3・8	6・10 ㊟大沢日妙が日蓮宗本願寺住職に就任。 中外 6・30	
3・7 ㊟出口直日(大本教3代教主)誕生。 大本70年史	7・3 ㊟浄土宗専門学院の新築落成。 浄土教報 495	
3・23 ㊟組合教会キリスト教20世紀大挙伝道演説会を四条教会で開催(～25日)。講師は宮川経輝・アルブレクト・青木澄一郎・松田順平。また3・30に柏木義円・堀貞一、5・15～17に海老名弾正 [㊟] ・アルブレクト・広津友信・米沢尚三、6・13～15に湯浅吉郎・広津友信・アルブレクトも演説会を開く。 京都基督教会50年史、日 出 6・13	7・12 ㊟亀岡基督教青年会を亀岡会堂で開催。参会者約30人。 丹波基督教会史	
3・24 ㊟聖公会キリスト教20世紀大挙伝道演説会を聖ヨハネ教会で開催(～26日)。講師はヘアー・名出・早川・菅。 聖公会京都地方部資料	8・20 ㊟真宗大谷派の愛山有志会を京都で結成。座長は藤谷還由。235人が参集して、本山の根本的改革を主張する。21、22日には本山に陳情し、法主に面会を求めたが拒絶される。8・30にいたり大谷派本願寺は、奥村円心・稲葉了証・藤谷還由ら13人の僧籍をはく奪した。 中外 8・20号外、9・2、常葉年表	
3・25 ㊟北野神社で菅公1000年祭奉告祭、この日から50日間祭礼。 日 出 3・25	9・15 ㊟天理教京都分教会本部が竣工し、河原町分教会は同本部建物に移転(上京区丸太町通川端東入ル東丸太町1番地)。この月、市内直轄講社を加茂川中心に5区に分ける。 河原町大教会史	
3・一 ㊟グリング(聖公会)が、与謝郡加悦地方で布教。同地で家屋を1,100円で購入し、教会堂兼牧師館として使用。8月には講義所とする。 聖公会京都地方部資料	9・一 ㊟愛宕郡田中村の地藏堂の大珠数廻し祈禱法要を修行、近村の病患者が群集する。 中外 9・20	
	10・12 ㊟仏教各宗管長会議を開催し、仏舍利覚王殿の建設地を京都か名古屋に決めることを議する。しかし、名古屋37対京都12で名古屋に決定。市会議長雨森菊太郎の誘致呼びかけ実らず。 中外 10・27、11・9	
	11・22 ㊟南禅寺本堂再建に着手、起工式が行なわれる。 中外 3・14、11・18	
	11・29 ㊟真宗興正寺派本山興正寺が本堂をはじめ全堂宇を焼失(明44・4再建)。 中外 12・2	
	11・29 ㊟深谷悦次郎が天理教宇治原支教会々長に就任。 河原町大教会史	

参	考	日	本
(1) 慈恵女学校：「同校は慈恵女学校と称し貧民の子女を入学せしめ、簡易の必須なる学科裁縫手芸等を無月謝にて教授し、書籍用具を給し自活の道を与ふるにあり」 浄土教報 明34・10・20		2・一	官国幣社職制と府県社以下神社神職任用規程を制定。
(2) 海老名弾正：安政3(1856)～昭12(1937)、筑後柳川に出生。熊本洋学校に学び、同志社に移る。卒業後、上州安中に伝道、明20(1887)、熊本に転任し、熊本英学校・熊本女学校を創建。同23(1890)、日本伝道会社社長に就任、大9同志社学長となり8年間在任。著書に、『キリスト教十講』・『帝国の新使命』などがある。		4・一	第14回福音同盟会開催(福音主義に関して決議)。
		5・一	東京の仏教高等中学校(真宗本願寺派)を高輪仏教大学と改称。
		6・23	清沢満之『精神主義』刊行。
		7・15	小崎弘道夫妻、ハワイ伝道に出発。
		8・15	大谷光瑞ら、ロンドンから中央アジア仏蹟探検に出発(明36・3・12、帰国)。
		8・一	井上円了の哲学館を哲学館大学と改称。
		9・一	内村鑑三、自宅に角筥聖書研究会を開設(小山内薫・志賀直哉・大賀一郎ら参加)。
		10・23	田中智学、「本化妙宗式目」をつくり、立正安国会本部で創業成満式を行なう。
		12・27	仏教青年伝道会設立。
		この年	▷ 鈴鹿連胤『神社殿録』刊行。 ▷ 鷲尾順敬『日本仏家人名辞書』刊行。 ▷ ランバス女学校(大阪)設立。 ▷ 新田邦光(神道修成派教祖)没(74歳)。
↗ 12・6 ㊟宮津天主公教会で、幻灯による布教が行なわれる。参会者、約100人。 日 出 明36・3・10		12・20	㊟祇園町の織田有楽斎墓地が有楽館敷地として売却される(大2墓地無届売却で訴訟を起す)。 日 出 大2・6・12
		この年	▷ ㊟久世郡の水渡神社が郷社から府社に昇格。 明治神社誌、日 出 明36・3・10
		▷ ㊟護王神社に奉養会を結成。期限は満5年とし毎年神饌料を奉養して私祭費にあてる。 護王神社誌	

京	都	府
<p>1・上 ㊤上賀茂神社の土地した山林を境内地に復旧することを許可され、1・13に30余町歩引渡し。 日出 1・11</p> <p>1・17 ㊤大谷光瑞が本派本願寺管長に就任。 5・2 伝灯式挙行。 中外 5・4</p> <p>1・18 ㊤大谷光尊⁽¹⁾(明如、本派本願寺21世)没(54歳)。2・7に葬儀、3・16に本廟に納骨。 日出 1・18、19</p> <p>2・14 ㊤フェルプス(万国基督教青年会幹事)が京都を訪問、京都倶楽部で歓迎親睦会を開催。 中外 2・15</p> <p>3・6 ㊤本派本願寺で、明如(大谷光尊)追善のため六齋念仏を行なう。これに空也堂・鳥羽村・吉祥院村の六齋講員が奉仕。 中外 3・2、7</p> <p>3・22 ㊤南実叢(名古屋養源寺住職)が臨済宗妙心寺派管長に就任。 中外</p> <p>3・26 ㊤本多澄雲ら大谷派本願寺監獄教師が感化同志会を設立。 中外 3・29</p> <p>5・10 ㊤京都ハリストス正教会の聖堂が竣工、献堂式をあげる(柳馬場二条上ル)。設計者は松室重光、ニコライ主教が記念演説を行なう。 正教会記念画帳、京都府の明治文化財</p> <p>5・25 ㊤京華養育院を一条通千本西入ル日本仏教法話会西陣支部に開院。 中外 3・29</p> <p>5・27 ㊤京都救済院(主幹、津田明蔵)の新宿舎を聖護院町に建設。 中外 5・27</p> <p>6・6 ㊤清沢満之⁽²⁾(真宗大谷派僧侶)没(41歳)。6・9に葬儀。 宗報、中外</p> <p>6・16 ㊤佐伯蓬山が黄檗宗管長に就任。7・5、宇治万福寺に晋山。 中外 6・19</p> <p>7・6 ㊤京華少年教会を設立。 中外 明37・11・9</p> <p>7・26 ㊤佐野甚三右衛門編の『六大新報』(週刊)創刊し従来の『伝灯』と『遍照』を合併。 明治仏教新聞雑誌目録</p> <p>7・29 ㊤大道長安(救世教教会会長)が京都市内で布教を開始。 中外 7・29</p> <p>7・一 ㊤同志社女学校専門学校の国文科第1回卒業式を挙行。卒業生1人。 同志社90年小史</p> <p>8・22 ㊤花園村竜安寺の火葬場が陵墓に近いため、衣笠村蓮華谷に移転し市営となる。 中外 8・25、29</p> <p>8・一 ㊤同志社の堺伊三太郎が平安教会を助ける。この頃、京都市内のキリスト教の教線は伸び悩みの状態であった。 平安基督教略史</p> <p>9・4 ㊤曾根精が聖公会聖三一教会牧師に就任(〜大2・5・23)。 聖公会京都地方部資料</p> <p>9・20 ㊤キリスト教秋期伝道第1回を平安教会で開催(〜22日)。会衆69〜198人。第2回を10・15、16にひらき、会衆は15日137人、16日101人。第3回を11・22〜24にひらき、会衆は87〜154人。 平安基督教略史</p> <p>9・20 ㊤カスパート、聖公会京都聖マリア講</p>	<p>義所を丸太町広道西南角の家の2階に設立。三高・高等工芸・吉田中学・医学専門学校・美術学校・第一中学の学生・生徒に布教を開始。 聖公会京都地方部資料、日本聖公会100年史</p> <p>9・22 ㊤御室成就山の弘法大師88カ所霊場の万霊堂の庫裡が竣工する(維新後中絶中の彼岸万霊回向の再興をはかるため、仁和寺執事、寿量恵照が建立した)。 中外 9・17</p> <p>9・26 ㊤天理教平安西布教所設置許可。 河原町大教会史</p> <p>9・一 ㊤大谷派本願寺旧臣らが花山火葬場の収益譲渡を本山に請願。これは本派本願寺の例にならなかったもの。⁽³⁾ 中外 9・2</p> <p>9・一 ㊤加藤文教(福知山常照寺住職)ら、福知山育児院設立。 日宗新報 949</p> <p>10・8 ㊤新堺町仁王門下ル愛隣教会でキリスト教伝道演説会を開催(〜11日)。10・12〜16にも京都市内各教会で巡回伝道。 中外 10・9</p> <p>10・17 ㊤内田正、丹波第二教会牧師に就任。就任式は綾部会堂で挙行。10・17〜19に綾部会堂で組合教会京都部会を開催。 丹波基督教会史</p> <p>10・21 ㊤西尾幸太郎⁽⁴⁾(平安教会牧師)、伝道会社幹事に就任。 平安基督教略史</p> <p>10・28 ㊤左京区吉田町の第三高等学校基督教青年会館で、聖書研究会を開始。 中外 10・30</p> <p>11・7 ㊤真言宗祖風宣揚会の第3期工事として、医師小林参三郎を招き、慈善病院の設立を決める。 六大新報 315</p> <p>11・7 ㊤平安婦人会が秋期伝道資金獲得のため、バザーを開催。会場は京都倶楽部、入場者約300人、純益74円。 平安基督教略史</p> <p>11・8 ㊤牧野虎次、四条教会牧師に就任。 京都基督教会50年史</p> <p>11・10 ㊤本派本願寺の佐々木正真(第三仏教中学校長)・芳滝唱導(第五仏教中学校長)を、本山の主張に反対する者として、その職を解く。 中外 11・22、12・2</p> <p>11・11 ㊤真如堂の殿堂・庭園保存のため、東山真如会⁽⁵⁾を結成。委員は内貴甚三郎・辻信之助ら5人。 中外 11・20</p> <p>11・14 ㊤丹波教会は丹波地方で、松井・村松の演説会を開催。14日須知、15日桧山、16日園部、17日八木、18日亀岡。 丹波基督教会史</p> <p>11・19 ㊤真宗興正寺の仮本堂落成。⁽⁶⁾ 中外 11・20</p> <p>11・24 ㊤天理教河原町分教会に、神道講究所を設置。 天理統計年鑑</p> <p>11・一 ㊤妙心寺派普通学林を花園学林と改称。 妙心寺600年史</p> <p>12・6 ㊤出版社法蔵館主西村七兵衛が常葉幼稚園内に少年教会を設立。⁽⁷⁾ 中外 12・7</p> <p>12・一 ㊤東丸神社(伏見稲荷神社内)、府社に昇格。 稲荷年表、明治神社誌</p> <p>12・一 ㊤宇治万福寺門前に、黄檗山保存などを目的とする、黄檗クラブが結成される。 中外 12・4</p> <p>この年 ▷ ㊤新京極了蓮寺を知恩寺山内に移転。 中外 明43・1・6</p>	

参	考	日	本
(1)	大谷光尊：嘉永3(1850)、京都本願寺奥殿に生まる。童名を教君、11歳のとき得度、法諱を光尊、法号を明如と定める。明3・8新政府の宗教政策に反対し、島地黙雷・赤松連城らにその改善策を建言するなど本邦仏教界の先に立って布教・学問・寺務に貢献。著書に『仏会紀要』がある。	2・21	賀川豊彦、マヤス博士より受洗。
(2)	清沢満之：文久3(1863)、名古屋黒門町に生まる。尾張藩士徳永永則の子。東本願寺育英学校に学び明14本山の留学生として東京帝大予備門を経て明20帝国大学卒、翌年東本願寺の経営に移された府尋常中学校の校長となる。明29京都白川に教界時言社を創設、教団の改革運動に着手しく白川党と称されたが、翌年教団から除名され、明32上京、眺鳥敏らと「浩々洞」を組織、明34『精神界』を発行し精神主義を唱導する。	2・一	有馬祐政『日本倫理要論』刊行。
(3)	花山火葬場：東西両本願寺隔月交代で同場の監督にあっていたが、西本願寺がこの年7月に同寺旧臣に監督を委託し、同寺に冥加金1カ年1,000円の上納を契約、同場の収益は毎月平均400円で旧臣の純益は2,400円であった。	2・一	聖公会、『恵の音』創刊。
(4)	西尾幸太郎：明治1(1868)、鳥取県に出生。同21(1888)鳥取教会で入信、同28(1895)同志社神学部に入信、同30(1897)卒業、神戸多聞・京都平安教会で牧師の職にあった。オペリン・エール・アンドーバーの神学校にも学んだ。昭16日本キリスト教団第三部会長に選ばれ、上京準備中に没。	3・一	伝道女学館(聖公会、のちの青葉女学院)、仙台に設立。
(5)	東山真如会：この年11・1に内務省令12号神社・寺院仏堂境内地使用取締規則が施行されたため、神社・寺院に保存会を結成するものが増加。真如会委員は辻信次郎・荏林維新・山本長敬・中井三郎兵衛・内貴甚三郎の5人、会員は3カ年間春秋2季に金1円ずつを醸出、11・21に発会式執行。	4・一	仏教青年伝道会、大挙伝道開始。
(6)	興正寺仮本堂落成：19日遷仏遷座式のあと、20日法主華園沢称が導師となり、上京末寺一同が阿弥陀懺法を執行。参列者は朝山家扶(九条公爵従者)・大谷尊重(西本願寺法主)・渋谷隆教(仏光寺新法主)・ト半了達(貝塚願泉寺)・藤本京都府参事官など。	6・6	清沢満之没(41歳)。
(7)	常葉幼稚園内少年教会：西村七兵衛は法蔵館(仏教書店)主。会員は同幼稚園付近小学校長らの賛同をえて数百人の児童が集まり、教師の河崎顕了、大須賀秀道らが平易な談話を行なう。東本願寺寺務所から役員出席。	6・一	内村鑑三、『聖書之研究』・『万朝報』上で、非戦論を唱え、10月万朝報社を退社。
		7・一	日本基督教青年会同盟(YMCA)成立。
		8・3	前田慧雲『大乘仏教史論』(村上專精の大乘非仏説を批判)刊行、また10月「本願寺教学私見」を発表、宗内で動揺おこる。
		8・31	神宮皇学館、内務省神宮司庁におかれ、官立専門学校となる。
		9・1	井上円了、町村単位の修身教会設立を企画。
		10・21	組合教会第19回総会を岡山で開催(朝鮮伝道開始を決議)。
		10・21	片岡健吉没(61歳)。
		11・一	『平民新聞』創刊。
		11・一	キリスト教各派共同で『さんびか』刊行。
		この年	
		▷	海老名弾正『帝国の新生命』刊行。
		▷	バックストン・竹田俊造ら、日本伝道隊結成。
		▷	日蓮宗で大中檀林を合併して、東京大崎に日蓮宗大学林設立。
		▷	河野覚阿(時宗管長)没(86歳)。

京	都	府
<p>1・5 ㊤大谷派本願寺が寺務改正局を設け、総裁・局長をおき、一切の事務を処理させる。総裁は大谷勝信、局長は篠原順明（1・16、寺務改正局廃止し、従前の寺務職制どおりとする）。宗報</p> <p>1・一 ㊤空也寺（浄土宗、下京区恵美須町）、本堂再建。 坊目誌</p> <p>1・一 ㊤妙心寺の山内、大心院に品麗学院を設立。これは専門道場に入門するための予備課程で主幹は積承薫。 中外 明40・7・4</p> <p>2・13 ㊤大森知事、ロシアへの宣戦の大詔煥発され官国幣社に奉告の勅使を命ぜられる（18～28日管内20社に奉告式）。 府日露時局記事</p> <p>2・一 ㊤京都ハリストス正教会、日露戦争開始とともにロシアからの援助がとだえ、苦境におちいる。信者も激減。 正教時報</p> <p>3・10 ㊤同志社が高等学校と波理須理科学校および文科学校を合併し、専門学校令による同志社専門学校となる。 同志社90年小史</p> <p>3・中 ㊤府内各神社で、日露戦争の皇軍勝利軍人健康祈禱祭が行なわれる。竹野郡竹野神社では、軍人・一般人に無料で護身守札を授与。⁽¹⁾ 日出 3・12、24</p> <p>3・19 ㊤京都市内キリスト教会、連合で京都奉公十字会を結成し、軍隊への伝道と出征軍人家族の慰問を行なう。 平安基督教会略史</p> <p>3・29 ㊤下村孝太郎、同志社社長兼校長に就任。 同志社90年小史</p> <p>4・7 ㊤天理教河原町分教会、『興徳時報』創刊（最初の機関紙）。 河原町大教会史</p> <p>4・16 ㊤仏教大学（竜谷大学の前身）設立。学長は伊井智量、監事は岩崎興隆。同時に京都の仏教専門大学・東京の高輪仏教大学を廃校（4・25授業開始、入学生150人、5・15開講式）。 竜谷大学300年史</p> <p>4・18 ㊤長田時行・牧野虎次が丹波地方で布教。 丹波基督教会史</p> <p>4・23 ㊤京都基督教青年会が英語学校を設立し、創立式を挙行。校長は福田、生徒270人。新渡戸稲造・西尾幸太郎、祝詞をのべる。 日出 4・24</p> <p>4・24 ㊤京都市内キリスト教連合共励会、聖別会を平安教会で開催。 平安基督教会略史</p> <p>5・4 ㊤真宗仏光寺（仏光寺派本山）の阿弥陀堂竣工、遷仏・慶讃の式典挙行。 日出 4・3</p> <p>5・4 ㊤浄土宗の専門学院（鹿ヶ谷）を浄土宗大学院専門科と改称し、浄土宗大学院の分校となる（明38・4・1浄土宗大学院を浄土宗大学と改称）。 ☆仏教大学</p> <p>5・21 ㊤木村清松、⁽²⁾京都市内各所で伝道演</p>	<p>説会を開催（～6・3）。この時、他宗派からキリスト教徒となった者223人。</p> <p>5・一 ㊤天台宗僧侶津田明巖、四条基督教会で牧野虎次より受洗。 中外 明38・12・5</p> <p>6・7 ㊤真宗興正寺派の円頓学寮を讃岐善通寺町の同派事務出張所内に移転。 中外 6・9</p> <p>6・30 ㊤佐伯法遵（随心院門跡）が真言宗管長に就任。 中外 6・30</p> <p>6・一 ㊤加藤観海（誓願寺住職）が浄土宗西山派管長に就任。 中外 6・29</p> <p>7・2 ㊤蓮胤日幸（妙蓮寺住職）が本門法華宗管長に就任。 中外 7・7</p> <p>7・6 ㊤上田只一を夏期伝道師として丹波教会に派遣。 丹波基督教会史</p> <p>7・29 ㊤聖ヨハネ教会の聖堂建設用地482坪を、新寺町五条下本塩竈町582に購入（明33・11・16に購入した土地は売却）。 聖公会京都地方部資料</p> <p>7・30 ㊤高台寺が、山林1町5反を返却される。 坊目誌</p> <p>8・一 ㊤真宗大谷派の真東止善は同志八田一精・橋川恵順・西村七兵衛らと七生報国会を結成。出征軍人家族の慰問などを目的とする。 中外 8・20</p> <p>9・2 ㊤伏見稲荷神社で、第38連隊補充兵350人にお守札を無料授与（3・下には、乙訓郡尚武義会が出征軍人に戦勝守札6万枚授与）。 稲荷年表、日出 3・25</p> <p>9・10 ㊤黒谷金戒光明寺で、戦死者追悼会修行。 中外 9・12</p> <p>9・15 ㊤百万遍知恩寺で、戦勝奉告祭挙行。 同上</p> <p>9・23 ㊤京都商業学校に仏教青年会設立（10・1、第1回講演会開催）。</p> <p>9・25 ㊤丹波教会創立20年記念会を亀岡会堂で開催（9・29、パロスが丹波地方で巡回伝道）。 丹波基督教会史</p> <p>9・一 ㊤智山勸学院の新学則制定。学課を中学程度と定める（大3、大学組織に改める）。 坊目誌</p> <p>9・一 ㊤山岡灌澄（曼珠院門跡）が天台座主に、鷲峰紫石が黄檗宗管長に就任。 中外 8・3、9・22</p> <p>9・一 ㊤報国仏教青年会設立（発起人、大橋半次郎・池上覚真・西村岩次郎）。</p> <p>10・10 ㊤下京区小島町の宝福寺（時宗）、本堂を再建。</p> <p>10・11 ㊤衣笠村蓮華谷の火葬場開業（衣笠村の経営ではじめてが大15、市の直営となる）。 日出 10・9、坊目誌</p>	

参	考	日	本
(1)	日露戦争に際し、各神社は「一、戦勝ノ祈禱軍人志気ノ鼓舞 一、戦勝奉告祭并ニ軍人家族ノ慰問 一、戦死病没者ノ葬祭 一、記念林ノ設置」を行ない、仏教各宗でも「……競フテ親諭ヲ発シ門末寺院并ニ檀信徒ヲシテ其抛ル所ヲ知ラシメ或ハ従軍布教師ヲ派遣シテ兵士ニ慰安ヲ与ヘ且ツ死者ヲ吊ヒ法名ヲ授ケ或ハ軍隊ヲ訪問シ義勇奉公ノ大義ヲ敷衍シテ士気ノ鼓舞振作ニ勉メ……何レモ宗教家ノ本分ヲ全フシ時局ニ貢献セン所尠ナラス」という。 府日露時局記事	1・一	東京駒沢に曹洞宗大学設立（のちの駒沢大学）。
(2)	木村清松：明7(1874)～昭33(1958)、新潟県に生まる。松村介石の北越学館を経、明26(1893)、東北学院に学ぶ。のち渡米してムーディー聖書学院に入り、同33(1900)帰国。京都・大阪を中心に布教活動を行なう。山室軍平・中田重治とともに大衆向の説教家として知られる。	2・10	ロシアに宣戦布告（日露戦争おこる）。
		2・11	ニコライ（日本正教会主教）、日露戦争についての教書を、正教会の全教徒に与える（日本国民としての忠義の本分をつくすよう）。
		2・一	日本正教会系の教会、ロシアのスパイとして各地で迫害を受ける（函館教会には退去命令が出る）。
		3・23	河口慧海『西藏旅行記』上（下、5・14）刊行。
		3・29	東京駒込に天台宗大学設立。
		4・1	井上門了、中野江古田に哲学堂落成式を挙行（孔子・釈迦・ソクラテス・カントを祀る）。
		5・16	大日本宗教家大会、東京芝公園忠魂祠堂会館で開催（神仏基の代表者参加し、諸宗教の協力と国策支持とを決議）。
		5・一	浄土宗本校を廃し、東京小石川に宗教大学設立。
		7・一	仏教各派、従軍伝道使派遣。基督教青年会、満州に天幕伝道開始。
		9・一	姉崎正治『現身仏と法身仏』刊行。
		11・3	植村正久ら、東京神学社設立（外国の伝道機関からの独立をはかる）。
		11・9	日蓮宗、博多東公園にてきた元寇記念日蓮銅像前で国禱会を行なう。
		この年	▷ 森鷗外『日蓮上人辻説法』発表。
			▷ 西本願寺113人を初め仏教各宗派、従軍布教使を派遣。日本基督教会青年会、軍隊慰問のため満州で天幕伝道開始。
↗	10・22 ㊤組合教会第20回総会を同志社教会で開催（～25日）。これより全国的に宣言書運動が展開されることになる（11・1～9市内各教会で連合伝道演説会、11・21～23丹波各地で大学伝道演説会）。 京都基督教会50年史、平安基督教会略史	11・18	㊤真如堂の見真大師（親鸞）御影を数屋町姉小路専徳寺に移管。 中外 11・20
		11・一	㊤石川舜台、大谷派寺務総長となる。 官報
		11・一	㊤清水寺境内地16,443坪が上地されていたが、返却される。 坊目誌
		12・21	㊤野上雲海（知恩院前管長）没。 中外 12・24
		12・一	㊤京華少年会（明36・7創立）は毎日曜日に仏教的教導を続け、入会者増加。 中外 11・9
		この年	▷ ㊤京都婦人慈善教会会員4,000人となる。 中外 7・15

京	都	府
1・8 ㊤組合教会の第2回宣言書運動として、京都市内キリスト教会連合演説会を開催(～13日)。平安基督教略史	5・15 ㊤三寄日境、法華宗管長に就任。中外 5・15	
1・14 ㊤澁谷隆教、真宗仏光寺派管長に就任。府庁文書 明44-59、中外 1・18	5・27 ㊤仏教大学学生が鈴木暢幸の退職を要求して同盟休校に突入。その結果学生53人退学処分(9・11復学許可)。中外 6・2、9・10	
1・14 ㊤四条基督教会の創立20周年記念式を挙行。京都基督教50年史	6・3 ㊤谷川某、玉樹遊楽(天台宗)から伝法をうけ、誠心社を結成したが秘事法門の嫌疑をうけ解散。中外 6・3	
1・22 ㊤同志社公会堂で、新島襄没後15年祭を開催し、宮川経輝が記念演説。熊本バンド研究	6・6 ㊤第38連隊臨時招魂祭、伏見稲荷神社宮司ら出張奉仕。稲荷年表	
1・一 ㊤仏教同志研究会の発会式を寺町本禅寺で挙行。中外 1・25	6・7 ㊤聖護院が天台宗門派の宗制寺法改正により別格門跡地とされ、園城寺住職の兼務寺院となる。中外 6・17	
1・一 ㊤村上專精、『仏教統一論』(1)第3編刊行される。仏教大辞典	6・13 ㊤東本願寺、財政紊乱問題で前宗務総長石川舜台を除名、僧籍剥奪。中外 6・15	
2・1 ㊤石川舜台、大谷派本願寺寺務総長を辞任(後任、大谷勝信)。宗報	6・29 ㊤南禅寺山腹駒カ滝で、病氣平癒を祈る信仰が盛んとなり、川端署が解散を命令。中外 7・3	
2・11 ㊤大谷派本願寺の財務整理委員会開催(明37・12本願寺財産が差押えられたので、同38・1・15財務整理示談所設置。1・31現在の同派負債総額420万円にのぼる)。財政たてなおしのため、末寺僧侶の代表・門徒総代を召集し、門末大会を開催して検討することとなる。明39・5・25、北浜銀行、本願寺財産差し押え全面的解除。宗報	6・一 ㊤下村孝太郎社長、同志社校長の兼職を辞し、丹羽清次郎専任校長に就任。同志社90年小史	
2・12 ㊤亀岡会堂で、キリスト教青年会開催(来会者18人)。丹波基督教史	6・一 ㊤福知山に仏教育児院設立。設立者は曾我重平で27人収容。中外 6・24	
2・一 ㊤本派本願寺系の大日本仏教慈善会(財団)、軍人遺孤養育院(西中筋魚棚下ル)を設立。府誌	6・一 ㊤徳育女学院(松原小橋西詰)設立。設立者は天台宗僧侶能真海。中外 6・30	
3・8 ㊤大谷派本願寺財産(北浜銀行差し押え)の競売品目・競売期日・競売最低価格を、京都区裁判所が確定。中外 2・24	7・21 ㊤伏見稲荷神社が伏見工兵大隊出陣兵士約330人にお守札授与。22日、深草連隊出陣兵士31人にも授与。稲荷年表	
3・20 ㊤平安教会の婦人会・王女会が出征軍人に慰問袋500個を調製し発送。平安基督教略史	8・4 ㊤皇典講究所京都分所竣工。同上	
3・一 ㊤蔵経書院、大蔵経出版事業完了(明35・5～)。つづいて、印度・中国・日本選述仏典蔵経を6カ年で刊行する。中外 4・7	8・6 ㊤京都神職会結成(会長大森鍾一、副会長田中勝之丞)。日出 8・12	
3・一 ㊤日露戦争の露軍俘虜を各寺に収容(2)(東福寺500人、本願寺40人、妙法院・智積院にも収容)。中外 3・18、24	8・25 ㊤天理教教師講習会を河原町分教会で開催。河原町大教会史	
4・1 ㊤浄土宗大学院浄土宗大学と改称したため浄土宗大学院専門科を浄土宗大学専門部とし、浄土宗大学卒業者の研究機関と定める。仏教大学	9・13 ㊤常葉婦人会館を仏願寺跡(下京区中珠数屋町上ル)に設立。中外 9・13、17	
4・13 ㊤鳥尾得庵没。中外 4・17	9・一 ㊤第三高等学校仏教青年会へ各宗本山からの資金補助を廃止、知恩寺においた会場を本禅寺内心城院に移転。中外 9・12	
4・17 ㊤林純祐(神戸の真言宗信徒)、桓武天皇1100年忌法要にあたり、仏教蔵書1,600巻を東寺に寄付(8・16、東寺境内に記念文庫竣工)。中外 8・7、27	10・3 ㊤江村秀山(真宗大谷派僧侶)没。中外 10・4	
4・18 ㊤高等家政女学校(烏丸高辻下ル)創立。(9)浄土宗西山派系で、知恩院は1年240円援助。ほかに西光寺・金戒光明寺・知恩寺・清浄華院などが寄付金支出。中外	10・28 ㊤村田寂順(妙法院門主)没(68歳)。中外 11・2	
4・20 府、第2部に社寺課をおく(社寺課昭21まで)。庁訓 24号	10・28 ㊤亀岡の浄土宗僧侶が、戦死者追弔のため、保津川へ地蔵画30万枚を流す。中外 10・2	
4・一 ㊤組合教会伏見講義所設立(四条教会に属する伏見の信徒が分離)。京都基督教50年史	11・14 ㊤京都市内キリスト教会共同修養会を平安教会で開催(～11・21植村正久を招く)。平安基督教略史	
	11・22 ㊤植村正久、(4)丹波教会園部会堂で演説。丹波基督教史	
	12・11 ㊤京都市内の組合教会連合信徒会を開催(宮川経輝・長田時行らも出席)。平安基督教略史	

参	考	日	本
(1) 『仏教統一論』：3巻(明34～38)、著者は明治時代の日本の仏教学に歴史的研究法と宗派の学問を越えた仏教教理学を導入した学者として特筆されるべき人。第1編「大綱論」は仏教成立の背景としてのインドの歴史と仏伝、仏教の基本的教理(縁起説)とその展開としての各宗の大系を述べ、第2編「原理論」は仏教真理観の時代的发展、第3編「仏陀論」は仏身観の変遷を探って大乘仏教の仏身観の歴史上の仏陀観と対比させている。第1編が出版されたとき、著者は真宗当局に忌避されて一時還俗したが、これは本書の基本的見解である歴史的見地に立つ大乘非仏説論が、在来の宗学中心の仏教学者を驚かせ、仏教を中傷するものと誤解されたためである。世界名著大事典		3・17	デフォレスト、青年会慰問事業補助のため渡満。
(2) 俘虜収容所：奉天戦役で俘虜6,500人、すでに国内の収容俘虜39,718人、全俘虜概数104,718人となる。京都では寺院庫裡を借り受け、俘虜を収容していた。		3・一	万国基督教青年会創立50周年記念大会、フランスで開催(わが国から本多庸一・井深棍之助参加)。
(3) 高等家政女学校：女性が社会の発展に適応する学術技芸を指導。とくに家政・事務に堪能な者を養成する目的、校舎を知恩院山内に設立。		4・一	西田天香、滋賀県長浜で一灯園を開教。
(4) 植村正久：安政4(1857)～大14(1925)、上総に出生。明治初年父母と横浜に移る。ブラウンに学び、明6(1873)、ブラウンより受洗。のち一致神学校に学ぶ。同19(1886)、麴町に一番町教会を創立。同37(1904)、東京神学校を創立。日本キリスト教会の統率、プロテスタント教界の発展などにつくした。著書に『真理一斑』・『靈性の危機』などがあり『植村正久全集』にまとめられている。		5・15	蔵経書院編『大日本統蔵経』(明45・11、750巻完結)刊行。
		6・13	東本願寺、財政紊乱問題で石川舜台(前宗務総長)を除名、僧籍剥奪。
		6・一	伊藤証信、真宗大谷派を脱し、東京巢鴨に無我苑を開き、『無我の愛』創刊(翌39・2解散)。
		8・20	小崎弘道夫妻、米国伝道会社の依頼を受け、太平洋沿岸伝道を開始。
		9・6	東京で、キリスト教会十数カ所、放火で焼失。
		10・11	家庭学校(留岡幸助設立の少年感化院)に2,000円下賜。
		10・11	日本基督教第19回大会開催(ミッションとの協力打ち切り・教会の自給独立を決議)。
		10・17	日本基督教女子青年会(YWCA)創立(会長津田梅子)。
		10・20	第21回日本組合基督教会総会開催(伝道会社傘下の全教会を組合教会側に移し、各教会のミッションからの自給独立をはかることを決議)。
		11・10	木下尚江・安部磯雄らキリスト教社会主義者、『新紀元』創刊(明39・12・25廃刊)。
		11・一	オーコンネル、ローマ法皇使節として来日。
		12・5	河上肇、伊藤証信の無我苑に入る(明39・2離脱)。
		この年	
		▷	女子聖学校(東京)設立。
		▷	ペンテコステ教団伝道開始。
		▷	関根貞(『建築雑誌』掲載論文)・平野鐸嶺(『国華』掲載論文)・喜田貞吉(『史学雑誌』掲載論文)などの間で、法隆寺再建非再建論争を開始。
12・12	㊤㊤京都奉公義会(会長大森鍾一)主催の京都市出身戦病者の弔魂祭を御苑内博覧会場で執行。日出 12・13		
12・31	㊤大覚青年会を妙満寺で結成。中外 明39・1・18		

京	都	府
1・13 ㊤篠原順明(大谷派本願寺の前事務総長)没。 中外 1・17、宗報	7・3 ㊤愛宕郡大原寂光院の修繕箇所調査のため、兼田郡長ら出張。 日出 7・5	
1・27 ㊤天台宗山門派の青年僧侶15人、東北飢饉救済慈善音楽会開催(～28日。会場は先斗町歌舞練場)。 中外 1・29	7・6 ㊤㊤京都市参事会は社寺保存費補助を決定(平安神宮150円、蓮華王院70円、広隆寺60円、清水寺・東福寺・南禅寺・熊野若王子神社・神護寺は各50円、東寺・方広寺・高台寺・平野神社は各40円、豊国神社・豊太閤廟社・建仁寺・禅林寺・真正極楽寺・大徳寺は各30円、大仏耳塚25円、六孫王神社・神泉苑・高山寺などに各20円)。 日出 7・7	
1・31 ㊤第38連隊戦死者招魂祭を連隊兵営で挙行。大貫真浦伏見稲荷神社宮司が齋主として奉仕。 稲荷年表	7・20 ㊤大原三千院修繕の落成法要(～26日)。大森知事・木下京大総長ら300人を招待。 日出 7・14	
1・一 ㊤日蓮宗瑞竜寺(堀川通堅門前町)に、村雲婦人会設立。	7・中 ㊤本派本願寺、財務整理部を新設。負債230万円のうち有利のもの80万円にのぼるので宗祖650年遠忌法要までに整理することとなる。評議員は小田尊順・藤島了穂・赤松連城・梅上尊融・松原深諦・朝倉明宣・神根善雄。日出 7・18	
2・10 ㊤本派本願寺は教学主任足利義蔵を、教況視察のため渡米させる。 日出 2・6	7・一 ㊤布教叢誌社、『布教叢誌』を『信仰界』と改題。 明治仏教新聞雑誌目録	
2・28 ㊤真宗の越前三門徒派と大谷派間の協力協約を締結。 宗報	7・一 ㊤㊤京都市、共同墓地管理規則ならびに使用規則を制定。	
3・9 ㊤大谷派本願寺は明37、38戦役戦病死者追弔法会の事務処理のため、法要臨時部を開設(3・22～23、追弔法会修行)。 同上	8・9 ㊤土宜法竜が御室仁和寺門跡に選任され、仮就任式挙行。 新仏教 7-19	
3・16 ㊤西郷京都市長、仏教各宗本山代表を集め、37、38年役戦病死者追弔法会について相談、4月中に各宗日をきめて行なうことに決定(3・18～24東福寺、4・1建仁寺、4・8～14妙心寺、4・14～15本禅寺、4・15～16本能寺、4・18日蓮宗本山寺院中・真言宗各本山連合、4・中 天竜寺、4・22誓願寺、4・23～25本隆寺、4・24知恩寺・金戒光明寺、5・7～8要法寺)。 日出 3・14、27	8・20 ㊤大谷派本願寺財産の大橋銀行による競売は中止(競売途中で大橋銀行要求の現金4万5千円を東本願寺が支払ったため)。 日出 8・21	
3・16 ㊤渥美契縁(真宗大谷派僧侶)没。 宗報	8・21 ㊤宮裡東是(臨濟宗東福寺派管長)没。 新仏教 7-10	
4・1 ㊤京都淑女学校(下京区猪熊通六角南入ル)、文部省から高等女学校として認可され、京都淑女高等女学校と改称。 日出 3・3、中外 明40・2・7	8・一 ㊤御岳教会 ⁽¹⁾ が伏見で教線を拡張し、神道本局から分離独立を計画。 日出 8・18	
4・上 ㊤大日本婦徳会(寺町通二条南入ル)の会報創刊(毎月1回発行)。 日出 3・18	9・3 ㊤前田慧雲ら、『教界時事』を『警世新報』と改題。 新仏教 7-9	
4・24 ㊤聖公会聖ヨハネ教会聖堂の定礎式(明40・16竣工)。 聖公会京都地方部資料	9・一 ㊤池沢駿太郎、聖公会新舞鶴講義所から、大阪川口基督教会へ転任。 聖公会京都地方部資料	
4・29 ㊤東寺で古文書を展示(勸智院客殿に、東寺所蔵古文書を陳列。百合文書・仁義礼楽射御書教に関する古文書の一部などを公開)。 日出 4・28	9・一 ㊤宮川桂禪(浄土宗京都教校学生)ら、明44に予定される法然700年忌の記念報恩会を設立。会長は六花真哉(明40・1、一二三会和合併して丁未会和改称)。 東山学園100年史	
5・一 ㊤華頂看護婦学校設立(知恩院山内入信院内)。設立者は浄土宗京都尼衆教場卒業の上田称隆尼。 浄土教報 692	10・18 ㊤平安教会の創立30年記念演説会開催(～19日。難波宣太郎「キリストの社交について」・海老名弾正「明治時代における基督教の発展」・米沢尚三「謙々の心情」・綱島佳吉「日本人と基督教」)。 平安基督教会略史	
5・一 ㊤同志社病院・京都看病婦学校廃止。 同志社90年小史	11・20 ㊤㊤9・1 発令の社寺合併に関する勅令により有名無実の社寺でありながら廃止するものが少ないので、府が調査を開始。 日出 11・20	
6・中 ㊤妙心寺派臨時議会、学制改正を討議し、同派花園学林を中学程度以上とするための設備改良・洋服制度実行などを議す。 日出 6・19	12・27 ㊤鹿ヶ谷町の法然寺、上地した善喜山(国有林第7号・約8町歩)を返還される。 坊目誌	
6・22 ㊤県郷村社の社司・社掌の補任方法を改定(これまで、氏子または信徒総代の推薦だけで補任したが今後は郡市の京都府神職会支部の添書が必要とする)。 日出 6・23	12・31 ㊤梅上沢融(本派本願寺僧侶)没。 中外 1・1	

参	考	日	本
(1)	御岳教：明6東京浅草の下山応助が御岳講社を設立し、開教を許された。同15御岳教として独立。本部は長野県西筑摩郡(現在木曾郡)福島町にあったが、戦後御岳本教と分離して奈良市に本部をうつした。	2・4	原田助・元田作之進、招かれてインド基督教青年会に出席。
		4・7	官国幣社の経費、国庫負担と決定(明40・4・1実施)。
		4・30	政府、府縣市町村の府県社・郷村社に対する神饌幣帛料の支出を認める。
		4・一	日本正教会、独立教区となる(ニコライ、大主教に昇任)。
		5・一	福音同盟会、解散し新たに基督教会同盟結成。
		5・一	井上哲次郎ら、宗教家協和会結成(諸宗教の協力を目的とする)。
		6・一	東京の私立国学院を国学院大学と改める。
		7・16	山路愛山『基督教評論』刊行。
		8・9	神社の併合および整理を実施。
		9・28	新渡戸稲造、第一高等学校長に就任(大2・4・22辞任)。
		12・下	救世軍、東京府下貧民約1,000人に年末慰問籠を贈り始める。
		この年	
		▷	『神祇全書』刊行。
		▷	組合教会集中伝道開始。
		▷	キリスト教界で日本日曜学校協会設立。
		▷	救世軍士官学校設立。
		▷	聖学院(東京)・名古屋学院設立。

京	都	府
1・5 ㊟丹波教会園部会堂で、信徒修養会開催(～11日)。講師はウィルクス ⁽¹⁾ と竹田俊造。 丹波基督教会史	設費全額をウィリアム前監督が寄付。式には米国聖公会からロイド博士も出席。 聖公会京都地方部資料、日本聖公会100年史	
1・28 ㊟松村介石、平安教会で演説(演題、「明治精神界の消長」、聴衆445人)。 平安基督教会略史	5・28 ㊟市参事会、清水寺など17カ寺に境内風致保存のため、1,090円補助。 中外 5・30	
1・一 ㊟真宗仏光寺に興教会財団設立。同寺門徒塚本定治ら、仏光寺の維持を目的として2万7千円を拠出。 中外 1・19	5・28 ㊟近角常観、京都求道会で「自然法爾」を講演。 中外 6・2	
1・一 ㊟東山法観寺の八坂五重塔改築工事竣工。 中外	5・一 ㊟新京極通錦小路下ルの歓喜光寺(時宗)を広道通松原上ル法国寺に合併、法国寺を歓喜光寺と改称。 中外 5・9、寺院明細帳	
2・6 ㊟上京区榎本町の顕本法華宗本山妙満寺、教学財団を設立。 仏教年鑑 昭6	5・一 ㊟関西仏教徒学生第1回大会開催。講演は松本文三郎「宗教の三方面」(第2回大会で、市内に会堂の建立を決議)。 中外 5・14、20	
2・9 ㊟基督教青年音楽会を京都同盟学生青年会主催で開催(会場、市議事堂)。島田三郎「現時の要求」・「青年の活動」と題して講演。昼夜2回にわたり洋楽演奏を行なう。 日出 2・6	6・1 ㊟妙心寺の花園学林を花園学院と改称(学監兼主幹、関弘道)。 中外 4・22、8・9	
2・15 ㊟第1回平安講演会開催(～16日)。主催は共励会で、講演は日野真澄「近世思想界の泰斗カントの性行と其倫理」・ギョリキ「東洋厭世観と西行の楽天観」。 平安基督教会略史	6・2 ㊟仏教大学本科生、六角堂内に日曜学校を設立。 中外 6・7	
2・20 ㊟下京区天使堂4丁目の金福寺(真宗本派)が船井郡竹野村へ移転。 寺院明細帳	6・3 ㊟真宗本願寺に宗祖親鸞650年遠忌記念に本末共保財団を設立。 仏教年鑑 昭6	
2・一 ㊟東福寺、本堂再建資金調達のため、弥陀三尊仏像を宮内省に売却。 中外 2・27	6・15 ㊟真宗大谷派婦人法話会、五条大橋2丁目善立寺に、支会場を設立。 中外 6・12	
2・一 ㊟中村寛澄(日蓮宗僧侶)、市内3カ所に子守学校設立。本部教育場は仁王門通り中村宅、第一子守学校は六角堂内、第二子守学校は本園寺内。 中外 3・9、5・5	6・16 ㊟仏教大学生北島嶺乗・紫雲恵祥・不二川貫流が洛北田中村貧民窟に日曜学校設立。 中外 6・29	
3・6 ㊟半井真澄、護王神社宮司に就任。 護王神社誌	6・26 ㊟清水範空(浄土宗西山派管長)没。 中外 9・29	
3・一 ㊟修験宗子弟のための恵印校(醍醐寺山内)を東寺の真言宗連合中学と合併。 中外 3・28	7・一 ㊟真宗大学、親鸞650回遠忌法要記念事業として、宗史研究会開催。 中外 7・17	
4・1 ㊟浄土宗大学専門部(鹿ヶ谷)を宗教大学研究科と改称、専修部を併設。 府誌上	7・一 ㊟この頃、京都各地で執行する六齋念仏は吉祥院村・東九条村など12町村に30余組。 中外 7・28	
4・12 ㊟京大生を中心に、学生仏教徒大会開催。 中外 4・24	8・3 ㊟四条教会で、共励会主催演説会。『基督教世界』主筆の加藤直士が講演。 京都基督教会50年史	
4・28 ㊟日本日曜学校協会京都部会発会式を同志社で開催。 平安基督教会略史	8・15 ㊟真宗高倉大学寮、専門学校令により認可、私立高倉大学寮と改称。 中外 10・2、4	
4・一 ㊟浄土宗西山派学則改定。その結果永観堂普通学寮を閉鎖し、粟生光明寺山内の同派専門学寮を専門学校令の基準に合わせ、伏見街道へ移転。 府庁文書 大9-43	8・19 ㊟土宜法竜、真言宗連合長者に就任。 中外 8・5	
4・一 ㊟上田喜三郎(出口王仁三郎)、皇典講究所を卒業(5月建勲神社主典となり、12月辞任)。 巨人出口王仁三郎	9・1 ㊟聖ヨハネ教会信徒総会で、同教会に日本人長老を置くこととする(12・25、内部に異論あって、実施を延期。明41・2・9、村田執事が最初の日本人長老に就任)。聖公会京都地方部資料	
5・16 ㊟聖公会聖ヨハネ教会聖堂竣工(新寺町五条下ル本塩竈町582)。設計者がガーデナー、建	9・29 ㊟下京仏教青年会、仏教日曜学校設立(間之町五条下ル養蓮寺)、児童50人収容。 中外 9・28	
	10・23 ㊟臨濟宗本山相国寺護法会設立。 中外 11・14	

参	考	日	本
(1) ウィルクス (Pajet Wilks) : 1871～1934、英国に生まる。オックスフォードでギリシャ古典を学び、のち聖書を研究。明30(1897)来日、松江のバックストンを助ける。同35婦英、同37(1904)再び来日。バックストンを総理とする日本伝道隊を組織、超教派的に伝道。聖霊の恩恵を説いて神戸に聖書学校を設立。著書に、『贖罪の効力』・『ダイナミックのもの』がある。		1・15	社会主義者(キリスト教系を含む)、『平民新聞』(日刊)創刊。
		3・20	キリスト教各派、連合して東京博覧会で伝道開始(～7・30)。
		4・3	万国基督教青年会大会、東京で開催。
		4・6	大日本仏教徒大会、浅草本願寺で開催(～8日)。
		4・16	ブース(救世軍大将)来日(4・30、天皇に謁見)。
		4・21	神・仏・基宗教協和会春季大会開催。
		5・4	全国神道同志大会開催(～5日)。
		5・5	神職大会。
		5・一	キリスト教界の第1回全国日曜学校大会、東京で開催。
		6・29	神社祭式行事作法公布。
		8・28	加藤弘之『吾国体と基督教』(キリスト教攻撃)刊行(これより、国体とキリスト教をめぐる論争起る)。
		9・一	有馬祐政『日本国道論』刊行。
		10・一	松村介石、日本教会(のちの道会)開教(明41・5、機関誌『道』創刊)。
		この年	
		▷	アストン『神道(英文)』刊行。
		▷	メソジスト3派合同し、日本メソジスト教会設立(初代監督本多庸一)。
		▷	日本アッセンブリーズ=オブ=ゴッド教団設立。
		▷	奥村五百子(愛国婦人会創設者、真宗大谷派)没(62歳)。
		▷	飯降伊蔵(天理教本席)没(75歳)。
10・一 ㊟中原東嶽(相国寺管長)、京都青年維摩会設立(明42・末『家庭新聞』(月刊)創刊)。 中外 9・28		11・5	㊟私立古義真言宗連合中学、私立真言宗連合京都中学と改称。 文部省告示275号
		11・9	㊟守永宗教(東福寺第16代住職)没。 中外 11・14
		11・12	㊟私立古義真言宗連合高等中学、4年制に改め、私立真言宗連合京都大学と改称。 文部省告示277号
		11・18	㊟東寺公園開園。 中外 11・20
		11・一	㊟新島八重、自邸(寺町丸太町上ル松陰町)を同志社に寄付。 同志社90年小史
		11・一	㊟丹波第二教会で集中伝道(11・8、16には平安教会で集中伝道。11・16の集中伝道の結果、平安教会で90人受洗、海老名弾正・宮川経輝・原田助・渡瀬常吉・沢村重雄ら講演)。 熊本バンド研究、丹波基督教会史
		12・1	㊟大谷派本願寺の大師堂門再建起工式(明43・4・17上棟、明44・3・22通りぞめ)。宗報
		この年	
		▷	㊟南条文雄、醍醐山三寶院縁起を英訳。 中外 9・19
		▷	㊟真言宗連合勸学財団法人設立。 府庁文書 大9-45

京	都	府
<p>1・一 ㊤もと蓮華光院(安井門跡)の寝殿を仁和寺に移転(この寝殿は明9から安井尋常小学校として使用されていた)。 坊目誌</p> <p>2・18 ㊤平安教会婦人会がマリヤ会を結成。女中を対称とし、毎月第3火曜日の午後集会を開催(集会者14人)。 平安基督教会略史</p> <p>2・一 ㊤七条道場金光寺(時宗本山、下京区東洞院七条材木町)を東山長楽寺に合併(明8・1に金光寺が大火で焼失し再建できぬため)。 坊目誌</p> <p>3・15 ㊤四条教会、『四条教報』を創刊(この年4号まで刊行)。 京都基督教会50年史</p> <p>3・15 ㊤曾根精、聖公会京都聖三一教会長老に就任(同教会最初の日本人長老)。 聖公会京都地方部資料</p> <p>3・18 ㊤上川米太郎、天理教河原町分教会の布教所長に就任。 河原町大教会史</p> <p>3・23 ㊤真宗大谷派、大谷奨学会を設立。理事長は大谷瑩亮。理事に南条文雄・吉谷覚寿・稲葉昌丸・松居庄七(4・18第1回評議会開催)。 中外 4・13</p> <p>3・27 ㊤真言宗東寺婦人会設立。 六大新報 239、中外 3・27</p> <p>3・一 ㊤京都帝大学生が組織した「統一団」が宗教雑誌『法人』を創刊。</p> <p>4・5 ㊤河合藤吉、伝道師として丹波教会に着任(7・8には同志社神学生長谷川直吉、夏期伝道師として同教会に着任)。 丹波基督教会史</p> <p>4・29 ㊤聖公会のウィリアムスが聖ヨハネ教会管理長老を辞任(4・26)し帰米。同会のグリーンも、この月帰米。 聖公会京都地方部資料</p> <p>5・6 ㊤大雲院(浄土宗、下京区寺町四条下ル)に竜池会が設立され毎月1回、通仏教の講演会を開催。 中外 4・15、5・5</p> <p>5・7 ㊤伏見町の布教師松本雪城、子守学校を設立(明40・2、中村寛澄も子守学校設立)。 中外 5・10</p> <p>6・13 ㊤平安教会信友会を下鴨に結成。幹事は豊田宗助・島田道生、参会者18人。 平安基督教会略史</p> <p>7・一 ㊤天岫接心、米国留学と欧州視察とを終えて帰国。 府庁文書 明44-55</p> <p>7・一 ㊤坂口亀太郎、聖公会の新舞鶴・西舞鶴講義所に伝道師として着任。 聖公会京都地方部資料</p> <p>7・一 ㊤キリスト教各派連合が、東舞鶴余部地方で布教。信徒宅を廻り番に、集会が各派合同で持たれた。 同上</p> <p>8・1 ㊤大本教金明霊学会を大日本修齋会と改称。 大本70年史</p>	<p>8・一 ㊤延原円澄(天台宗僧侶)と齋藤実記(医師)が施療所東亜慈恵会を結成(11月、市内6カ所に囑託治療所を設ける)。</p> <p>9・1 ㊤本派本願寺、女教師師養成所(梅小路堀川西入ル文中女学校内)を設立。監督は高木俊一、生徒11人、25歳以上40歳以下の真宗本派末寺・信徒の女子のみを養成。 日出 9・13</p> <p>9・24 ㊤大谷光瑩(現如)が大谷派本願寺法務管長職を辞し引退、大谷光演(彰如)が東本願寺第23世法主に就任。 宗報</p> <p>9・27 ㊤尊王奉仏主義の福田会主・中村幻々・横井寛が『一新報』創刊。 中外 9・22</p> <p>9・一 ㊤中村寛澄(日蓮宗僧侶)、慈光夜学校を設立(12月に慈光青年会を組織、明43・6に明德学園(社)を設立)。</p> <p>10・14 ㊤真言宗、祖風宣揚会事業の実施と慈善病院設立を決定。</p> <p>10・19 ㊤東山高台寺忠魂堂落成、明37・38年役の戦病死者位牌を安置。 坊目誌</p> <p>10・一 ㊤私立感化保護院感化部が神泉学園を設立(大2から京都府の経営となり、船井郡園部村字西中野に移転)。 淇陽学校50年史</p> <p>11・14 ㊤平安講演会を平安教会で開催(～15日)。講師は芦田慶治「耶穌の其時代に対する使命」・宮田寿「新刑法と基督教」。 平安基督教会略史</p> <p>11・21 ㊤京都仏教青年会設立。本派本願寺系の青年会で、発起人は飯田新七・池田清助ら61人、発会式に赤松連城・山内晋卿・藤島了隠・蘭田宗恵が講演。 日出 11・22、中外 11・19</p> <p>11・22 ㊤平安教会会員の大記念会を若王子墓地で開催。信友会主催で同教会関係者の墓地も調査。教会設立以来の死者112人、そのうち若王子に墓のある者68人。 平安基督教会史</p> <p>12・6 ㊤西本願寺白書院で、京都帝大の史学協会大会を開催。大谷光瑞法主がインドで採取した古代彫刻・石棺などを公開。 中外 12・8</p> <p>12・15 ㊤片山弁孝(粟田口安養寺住職)、もと安養寺境内の御経山に皇城守護の目的で埋蔵したと伝えられる一切経の発掘を決定。 中外 12・18</p> <p>12・一 ㊤浄土宗青年酬恩会設立。明44の法然700年忌を記念。 東山学園100年史</p> <p>この年</p> <p>▷ ㊤聖公会マリヤ女子神学校を大阪から京都に移転。烏丸長者町に京都女子伝道館として開かれる。初代婦人伝道師は木村尚子。 聖公会京都地方部資料</p> <p>▷ ㊤余部町聖公会講義所(加佐郡余部町花ノ木通り)を余部上一丁目に移転。博愛病院院長佐岐幸一の援助による。 同上</p> <p>▷ ㊤下京恵美須町の永養寺(浄土宗)が開智小学校を購入し、本堂とする。 坊目誌</p>	

参	考	日	本
		4・1	日本聖公会第9回総会、大阪で開催(日本聖公会事務局の設立を決議)。
		4・20	津田仙没。
		4・一	英国で、パンアングリカン=コングレス開催(わが国から、今井寿道が代議員として参加)。
		8・17	東京に豊山大学設立。
		9・3	皇典講究所『古道概要』刊行。
		9・一	皇室祭祀令公布。
		10・9	波多野精一『基督教の起源』刊行。
		11・28	神道本局所管天理教、分離して一派独立、天理教と称する。
		12・下	救世軍、社会鍋を開始。
		この年	
		▷	聖霊奉待会設立。
		▷	加藤弘之『迷想的宇宙論』(キリスト教を批判)刊行。
		▷	アレキサンダー(神の教会宣教師)来日、伝道開始。
		▷	マリア会渡来。
		▷	救世軍社会植民館設立。

京	都	府
1・12 ㊤大谷派本願寺、寺務出張所職制を制定。 宗報		5・20 ㊤永観堂禅林寺(浄土宗西山派)の婦人会設立(11・20、新京極蛸薬師の西林寺に支部設立)。 中外 5・20、11・20
1・19 ㊤天理教河原町分教会を河原町大教会と改称。 河原町大教会史		5・一 ㊤四条教会牧師牧野虎次、米国セントパウロ市で開催の基督信徒共励会国際大会出席のため出発。 京都基督教会50年史
1・21 ㊤山本源七、天理教山国分教会長に就任(1・31、氷上支教会長に転任)。1・31、永尾泰徳、天理教西陣教会長に就任。2・1、中村初治郎、天理教大原分教会長に就任。 同上		5・一 ㊤㊤京都市、社寺補助費の交付を決定。最高額は平安神宮の500円、最低額は地主神社の50円。神社6・寺院11・史蹟3に補助。中外 5・28
2・2 ㊤京都帝大文科学生有志が宗教学会を開催。朝永三十郎、「人格主義と超人格主義」を講演。		6・12 ㊤仁和寺、布教機関紙『みのり』を創刊。 中外 6・23
2・20 ㊤中山玄親(もと滋賀院門跡)、真如堂住職に就任(前任職石堂見純の長野善光寺大勧進転出の後任として)。 中外 2・14		7・9 ㊤本多良明(間之町五条下ル養蓮寺住職)ら、仏教奨励音楽会設立。顧問は関西音楽協会副会長の奥村静。 中外 7・9
2・22 ㊤丹治直治郎(慈善家)が南禅寺金地院前に、私財を投じて大僧堂南陽院の建立を発願し上棟式挙行(9・24、本堂竣工、如意輪観音像安置)。 中外 2・27、9・24、府庁文書 明42		7・10 ㊤中村佐一郎(同志社)、丹波地方夏期伝道師として着任(19日、世古愛子が丹波教会婦人伝道師となり、亀岡で布教)。 京都基督教会50年史
2・25 ㊤曹洞宗光明寺、加佐郡舞鶴町字浜に説教会出張所を設立。 府庁文書		7・19 ㊤五条仏教青年会第二支場を三条大橋東入ル北側に設立(第一支場は室町六角)。 中外 7・19
2・27 ㊤本派本願寺機関紙『教界一瀾』を『竜谷週報』と改題。 中外 3・2		7・一 ㊤本派本願寺、京都仏教青年会の会場を警察区画同様に上京・下京を6区に分け、1区に1~2の会場を設置。 中外 7・13
2・一 ㊤本派本願寺布教会と京都婦人慈善教会が合同で会館建設を決める。 中外 2・25		8・一 ㊤河野霧海、南禅寺派管長に就任。 中外 8・18
2・一 ㊤大本教、『直霊軍』創刊。大本70年史		9・19 ㊤古義真言宗、祖風宣揚会事業として、東寺に濟世病院を設立、開院式挙行。中外 9・19
3・25 ㊤真宗興正寺の大師堂再建立柱式挙行(4・9、在京興正寺門徒、本山大師堂再建のため興隆会結成)。 中外 3・12		9・24 ㊤南禅寺山内の大僧堂南陽院の本堂竣工。 中外 9・24
4・2 ㊤京都婦人慈善教会伏見支部設立。 中外 1・8		9・26 ㊤マギニス、聖公会京都聖ヨハネ教会管理長老に就任。 聖公会京都地方部資料
4・6 ㊤丹波教会が八木・園部地方にキリスト教拡張伝道実施(〜11日)。 丹波基督教会史		9・一 ㊤法谷日泰(本門法華宗管長)、小栗栖檀林を葛野郡花園村に移転し、同宗の学林を設立。 中外 2・16
4・8 ㊤仏教講習会を知恩院で開催(〜14日)。中外日報社主催で松本文三郎の「古今の仏教」・村上専精の「日本仏教史の特色」など講演。 中外 4・8、9		10・10 ㊤深谷徳次郎(天理教河原町大教会第2代会長)没、40歳、在職8年。(11・16、深谷源次郎初代会長が再び第3代会長に就任)。 河原町大教会史
4・13 ㊤釈雲照(真言宗仁和寺住職・目白僧団創設者)没(83歳)。		10・一 ㊤四条教会を富小路二条南に移転、京都基督教会と改称。 京都基督教会50年史
4・17 ㊤南禅寺法堂竣工(明28・1、焼失し、16万2千円かけて再建)。 中外 4・14		11・上 ㊤北野神社、『北野誌』3巻刊行。 日出 11・11
4・26 ㊤徳道寺(中筋千本東入ル)に、婦人法話会出張所設立。 中外 4・24		11・13 ㊤京都仏教青年会第1回総会開催。
5・2 ㊤京都市内キリスト教各派連合の「開教五十年の感謝会」を平安教会で開催。 平安基督教会略史		11・15 ㊤建仁寺専門道場に一般衆僧の入場を認める。 中外 11・14
5・9 ㊤聖公会宣教50年記念共同礼拝を聖ヨハネ教会で開催(〜11日)。3日間の参会者約250人、求道申込み8人。 聖公会京都地方部資料		11・一 ㊤桶谷実修(養源院主)、宗教慈善教育財団設立を決定。貧困家庭児童を収容し、中学以上の学校に入学させることを目的とする。 中外 4・30
5・9 ㊤園部基督教婦人会結成(会員16人)。 丹波基督教会史		
5・15 ㊤関西仏教青年会、釈尊降誕会講演会開催(京都市会議事堂)。講演は松本文三郎・関弘道。 中外 5・17		
		この年 ▷ ㊤京都基督教会、伏見に講義所設立(伏見稲荷北黒門、中村栄助の別荘)。 京都基督教会50年史

参	考	日	本
		3・27	ジェーンズ没。
		4・13	釈雲照(仁和寺管長)没(83歳)。
		4・一	組合教会拡張運動開始。
		4・一	日本聖公会宣教50年記念伝道開始(5月まで)。
		4・一	日本基督教会宣教50年祝謝伝道実施。
		4・一	メソジスト教会記念振興運動展開。
		5・一	西本願寺、大挙伝道開始。
		5・一	全国神道大会開催。
		10・11	日本基督教会宣教50年祝会、東京YMCA会館で開催。
		10・11	日本基督教の教会同盟第11回総会開催。
		10・一	伊勢神宮遷宮式。
		10・一	仏教救済会(仏教徒有志団)設立。
		12・24	賀川豊彦、神戸新川の貧民窟に転居し、救霊団の事業を開始。
		この年	
		▷	中田重治ら、『リバイバル唱歌』刊行。
		▷	内村鑑三、柏会を結成(矢内原忠雄・塚本虎二ら、門下生となる)。
		▷	望月信亨『仏教大辞典』刊行開始。
		▷	ビリケン(米国製福の神)流行。
			▷ 加佐郡河守上村字内宮の皇太神宮(元伊勢と称す)を村社から官幣社に昇格運動。 日出 5・18

京	都	府
<p>1・4 ㊦ケラノク博士(万国連合共励会会頭)来日歓迎会を平安教会で開催。平安基督教略史</p> <p>1・12 ㊦京都天台宗青年会を真如堂で結成。興学・布教・慈善を实行する目的。中外 1・19</p> <p>1・29 ㊦天理教婦人会河原町支部結成。支部長は民鶴(3・4、第1回例会開催)。河原町大教会史</p> <p>2・15 ㊦京都市内日蓮宗有志、布教伝道のため日蓮宗弘教会を設立。川東二条の妙満寺で発会式挙行、会長は本圀寺貫主旭日苗。中外 2・15、17</p> <p>2・22 ㊦眺鳥敏・高光大船、真宗大谷派伏見別院で、精神主義の講義をする。中外 2・28</p> <p>2・28 ㊦榊亮三郎、智山勸学院梵語学教員に就任。府庁文書 大3-53</p> <p>2・一 ㊦高木羽超聖(仏教大学学生)が、本派本願寺の援助で出獄人保護のため醇厚会設立。仏教社会史</p> <p>3・15 ㊦渡辺海旭(浄土宗僧侶)、ドイツ留学より帰国し、知恩院で歓迎会を開催(明33・11渡独、ストラスブール大学で比較宗教学を学ぶ)。中外 3・26、27</p> <p>3・30 ㊦慈光夜学校と子守学校(明40・2設立)に、文部省が設備費40円を補助。中外 4・1</p> <p>3・31 ㊦古川専太郎(福田社主)の『一時報』を『明德』と改題。教海雑誌社の『竜谷週報』は『教海一瀾』と改題。明治仏教新聞雑誌目録</p> <p>4・1 ㊦本派本願寺の第三仏教中学校を平安中学校と改称し、この日開校。文部省告示43号、中外 2・18</p> <p>4・11 ㊦下京区仏光寺大宮の月輪寺(浄土宗)本堂再建。中外 2・8</p> <p>4・16 ㊦知恩院阿弥陀堂の再建落成。中外 4・16、浄土教報 900</p> <p>4・一 ㊦三条大橋東若竹町の貧困家庭児童教育のため、知恩院が援助して酬恩夜学校を設立(明40・9に、近藤真平により教育が開始され、知恩院が教師を派遣)。中外 3・4</p> <p>5・2 ㊦聖ヨハネ教会付属幼稚園開園。主任はベーコン女史、園児50人。聖公会京都地方部資料</p> <p>5・13 ㊦関弘道(花園学院長)・麻生道戒(妙心寺執事長)・内貴甚三郎(妙心寺信徒総代)ら、臨済宗妙心寺派の布教興学事業普及発展のため教学財団を設立。中外 2・18、府庁文書 大4-62</p> <p>5・15 ㊦仏光寺青年会設立。会長は有馬憲文。中外 5・14</p> <p>5・20 ㊦米田オベリン大学総長キング博士、平安教会で講演。平安基督教略史</p> <p>5・25 ㊦粟生光明寺御影堂竣工。中外 5・14</p> <p>5・25 ㊦京都教会、『四条教報』を改めて『京都教壇』創刊(明44・1、『京都時報』と改題、月刊となる)。京都基督教50年史</p> <p>5・一 ㊦近藤亮巖(禅林寺住職)、浄土宗西山派管長に就任。中外 5・28</p>	<p>6・2 ㊦日本仏教法話会、六条道場で創立20周年記念伝道開催(〜6日)。中外 5・29</p> <p>6・5 ㊦京都の仏教徒、高台寺で京都仏教徒懇話会を結成。幹事は益井信・土屋栄吉。中外 9・20</p> <p>6・5 ㊦西本願寺の京都布教会、六角堂前に布教会館建設工事開始。中外 6・5</p> <p>6・12 ㊦仏教系私立学校の同盟連合会を設立し真宗大学寮で開会。中外 6・2</p> <p>6・一 ㊦中村寛澄(日蓮宗僧侶)、慈光夜学校を拡大し、明德学園を創立。</p> <p>7・2 ㊦神社祭式講習会を伏見稲荷神社で開催(〜16日)。稲荷年表</p> <p>7・6 ㊦京都市内の真宗大谷派寺院約100カ寺が東本願寺門前拡張達成のため、20人の委員を選び、市と交渉することを決議。中外 7・8</p> <p>7・15 ㊦榎本修(同志社神学生)、夏期伝道師として、船井郡須知・松山で布教。丹波基督教会史</p> <p>7・一 ㊦知恩院前の参拝道路を法然700年忌法要にそなえ、160間の敷石工事開始。中外 11・25</p> <p>8・14 ㊦平安基督教会は同志社の不用寄宿舎を購入し、同教会会堂裏に移築。平安基督教略史</p> <p>8・23 ㊦大原寂光院本堂・書院改築竣工。中外 8・23</p> <p>8・一 ㊦同志社立志館竣工。同志社90年小史</p> <p>9・6 ㊦旭日苗(本圀寺住職)、日蓮宗管長に就任。中外</p> <p>9・20 ㊦堀尾祐誠、加佐郡新舞鶴町字浜に大谷派本願寺説教所を設立。府庁文書 大12</p> <p>9・23 ㊦殊屋町の大福寺(天台宗)、布袋薬師大般若会を再興。中外 9・22</p> <p>10・1 ㊦建勲神社の諸殿舎を山麓から山上へ移転。日出 9・14、京都神社誌</p> <p>10・7 ㊦聖ヨハネ教会に英語学校を開設(生徒5人)。聖公会京都地方部資料</p> <p>10・18 ㊦長野善光寺如来を嵯峨天竜寺で出開帳(〜25日。参詣者1日平均約3,000人)。中外 10・26</p> <p>11・3 ㊦天理教平安西教会で、子供会結成。河原町大教会史</p> <p>11・17 ㊦浄土宗第五教区宗学教校新校舎落成、慶讃式典挙行。東山学園100年史</p> <p>11・18 ㊦聖公会連合修養会を京都聖三一教会で開催。聖公会京都地方部資料</p> <p>11・20 ㊦京都教会創立25周年祝賀記念礼拝を行なう。京都基督教50年史</p> <p>12・12 ㊦誓円尼(村雲尼の姉・知恩院山内善光寺常住)没(83歳)。中外 12・15</p> <p>12・29 ㊦上田喜三郎、出口家に入籍、出口王仁三郎と改名。大本70年史、巨人出口王仁三郎</p> <p>12・一 ㊦乙訓郡長岡町の楊谷寺、宇治町下居に説教所設置。楊谷寺誌</p>	

参	考	日	本	
<p>府下宗教別人口 単位千人・()内%</p>				
年次	神道	仏教	基督教	宗不詳
明37	22 (2.2)	1,014 (97.2)	2 (0.2)	3 (0.4)
38	23 (2.2)	1,023 (96.9)	2 (0.2)	6 (0.7)
39	25 (2.3)	1,048 (97.3)	2 (0.3)	1 (0.1)
40	25 (2.3)	1,067 (96.9)	3 (0.3)	5 (0.5)
41	25 (2.3)	1,101 (96.7)	3 (0.3)	8 (0.7)
42	26 (2.3)	1,123 (96.6)	4 (0.4)	8 (0.7)
43	28 (2.4)	1,116 (96.4)	5 (0.4)	8 (0.8)
<p>資料 府統計史料集1 注 宗教別人口調査は明36から府独自で行なったものである。</p>				
				<p>4・11 東京で、カトリックの聖心会により聖心女学院開校式挙行。</p> <p>6・1 幸徳秋水大逆事件。曹洞宗内山愚堂・真宗大谷派高木顕明・臨済宗峯尾節堂・古義真言宗毛利柴庵など連坐。</p> <p>7・5 姉崎正治『根本仏教』刊行。</p> <p>7・13 ラゲ訳『我主イエズスキリストの新約聖書』(改版)刊行(日本カトリック教会の準公式訳として流布)。</p> <p>7・29 豊原に樺太神社創建(祭神大国魂命・大己貴命・少彦名命。8・17、官幣大社となる)。</p> <p>7・一 世界宣教会大会、エジンバラで開催(本多庸一が出席)。</p> <p>8・5 禅道会(会長釈宗演、主幹鈴木大拙)、機関誌『禅道』創刊。</p> <p>11・4 デビス没。</p> <p>12・2 キリスト者奥野昌綱没(88歳)。</p> <p>12・2 ウィリアムス没。</p> <p>12・2 山田孝雄『大日本国体概論』刊行。</p> <p>12・18 宮地直一『神祇史』刊行。</p> <p>この年</p> <ul style="list-style-type: none"> ▷ 近江ミッション発足。 ▷ 聖公会、神学院設立のための土地を池袋に購入(パンアグリカン協議会の感謝献金による)。 ▷ 田中義能『神道本義』刊行。 ▷ グリーン・松山高吉・別所梅之助ら、『新約聖書』改訳に着手(大6完成)。 ▷ 西有穆山(曹洞宗管長)没(90歳)。 ▷ 奥野昌綱没、88歳(日本最初の牧師)。 ▷ 立花俊道『巴利語文典』刊行。

京	都	府
1・4 ㊦村田平三郎、丹波教会園部会堂で因解伝道(〜7日)。丹波基督教会史		4・25 ㊦真宗興正寺大師堂で、同寺阿弥陀堂の新築奉告式挙行、讃岐の信徒1,200人参拝。中外 4・26
1・16 ㊦天理教婦人会河原町支部の第1回總會を河原町大教会で開催。河原町大教会史		4・26 ㊦岡田顯呈(富山県大法寺住職)、日蓮宗本山頂妙寺住職に就任。中外 5・4
1・30 ㊦鹿ヶ谷宗教大会分校生が孤児救済のため慈恵会を設立。中外 1・22		4・30 ㊦真宗大谷派の仏教僧俗大会を高倉大学寮で開催。宗報
2・25 ㊦浄土宗大本山清浄華院(寺町通広小路上ル)の御影堂(桁行12間2.7尺・梁行13間1.7尺)竣工(明22・4焼失したものを再建)。浄土教報 944、清浄華院誌要		4・一 ㊦乙訓郡長岡町柳谷揚谷寺観音講中2,500人が、粟生光明寺の法然700年忌に参拝。中外 4・11
3・1 ㊦知恩院で、法然700年忌法要修行(〜7日)。浄土教報 940、940		5・1 ㊦榊亮三郎、本派本願寺派仏教大学の梵語学教授に就任。中外 5・3
3・1 ㊦観喜部八幡町神応寺で、那智青岸渡寺の観音像を開帳(〜31日)。中外 1・25		5・7 ㊦宇治郡山科村の大般若転読会を村民が再興。中外 5・21
3・16 ㊦両派本願寺、第1期親鸞650年忌法要を修行(〜25日)。中外、本願寺史3		5・25 ㊦勝川相善(粟生光明寺住職)、浄土宗西山派管長に就任。同上
3・18 ㊦京都市内の慈善財団連合会、京阪神慈善財団同盟会に加盟(常任委員は京都救済院津田明庵・平安養育院笠長栄次郎)。		5・28 ㊦聖公会のパーティリッチ婦米のため送別会開催。聖公会京都地方部資料
3・26 ㊦相楽郡東和東村の金胎寺旧寺領山林返還される。中外 3・30		5・29 ㊦豊国神社豊国会が解散。豊国神社誌
3・29 ㊦本派本願寺慈善財団、京都市内の貧民に施米(〜30日)。29日は上京区内貧民2,500人に、30日は下京区内貧民2,500人に、1人1升ずつ。中外 3・31		5・一 ㊦本派本願寺京都婦人慈善教会・布教会館が六角堂前に竣工。中外 5・4、6・5
3・30 ㊦新京極の蛸薬師堂・西光寺・誠心院焼失。中外 4・1		6・10 ㊦聖公会会館で、婦人会がバザーを開催(純益金108円)。聖公会京都地方部資料
4・1 ㊦永観堂禅林寺御影堂立柱式。中外 4・3		6・11 ㊦カスパート、聖ヨハネ教会管理長老に就任。同上
4・1 ㊦天理教西陣分教会で、幻灯布教5周年記念大会開催。河原町大教会史		8・17 ㊦伏見稲荷神社で、山上神蹟参道改修中に古刀・鏡・金属製経筒など多数発見。稲荷年表
4・8 ㊦両派本願寺、第2期親鸞650年忌法要を修行(〜16日)。本願寺史3、中外		9・1 ㊦知恩院山内に華頂女学校を開校(法然700年忌記念事業として明9末寺会議で同校の設立を決定)。中外 5・1、知恩院史
4・10 ㊦高津柏樹(小倉市養徳院住職・東京盲啞院創立者)、黄檗宗管長に就任。中外 4・16		9・4 ㊦真宗大谷派、学校条例を定め学制を統一、真宗大谷大学・真宗中学を京都に設置することとする(10・13、真宗大学を、東京巣鴨から京都市高倉通魚棚上ルに移転、高倉大学寮を併合、真宗大谷大学として開校)。文部省告示232号、府庁文書 明44-59
4・10 ㊦大谷派本願寺の白書院・黒書院竣工(大阪の信徒戸田猶七の寄付による(15日勅使門竣工)。中外 4・13、17		9・17 ㊦聖公会聖マリア教会の会堂(レンガ造石板葺平屋、建坪62.3坪)竣工。建築費25,000円の大部分はカスパートが米国で募金。聖公会京都地方部資料
4・13 ㊦私立子守学校第2分教場、松陽院(猪熊五条下ル)に設立さる。中外 4・8		9・27 ㊦臨済宗大学(4年制)設立認可(花園学院高等部を昇格し中学部から分離)。☆花園大学
4・18 ㊦清浄華院で、法然700年忌法要を修行(〜25日)。中外 4・26		11・18 ㊦真言宗高野山西室院が、上京区岡崎最勝寺町に出張所を設立。府庁文書 明44-68
4・20 ㊦京都般若会第1回を光浄寺(堺町三条上ル)で開催(村上素道、「雪宝願禪師頌公則」を提唱)。中外 4・24		11・26 ㊦平安教会、創立35年記念礼拝式を行なう。平安基督教会略史
4・21 ㊦干菜山光福寺系六齋念仏講中200人・檀中400人が法然700年忌第2期法要修行中の知恩院へ、六齋念仏を奉納。中外 4・16		12・1 ㊦真言宗智山派密厳教会分教会所を上京区少将井町に設立。府通牒 明44-7123
4・23 ㊦鞍馬寺仁王門・楼門・勅使門竣工。中外 4・6、四明		
4・24 ㊦大谷学士会記念講演を京都市議事堂で開催(講師は南条文雄・近角常観・松本文三郎ら)。中外 4・25		

参 考				日 本	
府下宗教別人口					
宗教名	京都市	郡 部	計		
神	神 道	4,130	8,957	13,087	1・28 植村正久、幸徳秋水大逆事件の大石誠之助遺族慰安会を、富士見教会で挙行。
	金 光 教	1,545	736	2,281	2・1 幸徳秋水『基督抹殺論』刊行。
	天 理 教	3,556	5,400	8,956	2・1 徳富蘆花、第一高等学校の講演で、幸徳秋水らの処刑を批判。
	黒 住 教	673	1,871	2,544	2・3 島地黙雷(真宗本願寺派)没(74歳)。
	そ の 他	294	1,894	2,188	3・一 基督教青年会世界大会、トルコで開催(千葉勇五郎・小松武治が出席)。
小 計	10,198	18,858	29,056	4・8 鷲尾順敬ら、仏教史学会を設立し、『仏教史学』を創刊。	
仏	浄 土 宗	146,774	204,171	350,945	5・8 デフォレスト没。
	真 宗	175,220	106,979	282,199	6・20 日本基督教会、朝鮮人の教化と日本国民化を目ざし伝道に着手。
	禅 宗	35,669	301,292	336,961	6・24 仏教青年伝道会、浅草に伝道会館開堂式挙行。
	天 台 宗	5,976	10,944	16,920	6・一 聖公会系神学校、合同して聖公会神学院設立。芝罘町の仮校舎で授業開始。
	真 言 宗	10,591	61,851	72,442	7・16 ニコライ大司教来日50年祝典挙行。
日 蓮 宗	42,249	44,028	86,277	9・21 ヘボン没。	
そ の 他	820	4,364	5,184	11・13 高木壬太郎『基督教大辞典』刊行。	
小 計	417,299	733,629	1,150,928	11・15 総持寺(曹洞宗本山)、石川県鳳至郡櫛比村から神奈川県鶴見に移転。	
基 督 教	3,373	1,560	4,933	12・一 日本基督教会同盟結成(初代会長本多庸一)。	
そ の 他	4,077	5,004	9,081	この年 ▷ 内村鑑三、白雨会を結成(南原繁ら、門下生となる)。 ▷ 『平田篤胤全集』第1巻刊行。 ▷ 『神道叢説』刊行。 ▷ 社寺境内地下戻法案可決。	
計	434,947	759,051	1,193,998		

注 京都市は明44・11・1臨時人口調査結果から作成
郡部は大2・12末現在調べ
資料 府統計書 大2

京	都	府
1・5 ㊤四條寺町角の春長寺庫裡を移転。八坂神社御旅所を同寺境内に移転させるため(6・22竣工)。 中外 3・3、6・20		
1・19 ㊤キリスト教京阪神拡張伝道大講演会を市内組合教会の連合で開催(～21日)。19日は青年会館で講師は小崎弘道・海老名弾正、聴衆約1,000人。20日も青年会館で講師は綱島佳吉・宮川経輝、聴衆約1,000人。21日は平安教会で講師は加藤直士・西尾幸太郎、聴衆96人。 京都基督教会50年史、平安基督教会略史		
1・20 ㊤竜谷学会、『仏教講義録』創刊。 中外 1・5		
1・21 ㊤真宗大谷派婦人法話会第2部、少年教会を設立。 中外 1・25		
1・25 ㊤羽溪了諦・舟橋水哉・脇谷攝謙ら、京都帝大内に仏教研究会を設立、第1回講演会を開催。松本文三郎『禅法に就て』など。 中外 1・30		
1・26 ㊤粟生光明寺、光明寺婦人会設立(3・11、寺町五条下ル長講堂に京都支部設立)。 中外 1・24、3・19		
1・29 ㊤六大新報社、『真言』(月刊)創刊。 明治仏教新聞雑誌目録		
1・一 ㊤真宗大谷大学が新校舎設立敷地を鞍馬口室町頭に決定。 中外 1・5		
1・一 ㊤仁和教会成就講社(真言宗御室派)、仁和寺境内成就山に施浴薬湯場を開設。 六大新報 435		
2・11 ㊤真宗大谷大学本科・予科生41人、旧高倉大学寮教授吉谷覚寿ら6人の不信任書を提出し、同盟休校に突入(3・1、本科生99人・予科生102人を退学処分)。 府庁文書 明44-59、中外 3・8		
2・17 ㊤平安教会壮年会を結成、入会者約30人。発起人は中山親和・能勢安次郎・堀内徹・奥村吉之助・中山兎毛哉。 平安基督教会略史		
3・10 ㊤本派本願寺法主大谷光明、仏教大学学長事務取扱に就任。 中外 3・13		
3・15 ㊤立教女学院総理タッカー、 ⁽¹⁾ 聖公会京都地方部監督に就任(4・15、五条俱樂部で歓迎会開催)。聖公会100年史、聖公会京都地方部資料		
3・20 ㊤大谷派本願寺内に、真宗教育財団設立。		
4・1 ㊤京都市内の真宗大谷派僧侶が京都真宗教団設立。市内に21カ所の支部を設立し、法話を行なう。 中外 3・31、4・11		
4・3 ㊤乙訓郡長岡町柳谷楊谷寺奥の院観音堂竣工(間口6間・奥行5間半、総工費6万円)。 中外 3・28、4・5		
	4・15 ㊤真言宗連合布教所を東寺内に設立。所長は和田大円、宗教心理学・哲学・両部神道・日蓮教義・基督教義など講義。 中外 6・19	
	4・15 ㊤同志社大学授業開始(専門学校・神学校を合併、女学校高等部は同志社女学校専門部と改称、2・14設立認可)。 同志社90年小史	
	4・20 ㊤東山中学校、最初の入学式宣誓式(浄土宗第五教区財団解散し、3・27東山中学校設立認可、第五教区を改組)。 東山学園100年史	
	4・24 ㊤本派本願寺、葛野郡嵯峨町大字天竜寺に嵐山説教所を設立。 府指令 明45-2632、中外 5・3	
	5・9 ㊤浄土宗の私立尼衆学校設立認可(浄土宗第五教区付属尼衆教場が分離独立。10・14開校式)。 東山学園100年史	
	5・13 ㊤浄土宗宗教大学分校の4・31限り廃校および私立高等学院の5・1開校認可。 文部省告示147号	
	5・26 ㊤久米聞誓、伏見東本願寺別院で、伏見教団を設立。 中外 5・29	
	5・27 ㊤佐伯法遵(真言宗小野派管長)没。	
	6・16 ㊤蓮弘鑑没。	
	6・20 ㊤日本基督共励会の野外伝道運動は天皇病気のため、御平癒祈禱会に変更(21日、京都市内の25教会合同の御平癒祈禱会を、京都教会で行なう、参会者約200人)。 日出 7・14	
	6・一 ㊤旧宗教大学分校学生、浄土宗の学制改正に反対し、同盟休校に突入。中外 6・5、24	
	6・一 ㊤真言宗連合京都大学而真会、『密教講演』創刊(大2・7、『有声』と合併し、『密宗学報』と改題)。	
	7・6 ㊤聖公会京都聖三一教会に、男子会を結成。 聖公会京都地方部資料	
	7・12 ㊤伏見稲荷神社下社内陣の長押から経筒発見(刻名「永正17年8月願主寶聚庵祖俊」とあり、法華経8巻を内蔵)。 稲荷年表	
	7・17 ㊤真宗仏光寺に同寺派の布教と私立真宗学院の維持のため真宗仏光寺派護法会財団を設立。 仏教年鑑 昭6	
	7・20 ㊤京都市内各神社で、天皇の病氣平癒祈禱を行なう(20日は上下御霊神社、21日は神宮奉斎会、23日は白雲神社など)。 日出 7・24	
	7・一 ㊤加佐郡内各宗寺院住職、舞鶴町円隆寺内に加佐仏教団を設立。社会風儀改善を目的とする(大2・4、曹洞宗寺院離脱)。	
	8・3 ㊤本派本願寺本山・共保護持会財団・仏教大学など、消費組合を設立(9月開業)。 中外 8・5、7	

参	考	日	本
(1) タッカー (Henry Tucker) : 1874～1958。米國聖公会宣教師として、明32(1899)来日。仙台・弘前で伝道。同36(1903)、立教学院総理に就任。立教大学の設置、池袋への移転などに尽力。のち京都に伝道し、大12(1923)帰米。		1・27	ユニテリアン教会、統一基督教会と改称の披露会を開催、積極的な活動を開始(明44・12改称)。
		2・16	ニコライ(日本ハリストス正教会大主教)没(76歳)。
		2・25	内相原敬、宗教を国家目的にそわせるため、神・仏・基の代表と懇談会を開催(～2・26。三教会同)。
		5・25	仏書刊行会『大日本仏教全書』(～大11・10・25、160巻完結)刊行。
		6・一	日蓮宗富士派(大石寺派)、日蓮正宗と改称。
		6・一	渋谷栄一・姉崎正治・成瀬仁蔵ら、帰一協会結成、三教会同を推進。
		7・30	明治天皇没、61歳。皇太子嘉仁踐祚、大正と改元。
		9・13	明治天皇大葬のこの日を待って、乃木大将夫妻殉死(是非の世論わく)。
		10・20	寛克彦『古神道大義』刊行。
		10・一	金田徳光、徳光教開教。
		10・一	乃木大将の殉死の評価につき、加藤弘之・新渡戸稲造・東条英教・石川半山ら、『中央公論』で論争。
		この年	▷ 明治神社誌料編纂所『明治神社誌料』(3巻)刊行。
			▷ 本多庸一没。
			▷ ブース(救世軍)没。
			▷ 救世軍病院設立。
			▷ 高木敏雄『日本建国神話』刊行。
↗	10・5 ㊤本門法華宗妙本寺教会所、下京区下提町に設立。 府通牒 大1-1155		
	10・5 ㊤第28回日本組合基督教会総会を京都青年会館で開催(～9日)、日本基督伝道会を日本組合基督教会伝道部と改称。同総会中に平信徒有志会が開催され、平信徒伝道団結成。 京都基督教会50年史		
	10・25 ㊤岡田戒玉(醍醐寺塔頭岳西院)、相楽郡笠置村に真言宗醍醐教会笠置分教会設立。 府庁文書 大2-59		
	10・一 ㊤与謝郡内各宗寺院住職、宮津本妙寺内に出獄人保護のため、丹後恵済会設立。何鹿郡でも、中筋村隠竜寺内に仏教同盟会設立。 中外 12・9		
	11・一 ㊤南桑田郡内各宗寺院住職、出獄人保護のため、南桑鴻恩会設立。12月には北桑田郡に北桑仏教道済会設立。 同上		
	12・一 ㊤天理教京都研究会を河原町大教会に結成。 河原町大教会史		